

きべりはむし

第26巻 第2号



1998年11月

兵庫昆虫同好会

キベリハムシ
S.K.

兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(2)^{*}

高橋 寿郎

38. 山本義丸(1954) 氷ノ山の昆虫

Natura(11): 7-9.

次のゾウムシ類の記録あり(和名のみ).

35. ムツモンミツギリゾウムシ. 36. オジロヒゲナガゾウムシ=シリジロヒゲナガゾウムシ. 37. クロオビヒゲナガゾウムシ. 38. ヒゲナガオトシブミ.

39. 近畿甲虫同好会編(1955) 原色日本昆虫図鑑. 甲虫編. 増補改訂版(保育社・大阪)(担当 伊賀正汎).

次の図説あり.

pl.61, f.1352, p.196. ウスモンツツヒゲナガゾウムシ *Ozotomerus japonicus* Sharp 1947.VI.兵庫県村岡.

f.1356. タマカイガラヒゲナガゾウムシ *Anthribus kuwanai* Yuasa 1945.V.兵庫県笹部.

f.1357. ワタミヒゲナガゾウムシ *Aracerus fasciculatus* De Geer 1948.VI.兵庫県村岡.

pl.62, p.198, f.1376. オオゴボウゾウムシ

Larinus griseopilosus Roelofs=*L. megaris* Petri
上記学名だとシラクモゴボウゾウムシになる.
1948.VI.氷の山.

pl.62, p.201, f.1403. ヒゲナガオトシブミ

Paratrachelophorus longicornis Roelofs 1948.VI.氷の山.

40. 大槻孝司(1957) 氷の山妙見山の昆虫

Natura(14): 41-45.

次のゾウムシ類の記録あり(和名のみ, データ無し).

42. ヒゲナガオトシブミ. 43. アシナガオトシブミ.

44. カシルリオトシブミ.

41. 岡本大二郎・安部凱裕(1957) 姫路地方のイネゾウムシ

日本応用動物昆虫学会誌 1(4): 274-275.

表題のごとく姫路地方でのイネゾウムシの生活史, 冬, 春期における棲息密度の推移, 稲の被害状

況, 幼虫及び蛹の死亡率と土壤水分の関係, 稲の播種, 移植期と被害の関係等について述べられている.

42. 山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録

氷上の自然 第3集 Natura 特別号 A5,
134p. (ref. p. 72-102).

甲虫類は71科833種記録されており, ゾウムシ類は次のように記録されている.

p.100. ヒゲナガゾウムシ科7種. ナガアシヒゲナガゾウムシ, クロフヒゲナガゾウムシ, アカミヒゲナガゾウムシ, ウスモンツツヒゲナガゾウムシ, セマルヒゲナガゾウムシ, タマカイガラゾウムシ *Brachylarvus*=*Anthribus*, ワタミヒゲナガゾウムシ.

オトシブミ科11種. ゴマダラオトシブミ, ヒメゴマダラオトシブミ,

p.101. ヒメコブオトシブミ, オトシブミ, ウスモンオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ, ルイスアシナガオトシブミ=リュイスアシナガオトシブミ, アシナガオトシブミ, カシルリオトシブミ.

チョッキリゾウムシ科5種. ドロハマキチョッキリ *Byctiscus regalis* Roelofs=*Byctiscus* (*Byctiscus*) *puberulus* (Motschulsky, 1860), ファウストハマキチョッキリ, クチナガチョッキリ, ブドウハマキチョッキリ *Aspidobyctiscus*=*Byctiscus* (*Aspidobyctiscus*).

ホソクチゾウムシ科1種. マメホソクチゾウムシ. ゾウムシ科44種. リンゴコフキゾウムシ, ヒラズネヒゲボソゾウムシ, コフキゾウムシ, マツトビゾウムシ, アオヒゲナガゾウムシ, クロホシクチブトゾウムシ, スグリゾウムシ, カキゾウムシ, コシロコブゾウムシ *Dermatoxenus caesicollis* Gyllenhal, ヒメシロコブゾウムシ *D. nodosus* Motschulsky は学名から見た限り両者同一種でヒメシロコブゾウムシ *D. caesicollis* (Gyllenhal, 1833) になる. シロコブゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, オオゴボウゾウムシ *Larinus griseopilosus* Roelofs

^{*} 兵庫県甲虫相資料・344

学名からすればシラクモゴボウゾウムシ、ゴボウゾウムシ、シラクモゴボウゾウムシ *Larinus formosus* = *L. griseopilosus*, フタキボシゾウムシ、マツアナアキゾウムシ、フレイアナアキゾウムシ *Hylobius freyi* Zumpt = クリアアナアキゾウムシ *Dyscerus exsculptus* (Roelofs, 1875).

- p.102. コクロアナアキゾウムシ *Hybobiatus cribratus* = *Dyscerus cribratus*, マツキボシゾウムシ、オオシロオビゾウムシ、オオゾウムシ *Sipahus hypocrita* = *S. gigas* (Fabricius), コクゾウムシ *Sitophilus oryzae* = *S. zeamais* Motschulsky, コクゾウ *S. sasakii* Takahashi = *S. oryzae* (Linnaeus, 1796), トホシオサゾウムシ, 以上5種はオサゾウムシ科。クロキボシゾウ, イチゴハナゾウムシ, イネゾウムシ, カシアシナガゾウムシ *Alcides piceus* = *Mecysolobus*, オジロアシナガゾウムシ *Alcidodes trifidus* = *Mesalcidodes*, モンチビゾウムシ, マツシラホシゾウムシ *Cryptorhynchidius insidious* = マツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo insidiosus*, マダラメカクシゾウムシ, マダラアシゾウムシ, クリシギゾウムシ *Curculio dentipes* この学名はコナラシギゾウムシになる。ミヤマシギゾウムシ, ムシクサゾウムシ = ムシクサコバンゾウムシ, クロタマゾウムシ, オオノミゾウムシ *Rhynchaenus japonicus* Fustache = *R. japonicus* (Hustache), カシワノミゾウムシ, ヒメクロヒラタゾウムシ = カグヤヒメクイゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ *Alcidodes flavosignatus* = *Mecysolobus*.

43. 氷の山調査団(1958) 氷の山の昆虫及び植物。
Natura(15): 17-19.

柏原高校生物研究会が1958年7月に4回目の氷の山生物調査を実施した。その結果をまとめたもので、次のゾウムシ類が記録されている。

ムツモンオトシブミ, オトシブミ, ヒメコブオトシブミ, フタモンアシナガオトシブミ = アシナガオトシブミ, オジロアシナガゾウムシ, カツオゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, マツノシラホシゾウムシ, オオゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒラズネヒゲホソゾウムシ, ブドウハマキチョッキリ。

44. 堀田 久(1959) 淡路島産甲虫目録(2)。
兵庫生物 3(5): 376-378.

28科87種記録されており、ゾウムシ科として7種が記録されている。

シロコブゾウムシ, ゴボウゾウムシ, オオゾウムシ, クロキボシゾウムシ, トホシオサゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, ツバキシギゾウムシ。

45. 高橋 匡(1959) 氷の山の甲虫。

Natura(16): 28-42.

柏原高校生物班が5年間(1955~1959)(毎年7月下旬~8月上旬3泊4日の調査)に実施した調査で得られた甲虫類44科279種の記録である。

ゾウムシ類は次のごとく記録されている。

ヒゲナガゾウムシ科3種。キマダラヒゲナガゾウムシ, カオジロヒゲナガゾウムシ, クロオビヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科10種。ヒメゴマダラオトシブミ, ヒメコブオトシブミ, オトシブミ, ウスモンオトシブミ, ウスアカオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ムツモンオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ, アシナガオトシブミ。

チョッキリゾウムシ科4種。イタヤハマキチョッキリ, クチナガチョッキリ, チャイロチョッキリ, ブドウハマキチョッキリ。

ミツギリゾウムシ科1種。ムツモンミツギリゾウムシ。

ゾウムシ科12種。カシアシナガゾウムシ, ヒラズネヒゲボソゾウムシ, リンゴコフキゾウムシ, シロコブゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, フタキボシゾウムシ, フレイアナアキゾウムシ *Hylobius freyi* Zumpt = クリアアナアキゾウムシ *Dyscerus exsculptus* (Roelofs, 1875), オサゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ *Alcidodes trifidus* = *Mesalcidodes*, マツシラホシゾウムシ = マツノシラホシゾウムシ, シロホシヒメゾウムシ *Baris reini* = シラホシヒメゾウムシ *B. dispilata* (Solsky)。

46. 村上雅昭(1959) 蘇武・静川・妙見の昆虫。

Natura(16): 48-51.

柏原高校生物研究会が1959年5月3日より3日間表記地域での調査結果をまとめたもの。次のゾウムシ類の記録が含まれている。

ゾウムシ科6種。カシアシナガゾウムシ, オジロ

アシナガゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, リンゴコフキゾウムシ, フタキボシゾウムシ, イチゴハナゾウムシ.

オトシブミ・チョッキリゾウムシ科 8 種. ヒゲナガオトシブミ, イタヤハマキチョッキリ, ヒメクロオトシブミ, ヤドカリチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ, オトシブミ, ムツモンオトシブミ, アシナガオトシブミ.

47. Morimoto, K. (1959) On the Genus *Miarus* Stephen from Japan (Col., Curculionidae, Gymnetrinae).

Kontyu 27(3) : 190-195.

日本産 *Miarus* 属ゾウムシの研究で 2 新種の記載を含む兵庫県の記録が次のごとくある.

p.191-192. *Miarus kobanzo* Kōno オオコバンゾウムシ Mayasan, 1♂, 1♀, 17.VI, 1951, Y.Wada leg.

48. 鈴木清明 (1960) 扇ノ山のゾウムシ類

兵庫農科大学生物研究部々誌 (1) : 18-20.

扇ノ山産ゾウムシ類の目録である。データはついていないが 1958~1960 年の 3 年間 7 月中~下旬に実施されたもののようである。分類の方法が若干違っている。ここでは現在の分類法によった。ミツギリゾウムシ科 1 種。ムツモンミツギリゾウムシ.

ヒゲナガゾウムシ科 5 種. クロヒゲナガゾウムシ=クロオビヒゲナガゾウムシ, ナガアシヒゲナガゾウムシ=アシナガヒゲナガゾウムシ, チャマダラヒゲナガゾウムシ, *Tropideres latirostris*=*Acorynus*. キノコヒゲナガゾウムシ *Cacco-rhinus oculatus*=*Euparis*, マダラヒゲナガゾウムシ.

チョッキリゾウムシ科 4 種. ドロハマキチョッキリ, ファウストハマキチョッキリ, チャイロチョッキリ, クチナガチョッキリ *Rhynchites*=*Involvus*.

オトシブミ科 6 種. ムツモンオトシブミ, ウスアカオトシブミ, セアカヒメオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ゴマダラオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ.

ゾウムシ科 13 種. リンゴコフキゾウムシ, コフキゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, サビマルクチブトゾウムシ=サビマルクチゾウムシ, カツオゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, フレイア

ナアキゾウムシ *Hylobius freyi* Zumpt=クリアナアキゾウムシ *Dyscerus exsculptus* (Roelofs, 1875), ナガアナアキゾウムシ *Hylobius laeviventris*=*Dyscerus*, コクロアナアキゾウムシ *Hylobius cribratus* Roelofs=オリーブアナアキゾウムシ *Dyscerus perforatus* (Roelofs, 1873), クロコブゾウムシ, シラホシヒメゾウムシ *Barisreinii* Roelofs=*B. dispilota* (Solsky), マダラメカクシゾウムシ, フトカツオゾウムシ=ツツゾウムシ.

オサゾウムシ科 1 種. オオゾウムシ.

49. 村上雅昭 (1960) 扇ノ山の甲虫

Natura (17) : 33-35.

1959 年 7 月 26-30 日間, 扇ノ山で甲虫採集調査を実施した結果をまとめたものである。ゾウムシ類は次のとおり記録されている(和名のみである)。ゾウムシ科 5 種. アズキゾウムシ……学名がないのでこの和名ではよくわからない。アズキマメゾウムシのことかもしれない, リンゴコフキゾウムシ, イチゴハナゾウムシ, オオゾウムシ, マルヒョウタンゾウムシ, ヒョウタンゾウムシの 1 種, カツオゾウムシの 1 種.

オトシブミ科 4 種. カシルリオトシブミ, ヒゲナガオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ウスアカオトシブミ.

50. 高橋 匡 (1960) 氷上郡昆虫目録追加(第 1 報) Natura (17) : 100-105.

次の記録がある。ハイイロチョッキリ(チョッキリゾウムシ科), マルヒョウタンゾウムシ.

51. Hustache, A. (1961) Synopsis des Ceuthorrhynchini du Japon.

Ann. Soc. Ent. France LXXXV : 107-144.

日本産サルゾウムシ亜科の分類学的研究であり, 22 新種, 1 新変種の記載が含まれている。p.113 に G.Lewis が Kobe で採集された標本に基づき *Phytobius quadricornis* Gyll. var. *Roelofsi* Hustache と新変種を記載されている。現在では *Phytobius quadricornis roelofsi* Hustache マルマメゾウムシの亜種に取り扱われている。

52. 鈴木清明 (1961) 多紀郡のぞうむし類

兵庫農科大学生物研究部々誌 (2) : 43-44.

表記のごとく多紀郡下で得られたゾウムシ類の

目録であるが、採集データが全く入っていない。分類法も若干現在と違っている。

ヒゲナガゾウムシ科 1 種。セマルヒゲナガゾウ。

オトシブミ科 13 種。ハギツルクビオトシブミ=エゴツルクビオトシブミ、アカクビナガオトシブミ、ゴマダラオトシブミ、ヒメコブオトシブミ、オトシブミ、セアカヒメオトシブミ、ヒメクロオトシブミ、ヒゲナガオトシブミ、ルイスアシナガオトシブミ=リュイスアシナガオトシブミ、アシナガオトシブミ、カシルリオトシブミ、コブルリオトシブミ。

チョッキリゾウムシ科 4 種。イタヤハマキチョッキリ、ファウストハマキチョッキリ、クチナガチョッキリ、シリプトチョッキリ。

ゾウムシ科 38 種(オサゾウムシ科 3 種を含む)。リンゴコフキゾウムシ、コフキゾウムシ、マツノトビゾウムシ、アオヒゲナガゾウムシ、ミヤマヒゲボソゾウムシ、クロホシクチプトゾウムシ、カシワクチプトゾウムシ、スグリゾウムシ、カキゾウムシ、コシロコブゾウムシ=ヒメシロコブゾウムシ、ヒメシロコビゾウムシ=ウスヒョウタンゾウムシ、シロコブゾウムシ、ハスジカツオゾウムシ、カツオゾウムシ、フタキボシゾウムシ、マツアナアキゾウムシ、フレイアナアキゾウムシ=クリアアナアキゾウムシ、オオアオゾウムシ、クロコブゾウムシ、アカコブゾウムシ、コクロアナアキゾウムシ、ナガアナアキゾウムシ、マツキボシゾウムシ、オオゾウムシ、ココクゾウムシ、トホシオサゾウムシ、シロオビアカアシナガゾウムシ、イチゴハナゾウムシ、イネゾウムシ、カシアシナガゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、ホホジロアシナガゾウムシ、マツシラホシゾウムシ *Cryptorhynchidius insidious*=マツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo insidiosus* (Roelofs)、マダラメカクシゾウムシ、マダラアシゾウムシ、ミヤマシギゾウムシ、エゴシギゾウムシ *Curculio shigizo*=コナラシギゾウムシ *Curculio dentipes* (Roelofs, 1874)。

53. 足立 勲(1961) 扇ノ山採集記

Natura (18) : 29-35.

1961年7月25~28日の間、柏原高校生物研究会扇ノ山5カ年生物調査の2年目の調査結果をまとめたもので、最後に採集品リストが示されている。但し和名だけである。ゾウムシ関係は次のよう

に記録されている。

ヒゲナガゾウムシ科。ヒゲナガゾウムシ(種名不明)、マダラフトヒゲナガゾウムシ。

オトシブミ科 4 種。ヒメコブオトシブミ、ヒゲナガオトシブミ、ヒメクロオトシブミ、カシルリオトシブミ。

チョッキリゾウムシ科 1 種。イタヤハマキチョッキリ。

ゾウムシ科 3 種。ミドリクチプトゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシ、シロオビヒメゾウムシ(学名がないのでよくわからない)。

54. 高橋 匡(1961) 永上郡昆虫目録追加(第2報) *Natura* (18) : 66-74.

ゾウムシ類は次のとおり(p.71-73)(全部中條道夫博士同定)。

チョッキリゾウムシ科 2 種。コナライクビチョッキリ、クロケシツブチョッキリ。

ゾウムシ科 24 種(うちチョッキリゾウムシ科 2 種を含む)。ウスグロアシプトゾウムシ、ツバキシギゾウムシ、サビクチヒロゾウムシ=サビクチプトゾウムシ、キイチゴトゲサルゾウムシ、*Bagous dipunctatus* (Kono)?、クロコブゾウムシ、アシナガオニゾウムシ、ヒメゾウムシ=クワヒメゾウムシ、レロフチビシギゾウムシ、ウスモンシギゾウムシ、*Curculio minimus* (Kono)?、タデノシラフクチプトゾウムシ=タデノクチプトサルゾウムシ、クリイロクチプトゾウムシ、カシワクチプトゾウムシ、ハコベタコゾウムシ、マダラノミゾウムシ、ギシギシクチプトゾウムシ=ギシギシクチプトサルゾウムシ、ヒメケバカチョッキリ(チョッキリゾウムシ科)、アオバネサルゾウムシ、ウスモンカレキゾウムシ、アカイネゾウムシ=アカイネゾウムシモドキ、シロオビアカアシナガゾウムシ、*Auletobius testaceus* (Roelofs)=*A. (Parauletes) fumigatus* (Roelofs, 1874)、チャイロケシツブチョッキリ=コクロケシツブチョッキリ、ミヤマタマゴゾウムシ。

55. 中條道夫・高橋寿郎(1961) 兵庫県産ゾウムシ類。

MIKADO 1(2) : 17-26.

筆者が兵庫県下で採集したゾウムシ類をまとめたもので、同定は中條道夫博士による。全部に採集データ付き。

チョッキリゾウムシ科9種。チャイロチョッキリ、ブドウハマキチョッキリ、ファウストハマキチョッキリ、ベニホシハマキチョッキリ=ドロハマキチョッキリ、イタヤハマキチョッキリ、クロゲルリチョッキリ=カシルリチョッキリ、コナライクビチョッキリ、オオケブカチョッキリ、ヒメケブカチョッキリ。

オトシブミ科15種。ウスモンオトシブミ、アカハラヒメオトシブミ=ヒメクロオトシブミ、セアカヒメオトシブミ、オトシブミ、ムツモンオトシブミ、アカクビナガオトシブミ、ヒゲナガオトシブミ、ゴマダラオトシブミ、ヒメゴマダラオトシブミ、ヒメコブオトシブミ、ハギルリオトシブミ、ケシルリオトシブミ、ルリオトシブミ、カシルリオトシブミ、ルイスアシナガオトシブミ。

ホソクチゾウムシ科2種。ヒメケブカホソクチゾウムシ、マメホソクチゾウムシ *Conapion* (*Pseudopiezotrachelus*) *collare* (Schilsky, 1906) = *Apion collare* Schilsky。

ゾウムシ科58種(オサゾウムシ科3種を含む)。トゲアシゾウムシ、シロコブゾウムシ、クリイロクチブトゾウムシ、ケブカクチブトゾウムシ、カシワクチブトゾウムシ、クロホシクチブトゾウムシ、オオツカクチブトゾウムシ、オオクチブトゾウムシ、ミドリクチブトゾウムシ、ミヤマヒゲボソゾウムシ、リングコフキゾウムシ、コヒゲボソゾウムシ、キンヒゲボソゾウムシ=キューシュウヒゲボソゾウムシ、マルヒョウタンゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシ、コフキゾウムシ、ヤサイゾウムシ、ハコベタコゾウムシ、オオゴボウゾウムシ、ハスジカツオゾウムシ、ナガカツオゾウムシ、カツオゾウムシ、アイノカツオゾウムシ、ツツゾウムシ、マツキボシゾウムシ、ホホジロアシナガゾウムシ、カシアシナガゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、マツアアナキゾウムシ、ホリアアナキゾウムシ、モンキアナキゾウムシ *Hylobius exsculptus*=クリアナキゾウムシ *Dyscerus exsculptus*、アカコブコブゾウムシ、ミヤマタマゴゾウムシ、ヒメクロカレキゾウムシ=アトジロカレキゾウムシ、シロオビカレキゾウムシ=マダラカレキゾウムシ、クリノクチカクシゾウム *Coelosternus electus*=マダラクチカクシゾウム *Cryptorhynchus*、アカクチカクシゾウム *Cryptorhynchus rufescens*

(Roelofs, 1875)=ハスジカクシゾウムシ *Crypterrhynchus fasciculatus* (Roelofs, 1875)、マダラアシゾウムシ、アシナガオニゾウムシ、マダラメカクシゾウム、オオクチカクシゾウム、ヒラセクモゾウム、アルマントゲサルゾウムシ *Ceuthorrhynchus harmandi*=*Magnerinus*、アカセスジサルゾウムシ=ツツジトゲムネサルゾウムシ、レロフヨツカドサルゾウムシ=マルマメサルゾウムシ、キボシヒメゾウムシ=シラホシヒメゾウムシ、ナツグミシギゾウムシ、セダカシギゾウムシ、レロフチビシギゾウムシ、ウスイロシギゾウムシ=コナラシギゾウムシ、イチゴハナゾウムシ、リンゴノミゾウム *Rhamphus pullus* Hustache, 1920 = *R. pulicarius* (Herbust, 1795)、ケブカゾウムシ=ヤドリノミゾウムシ、ムネスジノミゾウムシ、アカイネゾウムシ=アカイネゾウムシ。

オサゾウムシ科3種。トホシオサゾウムシ、オオシロオビゾウムシ、オオゾウムシ。

56. 関 公一(1962) 昆虫生態写真 昆虫界 15(127): 7-8.

神戸市内で撮影のゾウムシの写真が示されている。p.7, シロコブゾウムシ 神戸市ヘルマン山, p.8, オジロアシナガゾウムシ 神戸市本山町。

57. 長田高校生物研究会甲虫班(1962) 六甲山系 甲虫類目録(II)。

Shida (10): 11-12.

次のようにゾウムシ類の記録がある。採集データはついているが和名だけである。全部神戸市内産。

ゾウムシ科16種(オサゾウムシ科のものも含む)。ハスジカツオゾウムシ、ゴボウゾウムシ、オオゾウムシ、マツキボシゾウムシ、トホシオサゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、コナラシギゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシ、カツオゾウムシ、クロホシクチブトゾウムシ、ウスモンカレキゾウムシ、マツアアナキゾウムシ、キスジアシナガゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、マダラアシナガゾウムシ、マツシラホシゾウムシ。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科のものも含む)。ゴマダラオトシブミ、ヒメクロオトシブミ、オトシブミ、アシナガオトシブミ、カシルリオトシブミ、イタヤハマキチョッキリ、クチ

ナガチョッキリ, モモチョッキリ,

58. 山本義丸・高橋 匡(1962) 氷上郡昆虫目録
追補(第1集)

1958年に発表された「氷上郡昆虫目録」に追加してここに2科213種が記録されている。その中でゾウムシ類が次のように含まれている。

ヒゲナガゾウムシ科1種, シロヒゲナガゾウムシ, オトシブミ科1種, セアカヒメオトシブミ,

チョッキリゾウムシ科4種, ハイイロチョッキリ, コナライクビチョッキリ, クロケシツブチョッキリ, イタヤハマキチョッキリ,

ゾウムシ科26種, マルヒョウタンゾウムシ,

Cryptorrhynchus obscurus Roelofs?, ツバキシギゾウムシ, サビクチビロゾウムシ=サビクチブトゾウムシ, キイチゴトゲサルゾウムシ, カギアシゾウムシ, クロコブゾウムシ, アシナガゾウムシ, *Barinae*?, ヒメゾウムシ=クワヒメゾウムシ, レロフチビシギゾウムシ, ウスモンシギゾウムシ, タデノシラフクチブトゾウムシ=タデノクチブトサルゾウムシ, クリイロクチブトゾウムシ, カシワクチブトゾウムシ, ハコベタコゾウムシ, マダラノミゾウムシ, *Rhinoncus jakovlevi* Faust ギシギシクチブトゾウムシ, *Ceuthorrhynchus ibukianus* Hustache アオバネサルゾウムシ, ウスモンカレキゾウムシ, アカイネゾウムシ=アカイネウモドキ, シロオビアシナガゾウムシ, ミヤマタマゴゾウムシ,

59. 山本茂信(1962) 妙見山資料館奉納: 妙見山昆虫採集目録.

養父郡八鹿町石原妙見山で採集された昆虫類の目録で, 採集は豊岡高等学校生物班による。次のゾウムシ類が記録されている。

イタヤハマキチョッキリ, ヒメコブオトシブミ, オオゾウムシ, クロコブゾウムシ,

60. Konishi, M. (1963) On the Japanese species of the Genus *Dryophthorus* Schönherr, with description of two new Species (Coleoptera, Curculionidae).

Ins. Mats., 25(2): 124-128.

日本産 *Dryophthorus* 属キクイゾウムシについての研究で, 2新種の記載があるがうち1新種は筆者採集の兵庫県産の標本も含まれる。

即ち, *Dryophthorus japonicus* Konishi lex., Nunobiki(神戸・布引) 17.V.1959, T.Takahashi leg., スギクイサビゾウムシ,

61. 辻 啓介(1963) 但馬属ノ山甲虫目録(1)

兵庫農科大学生物研究部々誌(3): 24-47.

兵庫農科大学学生による5年間にわたる属ノ山の甲虫調査の結果をまとめたものであり, 此処に48科294種と中根猛彦博士が属ノ山で採集した甲虫13科28種も同時に収録されている。ゾウムシ類は次のごとく記録されている。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)7種,

ヤドカリチョッキリ, イタヤハマキチョッキリ, ハギツルクビオトシブミ=エゴツルクビオトシブミ, アカクビナガオトシブミ, ビロウドアシナガオトシブミ=ビロウドハマキチョッキリ, ヒメコブオトシブミ, カシルリオトシブミ, ヒゲナガゾウムシ科2種, カオジロヒゲナガゾウムシ, シリジロヒゲナガゾウ,

ムシ科12種, アカヒョウタンゾウ, 総目録(1989)によると此処に示された *Catapionus angusticollis* (Motschulsky, 1866) は和名なく, 分布は日本とのみで属についても疑問符がついているよくわからない種である。

ミヤマシギゾウ, ゴボウゾウ, オジロアシナガゾウ, ホホジロアシナガゾウ, キスジアシナガゾウ, イチゴハナゾウ, マツシラホシゾウ *Cryptorrhynchidius insidiosus*=マツノシラホシゾウムシ *Shirahoshizo insidiosus*, マルヒョウタンゾウ, フタキホシゾウムシ?, マツアナアキゾウムシ, ヤクアナアキゾウ?,

62. 高橋 匡(1963) 出石郡昆虫目録(第一報)

VITA(兵庫県立出石高等学校科学部生物班会誌)(1): 1-34.

次のようにゾウムシ類の記録がある。

オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)6種,

ヒメケブカチョッキリ, ルイスアシナガオトシブミ=リュイスアシナガオトシブミ, ヒメコブオトシブミ, オトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ウスモンオトシブミ,

ミツギリゾウムシ科1種, ミツギリゾウムシ,

ゾウムシ科29種, リンゴコフキゾウムシ, オオクチブトゾウムシ, コカシワクチブトゾウムシ, アオヒゲナガゾウムシ, シロコブゾウムシ, ヒ

メシロコブゾウムシ, カギアシゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, シラクモゴボウゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, ホホジロアシナガゾウムシ, キスジアシナガゾウムシ, カシアシナガゾウムシ, マツアナアキゾウムシ, ガロアアナアキゾウムシ, フライアナアキゾウムシ *Hylobius freyi* Zumpt=クリアナアキゾウムシ *Dyscerus exsculptus* (Roelofs, 1875), チュウジョウアナアキゾウムシ, ウスモンカレキゾウムシ, ホソクチカクシゾウムシ, クロクチブトサルゾウムシ, マツシラホシゾウムシ=マツノシラホシゾウムシ, トゲアシゾウムシ, ケナガスグリゾウムシ, ヒゲナガホソクチゾウムシ, ツバキシギゾウムシ, クリシギゾウムシ, イネゾウムシ, マツオオキクイゾウムシ.
オサゾウムシ科 5 種. オオゾウムシ, ココクゾウムシ, コクゾウムシ, グラナリアコクゾウムシ?, トホシオサゾウムシ.

63. 妙見山資料館(1963) 妙見山生物資料館報(第2号)
オオゾウムシがゾウムシ類では記録されている。

64. 妙見山資料館(1964) 妙見山資料館報(第3報)
イタヤハマキチョッキリ, ヒメコブオトシブミ, オオゾウムシの3種が妙見山産甲虫として記録されている。

65. 高橋 匡(1965) 出石郡昆虫目録(第2報)
VITA (2): 1-6.
甲虫類は18科51種記録されている。ゾウムシ類は次のように記録されている。
セアカチョッキリ, ムツモンオトシブミ, フライアナアキゾウ=クリアナアキゾウムシ, フタキボシゾウムシ, マメホソクチゾウムシ。

66. 西脇自然同好会昆虫班(1965) 西脇・多可・八千代昆虫目録。
西脇自然同好会々報 1(1): 50-58.
17科150種記録されている。データはついているが和名だけである。ゾウムシ類の記録は次のとおりである。
コフキゾウムシ, ヒメシロコブゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, カツオゾウムシ, マツキボ

シゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, コナラシギゾウムシ, ヒメコブオトシブミ, オトシブミ, ウスアカオトシブミ, ヒメクロオトシブミ, ハギツルクビオトシブミ=ハギルリオトシブミ, モモチョッキリ。

67. 高橋 匡(1966) 扇ノ山の昆虫(特に甲虫について)。
Natura (23): 14.
次のゾウムシの記録が含まれる。
ナガカツオゾウムシ, オオクチカクシゾウムシ。

68. Shibata, T. (1969) Studies on Japanese Anthribidae, III (Coleoptera).
Entom. Rev. Japan 22(1): 9-31, pl. 2-4.
p. 28-30. *Enedreytes gotoi* Shibata, チビクチボソヒゲナガゾウムシ, Sasabe, Nose Hyogo Pref. なる新種記載あり。

68. 仲井啓郎(1969) 氷上郡における栗園の昆虫相。
兵庫生物 6(1): 65-72.

氷上郡青垣町佐治の45アールの栗園で1967年4月から1967年12月までの間, 28回採集調査をした結果, 昆虫類9目62科131種がまとめられている。ゾウムシ類は次のように記録がある。

オトシブミ, チャイロチョッキリ, ゴマダラオトシブミ, クロホソチョッキリ, クチブトチョッキリ, マルムネチョッキリ, シリブトチョッキリ, コナライクビチョッキリ, クリシギゾウムシ, クロホシクチブトゾウムシ, オオクチブトゾウムシ, カシワクチブトゾウムシ。

70. 佐々木基之(1969) 甲陵中学校付近の甲虫類。甲陵生物 (4): 8-14.

甲陵中学校(西宮市上甲東園)付近で採集した29科156種の目録。和名とデータはついていないが各種の状況説明がついている。ゾウムシ類は次のとおり記録されている。

シロコブゾウムシ, ハスジカツオゾウムシ, オオゾウムシ, オジロアシナガゾウムシ, イネゾウムシ, マツシラホシゾウムシ, トホシオサゾウムシ, ヒメクロオトシブミ, カシルリオトシブミ, ヤドカリチョッキリ, モモチョッキリ。
(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町 1-44)

兵庫県のタマムシ(2)*

高橋 寿郎

Subfamily Agrilinae Gory et Laporte, 1837

ナガタマムシ亜科

Genus *Coraebus* Gory et Laporte, 1839

ナカボソタマムシ属

20. *Coraebus daisenensis* Miwa, 1940

ミヤマナカボソタマムシ

本種は平山修次郎がその著原色甲虫図譜の中で鳥取県大山産(14.VII.1939)をもってカラーで図説して *Coraebus daisenense* Miwa ダイセンタマ(雌)として、示されたものが初めてのものである。三輪勇四郎・中條道夫両博士は同じ年、鳥取県・大山、広島県・大峯山、富士山麓産標本でこちらもカラーで *Coraebus montanus* Miwa et Chujo, ミヤマナカボソタマムシと云った新種記載をされた(Nippon no Kochu, Vol. III, No. 2, p. 56-57, 67-68, pl. VII, fig. 14, 1940)。しかもこの両者が同一種なのである。

平山の図譜のものは三輪勇四郎博士が記載されたものではないが、数行ではあるが一般的な形態の記載があるので、これを無記載とは出来なく、有効な記載と認めなくてはならぬ命名者は平山修次郎自身である。種名は鳥取県大山にちなむものであるから *daisenense* であり属名は男性形であるから種名も男性形の *daizensis* に改めなければいけないと黒沢良彦博士は述べている。そして和名は先占権はないが適当と思われるミヤマナカボソタマムシを残したとある(甲虫ニュース, No. 102, p. 12, 1993)。

体長, 10-13mm。上翅の後半は常に紫黒色を帯び光沢が弱い。青藍色部はときに青銅色を帯びる。サワフタギ、ハイノキなどにつく。

兵庫県下での分布は限定されているようである。産地。氷上郡佐治[山本, 1958]。養父郡水の山(1ex., 12.VII.1955, Yoshizaka leg.), [中根, 1953, 高橋, 1982]。美方郡扇の山[辻, 1970, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1976, 1982]。

21. *Coraebus ishiharai* Y. Kurosawa, 1943

サビナカボソタマムシ

頭胸部は唐金色を帯び、上翅は光沢のない鉄錆色で紫色を帯びる。上翅の斑紋は黄金色からなる。ヤマボウシにつくといわれている。全国的にも少ない種のようなのである。兵庫県下からは次の記録が知られているだけである。

産地。宍粟郡波賀町氷ノ山坂の谷林道[内藤, 1997]。

22. *Coraebus quadriundulatus* Motschulsky, 1866

シロオビナカボソタマムシ

体長, 5-9mm。頭胸部は唐金色ないし緑を帯びた青銅色、上翅は青銅色ないし紫銅色。発生の末期になると青ないし紫藍色を帯びるものが多くなる。4-7月に出現、クマイチゴなどキイチゴ類の葉上に見られる。兵庫県にも広く分布し普通に見られる。

産地。川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1978, 1982]、槻並(1ex., 4.V.1979)。宝塚市玉野[伊藤, 1992]。西宮市盤滝(3exs., 28.V.1987, etc.)。神戸市石楠花山麓(1ex., 1.VI.1984)の街(2exs., 10.IV.1949, etc.)。丹生山(1ex., 5.V.1956)鈴蘭台大山公園(1ex., 30.IV.1972, Y. Hachitani leg.)。藍那(8exs., 10.V.1979)三田市内(2exs., 28.V.1983, Y. Hachitani leg.)。多可郡三谷(2exs., 19.IV.1975)鳥羽(10exs., 29.IV.1972)揖保郡新宮町福原(1ex., 15.V.1992)相生市三瀬山(4exs., 6.V.1973, etc.)。宍粟郡福知溪谷(1ex., 3.VI.1975, M. Uma leg.)。水谷(1ex., 17.VII.1981)音水(1ex., 20.VI.1959, etc.)。坂の谷(3exs., 9.VI.1973, etc.)。多紀郡篠山町[辻, 1970]雨石山[林ほか, 1995]。氷上郡[山本, 1958]。城崎郡日高町奈佐路(2exs., 22.V.1986, etc.)。養父郡水の山(1ex., 27.VII.1957)美方郡扇の山[奥谷, 1954, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975, 1982]。

23. *Coraebus rusticus* Lewis, 1892

ルイスナカボソタマムシ

体長, 8-11mm。頭胸部は唐金色でときに強く赤味を帯びる。上翅はときに中央部と基部が唐金色

* 兵庫県甲虫相資料・346

または青銅色を帯びる。ヤマハンノキ、ミヤマハンノキ、オオバヤシャブシなどのハンノキ類につく。

兵庫県では山地での記録があるのみである。

産地。養父郡氷の山[高橋,1975,1982]。美方郡扇の山(1♂1♀,25.VI,1995),[辻,1970, 辻,岸田,1972, 高橋,1982]。

Genus *Nalanda* Théry,1904

チビナカボソタマムシ属

24. *Nalanda rutilicollis* (Obenberger,1914)

ムネアカチビナカボソタマムシ

体長,3.5–5.0mm。体下と肢は黒色。両複眼間は下方に向け斜めに収斂する。前胸背板中央部の隆起は強く、その後部を中心に走る皺刻は後縁部中央で小楯板に向けて収斂する。

アカメガシワにつく種で分布は広い。兵庫県下での記録は少ない。

産地。西宮市角石町[芦田,1983]。神戸市鳥原(1♂,4.VII.1983), 山田町谷寺口[伊藤,1984]。

Genus *Toxoscelus* Deyrolle,1864

クリタマムシ属

25. *Toxoscelus auriceps* (E.Saunders,1873)

クリタマムシ

体長,3.5–6.0mm。前胸背板は多少銅紫色を帯び、まれに上翅基部や会合部も銅または唐金色を帯びる。6–8月頃出現。クリ、コナラ、クス、カシワ、スダジイなどにつく。

兵庫県下の記録はそれほど多くない。

産地。川西市笹部[仲田,1982]。神戸[N.S.Fisher,1921],摩耶山[Saunders,1873], 有馬温泉[Schönfeldt,1888]。小野市山田(1ex.,22.VII.1987)。加東郡東条町森(1ex.,22.VI.1984,Y.Hachitani leg.)。氷上郡春日町小多利[高橋,1960,1962]。豊岡市妙楽寺[高橋,1975,1982]。

Genus *Agrilus* Curtis,1825

ナガタマムシ属

26. *Agrilus asiaticus igai* Y.Kurosawa,1963

オオウグイスタマムシ

体長,6.5–9.0mm。複眼の内縁は波曲する。内側隆線は弧状に波曲し、中央付近で側隆線に結合する。上翅は側縁部を除いて一様に銀灰色短毛で覆われる。ナラ、クヌギなどにつく。兵庫県下での記録は少ないが、神戸市鳥原貯水池畔では極めて多く産する。

産地。川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田,1978,1982]。川西市横地[仲田,1978]。神戸市鳥原(1ex.,5.VI.1966, etc.)。

27. *Agrilus auriventris* E.Saunders,1873

ミカンナガタマムシ

体長,8.0–10.0mm。上翅に顕著な斑紋を持つ種である。兵庫県下での記録は、次のものがあるだけである。

産地。淡路島三原町八木養宜[藤富,1995]。

28. *Agrilus brevitaris* Lewis,1893

ルイスナガタマムシ

体長,6–9mm。体色に変化が多く、唐金色、銅色、赤色、緑色、青色などいろいろとある。

従来 *Agrilus lewisi* Kerremans の学名で知られていた。Host plant は不明とのこと。兵庫県下での記録は次のとおりであるが、同定に疑問がある。産地。川辺郡猪名川町杉生新田[仲田,1982]。西軽井沢[仲田,1982]。

29. *Agrilus cyaneogiger* E.Saunders,1873

クロナガタマムシ

体長,11.5–15.5mm。体は黒色で紫藍色の光沢を帯びる。上翅は毛斑を欠く。ミズナラ、クヌギにつく。兵庫県下には広く普通に産する。

産地。洲本市安乎町[堀田,1959]。三原郡慶野松原(1ex.,26.V.1983)。川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田,1978]。木間生[仲田,1978]。内馬場[仲田,1978,1982]。槻並[仲田,1978,1982](2exs.,2.VII.1978)。川西市横地[仲田,1978]。宝塚市長谷[伊藤,1992]。神戸市六甲山(1ex.,15.VII.1956)。石楠花山麓(1ex.1.VI.1984)。山の街(1ex.,22.V.1949,etc.)。谷上(2exs.,30.V.1958)。藍那(1ex.,9.VII.1979)。木津(2exs.,30.V.1984)。鳥原(1ex.,28.V.1980,etc.)。三田市高次[辻,1970]。小野市山田(1ex.,23.VI.1987)。加東郡東条町森(1ex.,7.VI.1984)。多可郡鳥羽(1ex.,5.VII.1975)。龍野市神岡町(2exs.,26.V.1988,etc.)。

揖保郡新宮町福原(1ex.,7.VII.1992). 相生市三濃山(2exs.,20.VII.1974). 宍粟郡福知溪谷(1ex.,16.VI.1975, etc.). 多紀郡榛山町[辻,1970], 雨石山[Hayashi etc., 1995]. 氷上郡[山本,1958]. 豊岡市妙楽寺[高橋, 1975]. 城崎郡日高町奈佐路(1ex.,19.VI.1986). 養父郡氷の山(2exs.,21.VII.1958), [高橋,1982], 八鹿町岩崎[佐藤,1997]. 美方郡扇の山[辻,1970, 辻,岸田,1972, 高橋,1982].

30. *Agrilus daimio* Obenberger,1936

ダイミョウナガタマムシ

体長,6.0–6.3mm. 前胸側縁は強く膨出し, 内側隆線は弱いが波曲しながら前角付近まで達する。上翅は中央後方を残し, 暗灰色毛で覆われ, 銀白色毛で形成された毛斑をもつ。アブラチャンにつくといわれている。兵庫県下での記録は少ない。産地。揖保郡新宮町福原(1ex.,10.VI.1992). 宍粟郡赤西(2exs.,23.VI.1979,M.Toyama det.), (1♂,23.VI.1979,T.Takahashi leg.,遠山,1980).

31. *Agrilus decoloratus alazon* Lewis,1893

シラホシナガタマムシ

体長,9.5–13.2mm. 複眼の内縁は明らかに波曲する。頭楯は触角孔間で明らかに巾広, 内側隆線は非常に弱く短い。エノキにつく。わりとはっきりした種である。

県下の記録はあまり多くない。

産地。神戸市鳥原(1ex.,26.VI.1966,etc.), 須磨鉢伏山(1ex.,19.VI.1990,Y.Hachitani leg.). 宍粟郡赤西(1ex.,3.VI.1979,etc.), 坂の谷(1ex.,22.VII.1979). 養父郡氷の山[高橋,1982].

32. *Agrilus discalis* E.Saunders,1873

ヒシモンナガタマムシ

体長,5.2–10.2mm. 独特な斑紋を有するので他種との区別は容易。エノキ, ムクノキ, ケヤキなどにつく。兵庫県下には広く分布, 普通に見られる。産地。川西市山原, 笹部[仲田,1978,1982]. 伊丹市[河上,1984]. 宝塚市上佐曾利・川面[伊藤,1992]. 神戸市山の街(1ex.,5.V.1955), 丹生山(3exs.,5.V.1956), 木津(1ex.,11.V.1984), 藍那(1ex.,20.V.1993), 石井ダム(2exs.,22.X.1991), 鳥原(1ex.,1.V.1977,etc.), 伊川谷(1ex.,15.V.1981), 多井畑(3exs.,27.IX.1990,etc.). 朝来郡須留ヶ峰(1ex.,31.VIII.1975,M.Yuma leg.). 揖保

郡新宮町福原(1ex.,22.VI.1992). 佐用郡久崎(1ex.,16.VI.1958). 宍粟郡福知溪谷(1ex.,16.VI.1975,M.Yuma leg.), 音水(2exs.,20.VI.1959), 赤西(1ex.,21.V.1979, etc.). 多紀郡丹南町竜造寺[山本,1958, 辻,1970].

33. *Agrilus fortunatus* Lewis,1892

コガネナガタマムシ

体長,6.8–8.3mm. 体色は唐金色を帯びた緑色。ときに唐金色。古い個体では青味を帯びる。側隆線は湾曲し, 非常に短い。上翅には各3個の銀灰色の毛斑をもつ。ケヤキにつく。

兵庫県下での記録はそれほど多くない。

産地。三田市大船山[小田中,1994]. 神戸市鳥原(1ex.,12.V.1984,etc.). 美濃郡吉川町(1ex.,14.VII.1986). 城崎郡三川山[高橋,1982], 日高町奈佐路(1ex.,25.V.1986). 養父郡氷の山[高橋,1982]. 美方郡扇の山[辻,1970, 高橋,1982].

34. *Agrilus hattorii* Nakane,1983

ヒメアサギナガタマムシ

体長,4.0–5.8mm. アサギナガタマムシに似るが前胸背の側縁の円味がなく, 内側隆線を欠き体表面の色彩が異なることなどで区別される。

中根猛彦博士が摩耶山で採集した1♀(27.VI.1942)を paratype として記載された種である(Nakane, New or Little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXXVII, Rec. Fac. Sci. Kagoshima Univ. (Earth Sci. & Biol.) No.16, p.111–112, 1983).

県での記録は他に1例あるだけである。

産地。神戸市摩耶山[Nakane,1983], 藍那(1ex.,20.V.1993).

35. *Agarilus imitanus* Lewis,1892

ムネアカナガタマムシ

体長,7.2–11.0mm. 前胸は銅紅色を呈する。内側隆線は長く湾曲する。上翅は白色毛で覆われる。エノキにつく。

兵庫県下での記録は少ないが, 神戸市の鳥原貯水池畔にはごく普通に見られる。

産地。神戸市鳥原(1ex.,27.V.1978,etc.). 小野市山田(1ex.,23.VI.1987). 宍粟郡福知溪谷(1ex.,20.VI.1976), 赤西(2exs.,28.V.1972,etc.,H.Hatanaka leg.).

36. *Agrilus kawarai* Y.Kurosawa, 1963

ホソクロナガタマムシ

体長, 7.3–9.5mm. フライシャーナガタマムシ *Agrilus fleischeri* Obenberger に似るが, 翅鞘の先端円く, 角張らず体やや細長い前胸背の側縁の形状と触角節形状が明らかに違う。

黒沢良彦博士が新種記載されたとき(Bull.Natn. Sci. Mus. Vol.6, No.2, p.107–108, 1962), 花野満男が養父郡大屋町西谷で採集した 1♂(16.VII.1941)を檢視標本の中に示されている。兵庫県下での記録はこれを知るのみである。

産地. 養父郡大屋町西谷[黒沢, 1963].

37. *Agrilus komareki* Obenberger, 1925

クワナガタマムシ

体長, 4.2–6.0mm. 複眼の内縁は波曲しながら下方へやや収斂する。頭楯は触角孔間で巾と長さはほぼ同長, 内側隆線は軽く湾曲, 中央付近まで達するが側隆線に結合しない。上翅毛斑をもたない。食樹はクワ, ハルニレ, ハイノキ。

兵庫県下での産はあまりよく知られていない。産地. 神戸市藍那(1ex., 26.V.1993), 多井畑(2exs., 23.V.1990). 水上郡粟鹿峯[高橋, 1961, 1962].

38. *Agrilus marginicollis* E.Saunders, 1873

ブドウナガタマムシ

体長, 4.2–6.0mm. 前胸背板は明らかな中央溝をもち, 側縁はやや直線状, 内側隆線は弧状に湾曲し中央付近まで達し, その後隆線に沿って前角近くに達する。

G.Lewis が Hiogo で採集した標本によって Saunders が新種記載した(J. Linn. Soc. Zool. London, 11: 516, 1873).

ブドウにつく種である。県下での記録は少ない。産地. Hiogo [April–1871, G.Lewis leg., E.Saunders, 1873]. 川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部[仲田, 1978].

39. *Agrilus moerens* E.Saunders, 1873

アサギナガタマムシ

体長, 3.7–6.0mm. ヒメアサギナガタマムシに似る。前胸背側縁は膨出し, 弱い内側隆線をもつことで区別できる。コナラ, クヌギなどにつく。

兵庫県下には広く分布している。

産地. 川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982], 横地[仲田, 1978, 1982]. 神戸市鳥原(1ex., 8.V.1981, etc.), 藍那(1ex., 20.V.1993). 美濃郡吉川町奥山(2exs., 5.VI.1986). 加東郡東条町森(1ex., 11.V.1984, etc.), 社町三草(2exs., 7.V.1987, etc.). 龍野市神岡町(1ex., 26.V.1988, etc.). 宍粟郡音水(1ex., 31.V.1970, T.Takahashi leg., 遼山, 1980). 多紀郡雨石山[林ほか, 1995]. 水上郡市島町竹田[高橋, 1961, 1962]. 城崎郡日高町奈佐路(1ex., 19.VI.1996).

40. *Agrilus micolanus* Obenberger, 1924

ロニノナガタマムシ

体長, 4.0–6.2mm. 複眼の内側はほとんど波曲せず, 緩やかに下方に収斂する。内側隆線は緩やかな弧を描き前方1/3付近で消失する。ハルニレ, クヌギが食樹として知られている。*Agrilus ronino* Obenberger, 1935 の和名で知られていたものである。

兵庫県下には稀のようである。

産地. 宍粟郡赤西(1ex., 25.VI.1972, H.Hatanaka leg.), (1♂, 23.VI.1979, T.Takahashi leg. 遼山, 1980).

41. *Agrilus pilosovittatus* E.Saunders, 1873

シラケナガタマムシ

体長, 3.7–5.5mm. 内側隆線は長く, 波曲しながら前角に達する。上翅は側縁部と会合部を除き銀灰色に覆われる。フジにつく。

兵庫県下には広く分布し, 特に神戸市内では普通。産地. 川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部[仲田, 1978]. 伊丹市[河上, 1984]. 宝塚市佐曾利(2exs., 7.VI.1959), 上佐曾利[伊藤, 1992]. 神戸市丹生山(2exs., 5.V.1958), 太山寺(1ex., 3.V.1967), 逢山峡(2exs., 2.VII.1982), 谷上(1ex., 4.VI.1906), 西鈴蘭台大山公園(1ex., 16.VII.1982), 鳥原(1ex., 30.VI.1963, etc.), 多井畑(2exs., 23.V.1990). 三木市細川中(2exs., 30.V.1985). 美濃郡吉川町(1ex., 6.VI.1985), 奥山(4exs., 10.VI.1986). 朝来郡生野町葛蒲谷(1ex., 8.VI.1956). 宍粟郡福知溪谷(1ex., 16.VI.1975, M.Ôma leg.), 音水(1ex., 31.V.1970). 水上郡[山本, 1958].

42. *Agrilus planipennis ulmi* Y.Kurosawa, 1956

アオナガタマムシ

体長, 11.5–15.0mm. 顔面は中央にV字溝をもつ。

内側隆線は弱い明瞭で、中央付近まで達する。従来 *Agrilus macropoli ulmi* Y.Kurosawa とされていた。オニグルミ、サワグルミなどにつく種。

県下の記録は次のものが知られている。

産地。宍粟郡赤西[1♂, 22.VII.1979, Yagi leg., 遼山, 1981].

43. *Agrilus rokuyai* Y.Kurosawa, 1976

トガリカラカネナガタマムシ

体長, 7.3–8.5mm. 内側隆線は弱く、側隆線とはほぼ平行に中央部付近まで達する。上翅は肩部、小楯板後方の会合部、中央付近、後方1/3、翅端に灰色毛斑をもつが、後方1/3の毛斑は会合部に沿って翅端紋とつながることが多い。カシ類につく。本種の Holotype と paratopotypes 3♂は養父郡大屋町で採集されたもので、黒沢良彦博士が新種として記載されたものである(Bull. Natn. Sci. Mus. ser. A(Zool.), 2(2): 136, 1963 に *Agrilus japonicus* Kerremans とカラー図説されているのもこの種に当たる)。兵庫県にはわりと分布広くいるように思われる。

産地。宝塚市香合新田[伊藤, 1992]。多紀郡雨石山[Hayashi etc, 1995]。養父郡筏[2♂, 17.VI.1951, 1♂, 6.VII.1951, 辻, 1970 = *A. japonicus* Kerremans, 黒沢, 1976. 3♂, Holotype & Paratopotypes 17.VI.1951, R. Morimoto leg.: Kurosawa, 1976]。美方郡扇ノ山[2exs., 12.VI.1977, 遼山, 1978].

44. *Agrilus sibiricus* Obenberger, 1912

ミドリツヤナガタマムシ

体長3.5–7.7mm. 複眼の内縁はわずかに波曲し、下方へ収斂する。前胸背板は小楯板の直前と内側隆線に沿って強くへこむ。内側隆線は湾曲し明瞭、中央付近で側隆線に結合する。上翅は毛斑を欠き翅鞘はまるいがやや裁断状、カエデ類につく。

Agrilus insuspectus Obenberger の学名で知られていたものがこの種になる。

県下の分布は広いようである。

産地。川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田, 1978, 1982]。宍粟郡水谷[1ex., 17.VII.1981]。音水[1ex., 3.VI.1975, M.Yuma leg., Toyama det.], 赤西[3exs., 23.VI.1979, M.Yuma leg., Toyama det.], 養父郡坂の谷[1ex., 9.VI.1973]。氷の山[高橋, 1982]。美方郡扇の山[高橋, 1976, 1982].

45. *Agrilus sinuatus yokoyamai* Y.Kurosawa, 1963

アカバナガタマムシ

体長, 7.8–11.4mm. 体は銅赤色、ときに緑色味の強い個体が現れると。内側隆線は短く、湾曲するが側隆線に結合しない。

県下の記録は1例のみ知られている。若干同定に不安がある。

産地。川辺郡猪名川町内馬場[仲田, 1982].

46. *Agrilus sospes* Lewis, 1892

シロテンナガタマムシ

体長, 5.2–8.5mm. Lewis により "Higo–Yuyama, Kumamoto Pref." 産で記載された種。複眼の内縁は明らかに波曲する。内側隆線は短く不明瞭であるが、ときに全く欠く。上翅は各3個の毛斑のほか翅端近くも白色毛で覆われる。ケヤキにつく種。

県の中央部から北にかけて広く分布しているように思われる。

産地。宍粟郡福知溪谷[1ex., 3.VI.1975, M.Yumaleg.], 音水[1ex., 20.VII.1959]。赤西[2exs., 28.V.1972, etc., H. Hatanaka leg.], (14exs., 23.VI.1979)。多紀郡丹南町竜造寺[辻, 1970]。氷上郡春日町黒井[山本, 高橋, 1962]。養父郡氷の山[4exs., 10.VI.1972, etc., K.Tsuji leg.]. 美方郡扇の山[奥谷, 1954, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1970].

47. *Agrilus spinipennis* Lewis, 1892

ケヤキナガタマムシ

体長, 8.2–11.5mm. Lewis が Oyama, Kanagawa Pref. 産で記載された種。Obenberger が Nikko, Tochigi Pref. 産で *Agrilus dentiaex* として記載された種もこの種に当たる。ケヤキにつくタマムシである。尾節板の先端まるく、上翅端はとがる。この種も県の中央部から北にかけて広くいるように思われる。

産地。宍粟郡赤西[11exs., 23.VI.1979]。多紀郡篠山町小倉岳[辻, 1970]。氷上郡春日町黒井[山本, 高橋, 1982]。美方郡扇の山[辻, 1970, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1982].

48. *Agrilus subrobustus* E.Saunders, 1873

ネムノキナガタマムシ

体長, 3.6–6.5mm. 前胸の側縁部は平圧されず、内側隆線は軽く湾曲し、短く、側隆線に結合しない。上翅は白色の短毛で覆われる。ネムノキにつく。

く。

兵庫県には広く分布し、多く見られる。

産地。三原郡諭鶴羽山[久松,1974]。神戸市北区藍那(1ex.,21.VI.1993),木津(1ex.,11.V.1984),八多町屏風(2exs.,12.V.1993)。小野市山田(1ex.,18.VI.1987),加東郡東条町森(1ex.,11.V.1984,etc.),社町三草(1ex.,14.VII.1989),掛保郡新宮町福原(2exs.,7.VII.1992)。城崎郡日高町奈佐路(1ex.,22.V.1986,etc.),香住[高橋,1975,1982]。養父郡氷の山[辻,畑中,1973,高橋,1982]。

49. *Agrilus takahashii* Toyama,1988

タカハシナガタマムシ

体長,4.7–6.5mm。ウグイスナガタマムシによく似た種である。兵庫県下の記録は原記載(Kontyu, Vol.56, No.4, pp.754–756, 1988)に示されたタイプ標本のみである。尚、種名は遼山雅夫氏が筆者の名をつけて下さったものである。

産地。宍粟郡赤西(Holotype: ♂, allotype: ♀, Akasai Hyogo Pref., Japan, 24.VI.1979, M. Toyama lgt.

Paratypes, 1 ♀, Akasai, Hyogo Pref., Japan, 23.VI.1979, T. Takahashi lgt.]。

50. *Agrilus tempestivus* Lewis, 1892

ウグイスナガタマムシ

体長,4.0–8.0mm。Lewis により"Usuitoge, Gunma Pref. Fukui, Fukui Pref. Chiuzenji To-chigi Pref. Kurigahara, Nagano Pref." 産標本で記載された種である。

内側隆線は強く波曲し、長いが形状の変化が多い。上翅は毛斑をもたない。尾節板の先端はまるい。シデ、ミズナラなど種々の樹木につく。

兵庫県下には広く分布しているようである。

産地。川西市笹部[仲田,1978,1982]。宝塚市香合新田[伊藤,1992]。多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1995]。宍粟郡福知溪谷(2exs.,16.VI.1975, M. Yuma leg., etc.), 音水(1ex.,20.VII.1959, etc.), 赤西(1ex.,3.VI.1979)。養父郡坂の谷(1ex.,22.VII.1979)。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

きべりはむし第25巻2号における 記録の訂正 稲畑憲昭

本誌25(2)において高橋寿郎氏により、稲畑採集による記録の発表がなされたが、稲畑の連絡の不手際のため誤ったデータを伝えてしまいました。この場をもって訂正します。

* p. 60, 左, 上から5行目, p. 60, 右, 下から7行目, p. 61, 左, 上から3行目, p. 61, 左, 上から12行目
篠原祖母野山(誤) → 篠原伯母野山町(正)

* p. 60, 左, 下から20行目(キノコゴミムシの項)
市島町塚原妙高山 → 市島町北奥塚原、妙高山(正)

* p. 60, 左, 下から14行目(キンパネハネカクシの項)
桜の木から(誤) → 畑の桜の木の下の腐植物質の下から(正)

* p. 60, 左, 下から7行目(タテジマカネコメツキの項)

神泥寺(誤) → 神池寺(正)

※タテジマカネコメツキの和名に入カミスがありました。謹んでお詫びします(編集者)

* p. 60, 右, 上から9行目

27. VI. 1996(誤) → 27. VI. 1997(正)

* p. 60, 右, 下から7行目, p. 61, 左, 上から3行目, p. 61, 左, 上から12行目

六甲学院の上(誤) → 長峰山登山道入り口付近(正)

* p. 61, 左, 上から8行目及び13行目

コササコクゾウ → 取り消し

採集した個体は全てササコクゾウでした。

* p. 61, 左, 上から14行目

ヒメササ(誤) → ササの1種(正)

* p. 61, 左, 上から15行目

19. VI. 1996(誤) → 19. VI. 1997(正)

ササコクゾウムシとワダカミキリモドキは高橋寿郎氏に重複標本を送って同定して頂きました。感謝します。

(INAHATA NORIAKI 神戸市灘区八幡町1-54-C202)

池田市北部のチョウ

- 1997~1998年の記録 -

木下 修一

1. はじめに

筆者は1996年から1997年にかけて川西市黒川地域のチョウとトンボの調査を行った(木下,1997、木下・牛尾,1997)が、引き続いて筆者の住まいの近くである池田市東山町、伏尾町周辺を歩いてチョウとトンボを調べてみた。今回は黒川地域の時とは異なり、散歩代わりに漫然と歩いたためそれほど網羅的、定量的ではないが、黒川地域や他の地域と比較する上では興味ある結果が得られたのではないかと思ひ報告したい。

2. 観察地域の特徴と調査方法

主に図1に示すようなほぼ決まったコースをゆっくり歩き、採集もしくは目視により種の同定、および、おおよその個体数の調査を行った。頻度はほぼ週1回のペースで1997年はシーズン中に27回、1998年は9月中旬までに25回の観察を行った。

今回歩いた場所は、池田市北部の五月山の西側斜面にあたる東山町と伏尾町にまたがる地域である。この地域は古くより植木の町として知られ、全国から集めてきた木を育てて再び運び出すという植木の集散地であった。そのため、山の中腹までは植栽で占められており、手入れは良く行き届いている。山道沿いには炭焼きのための台場クヌギがまだ点在しており、そのため古くより昆虫採集地としても知られていた。近年、そのクヌギが次々と伐られ、また、周辺に伏尾台、バードヒルズなどの住宅地もできてきたため、環境も急速に変わりつつあるのではないかとと思われる。

山の中腹より下には畑や田圃が広がり、道路を挟んで猪名川の支流である余野川が流れている。このあたりの風景は黒川地域と同様に里山風景が見られるが、黒川よりも開けた感じがする。全般にお花畑になりうるような広い環境には乏しく、逆に林の周辺には日陰性の種類が多く見られている。

3. 観察結果の全般的印象

この1年半ほどに見られたチョウは8科56種で

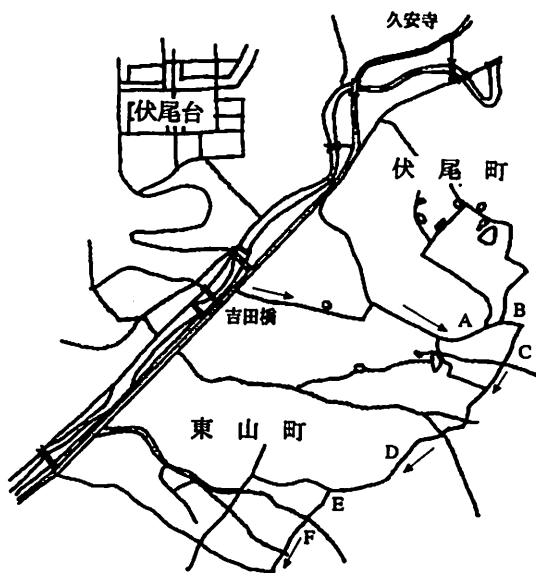


図1 池田市北部のチョウの調査地域

あった(表1)。池田市で調査を続けておられる下山孝氏のホームページによると、池田市ではこれまで8科83種(偶産、絶滅種と思われるもの10種ほどを含む)が見られている。今回の調査結果はこれに比べるとかなり少ないが、最近の傾向を知る上では参考になるのではないかとと思われる。

表1には月別の観察結果を、また、黒川地域との比較を表2に示す。これらの表で、●、◎、○は個体数を表しており、個体数を大体3段階に分類し、●は数が多い、◎は普通、○は少ないとした。黒川地域と比較すると、山地性のヒョウモン類、ゼフィルス類、スミナガシ、サカハチチョウ、アオバセセリなどが見られないのが目に付き、逆に、最近北上傾向の著しいナガサキアゲハが多く見られたことなどが注目される。

表1 池田市北部月別チョウ発生状況 (1997-98)

	月	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		個体数
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
1	キアゲハ											○				○	○									○
2	アゲハ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
3	クロアゲハ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						○
4	オナガアゲハ									○																○
5	ナガサキアゲハ									○								○	○							○
6	モンキアゲハ									○								○								○
7	カラスアゲハ									○			○					○								○
8	アオスジアゲハ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	キチョウ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	モンシロチョウ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	モンキチョウ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	ツマキチョウ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13	スジグロシロチョウ							○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14	エゾスジグロシロチョウ							○										○	○	○	○	○	○	○	○	○
15	ウラギンシジミ					○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	ムラサキシジミ					○	○					○	○			○	○	○	○	○			○	○		○
17	アカシジミ									○																○
18	トラフシジミ									○																○
19	ベニシジミ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	ウラナミシジミ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	ヤマトシジミ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ツバメシジミ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	ルリシジミ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	テングチョウ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	アサギマダラ																			○						○
26	メスグロヒヨウモン									○										○	○					○
27	ツマグロヒヨウモン									○									○	○	○	○				○
28	イチモンジチョウ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
29	アサマイチョモンジ									○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	ミスジチョウ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31	コミスジ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
32	ホシミスジ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キタテハ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ヒオドシチョウ									○	○															○
35	アカタテハ					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	ヒメアカタテハ							○						○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
37	ルリタテハ							○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	コムラサキ							○		○																○
39	ゴマダラチョウ													○	○			○								○
40	オオムラサキ													○	○											○
41	ヒメウラナミジャノメ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	ジャノメチョウ													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	ヒカゲチョウ													○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
44	クロヒカゲ									○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
45	クロヒカゲモドキ																	○								○
46	サトキマダラヒカゲ							○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ヒメジャノメ													○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	コジャノメ									○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	ダイミョウセセリ									○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
50	ミヤマセセリ							○	○																	○
51	ホソバセセリ													○	○	○										○
52	コチャバネセセリ									○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	キマダラセセリ													○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	オオチャバネセセリ													○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	チャバネセセリ									○								○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	イチモンジセセリ									○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	○
種類数合計								9	15	26	27	34	30	29	23	30	33	38	36	31	27	14	12	4		

4. 目録

<アゲハチョウ科>

1. キアゲハ
2. アゲハ (29.IV.1998 1ex.)
3. クロアゲハ
4. オナガアゲハ (3.V.1998 1♂)
5. ナガサキアゲハ (13.IX.1997 1♀, 30.VIII.1998 1♂) 最近、急速に進出してきた南方系のチョウで、池田市北部でも定着しているようだ。
6. モンキアゲハ (10.V.1997 1♀)
7. カラスアゲハ (4.V.1998 1♀)
8. アオスジアゲハ

<シロチョウ科>

1. キチョウ (24.VIII.1997 1♀, 13.IX.1997 1♂1♀)
2. モンシロチョウ (18.IV.1998 1♂)
3. モンキチョウ
4. ツマキチョウ (15.IV.1995 1♂)
5. スジグロシロチョウ (19.IV.1997 1♀, 7.VI.1997 1♀)
6. エソスジグロシロチョウ (19.IV.1997 1♂, 13.IX.1997 1♂)
黒川地域ではハクサンハタザオが群生していることに対応して、数多くの個体が見られた。今回の調査ではCからFまでの山道沿いで多くはないが見ることができた。
7. スジボソヤマキチョウ

<シジミチョウ科>

1. ウラギンシジミ
2. ムラサキシジミ
3. アカシジミ (17.V.1998 1ex., 22.V.1998 1ex.)
4. トラフシジミ
5. ベニシジミ
6. ウラナミシジミ
7. ヤマトシジミ (19.IV.1997 1♂, 2.XI.1997 1♂, 18.IV.1998 1♀)
8. ツバメシジミ (6.VI.1998 1♀)
9. ルリシジミ (5.IV.1998 1♂)
10. コツバメ

<テングチョウ科>

1. テングチョウ

<マダラチョウ科>

1. アサギマダラ (10.X.1997 1♂)

<タテハチョウ科>

1. メスグロヒョウモン (17.V.1998 1♂)
2. ツマグロヒョウモン (10.V.1997 1♂)
3. ミドリヒョウモン
4. イチモンジチョウ
5. アサマイチモンジ (17.V.1997 1ex.)
6. ミスジチョウ

主にAからBの地区で見られたが残念ながら採集はできなかった。数は多くない。

7. コミスジ
8. ホシミスジ
9. キタテハ
10. ヒオドシチョウ (14.VI.1997 1ex.)
11. アカタテハ
12. ヒメアカタテハ (19.IV.1997 1ex.)
13. ルリタテハ (5.X.1997 1ex.)
14. コムラサキ (9.V.1998 1♂)
民家の近くで1頭得られたが、数は少ないようだ。
15. ゴマダラチョウ (16.VIII.1997 1ex., 20.IX.1997 1ex.)
16. オオムラサキ (5.VII.1997 1♀)
AとEのクヌギに止まっている姿を何回か見かけた。数は多くない。

<ジャノメチョウ科>

1. ヒメウラナミジャノメ
2. ジャノメチョウ
3. ヒカゲチョウ
4. クロヒカゲ (20.VII.1997 1♂)
5. クロヒカゲモドキ (14.VIII.1997 1♀)

草原沿いの山道Cで飛来したものを1頭だけ採集できた。

6. サトキマダラヒカゲ
7. ヒメジャノメ
8. コジャノメ

<セセリチョウ科>

1. ダイミョウセセリ
2. ミヤマセセリ
3. ホソバセセリ (5.VII.1997 1♂, 20.VII.1997 1♀,

表2 黒川地域と池田市北部(東山、伏尾)のチョウの比較

科名	種名	黒川	東山	RDB	兵庫県
アゲハチョウ科	アゲハ	◎	◎		
	キアゲハ	○	○		
	クロアゲハ	◎	◎		
	オナガアゲハ	○	○		
	モンキアゲハ	○	○		
	ナガサキアゲハ		○		
	カラスアゲハ	◎	○		
	アオスジアゲハ	◎	●		
	モンキチョウ	●	●		
シロチョウ科	キチョウ	●	●		
	スジボソヤマキチョウ	○	○	要	
	スジグロシロチョウ	◎	◎		
	エゾスジグロシロチョウ	●	◎	要	
	モンシロチョウ	●	●		
	ツマキチョウ	◎	◎		
	シジミチョウ科				
シジミチョウ科	ムラサキシジミ	◎	◎		
	アカシジミ		○		
	ウラナミアカシジミ	○			
	ミズイロオナガシジミ	○			
	オオミドリシジミ	○			
	トラフシジミ	◎	○		
	コツバメ	◎	○		
	ベニシジミ	●	●		
	ウラナミシジミ	○	◎		
	ヤマトシジミ	●	●		
	ルリシジミ	◎	◎		
	ツバメシジミ	●	◎		
	ウラギンシジミ	◎	●		
	テングチョウ科				
マダラチョウ科	テングチョウ	◎	◎		
	アサギマダラ		○		
タテハチョウ科	メスグロヒョウモン	○	○		
	クモガタヒョウモン	○			
	ミドリヒョウモン	○	○		
	ツマグロヒョウモン	○	◎		
	オオウラギンシジミヒョウモン	○			

科名	種名	黒川	東山	RDB	兵庫県
イチョウ科	イチモンジチョウ	◎	◎		
	アサマイチモンジ	◎	○		
	コムシジ	●	●		
	ミスジチョウ		○	C	
	ホシミスジ	○	◎		
	サカハチチョウ	○			
	キタテハ	◎	●		
	ヒオドシチョウ		○		
	アカタテハ	◎	◎		
	ヒメアカタテハ	○	◎		
	ルリタテハ	○	◎		
	スミナガシ	○			
	ゴマダラチョウ	○	○		
	コムラサキ		○		
	オオムラサキ	○	○	B	
	ジャノメチョウ科				
	ヒメウラナミジャノメ	●	●		
	ヒメジャノメ	◎	◎		
	コジャノメ	◎	◎		
	ジャノメチョウ	●	◎		
	ヒカゲチョウ	◎	◎		
	クロヒカゲ	◎	◎		
	クロヒカゲモドキ		○	B	
	サトキマダラヒカゲ	●	◎		
	ヤマキマダラヒカゲ	○			
セセリチョウ科	ミヤマセセリ	◎	○		
	ダイミョウセセリ	◎	◎		
	アオバセセリ	○			
	コチャバネセセリ	●	◎		
	キマダラセセリ	◎	◎		
	ホソバセセリ	○	○		
	オオチャバネセセリ	●	◎		
	ミヤマチャバネセセリ	○		要	
セセリ科	チャバネセセリ	◎	◎		
	イチモンジセセリ	◎	●		
	合 計	62	59		

注：黒川の欄は文献(木下、1997)による。兵庫県RDBの欄は「ひょうごの野生動物」神戸新聞総合出版センター(1997)による(B：Bランク、C：Cランク、要：要注目種)。

20.VI.1998 1♂)

Fなど少し暗い環境で見られた。数は多くない。

4. コチャバネセセリ

5. キマダラセセリ (16.VII.1997 1♂)

6. オオチャバネセセリ

7. チャバネセセリ (5.X.1996 1♂, 14.VII.1997 1♂, 26.IV.1998 1♂)

8. イチモンジセセリ

注：日付のないものは目視または採集確認後に放ったもの。なお、目録には以前に目撃した記録も含めている。

<参考文献>

木下修一(1997) 黒川のチョウ きべりはむし 25(1):40-44.

木下修一・牛尾巧(1997) 黒川のトンボ きべりはむし 25(2):39-43

(KINOSHITA SHUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)

池田市北部のトンボ

- 1997~1998年の記録 -

木下 修一

1. はじめに

前報のチョウの報告(木下, 1998)に引き続いて、池田市北部の伏尾町、東山町を中心にトンボの種類や個体数を調べた結果を報告する。

2. 観察地域の特徴

東山町、伏尾町には猪名川の支流の余野川を初めとして、山の中腹にも多くのため池があり、また、近くにはトンボの生育に必要な雑木林も存在し、そのため、狭い地域ではあるが多くのトンボを観察することができる。そこで、これらポイントを中心として、午前中もしくは夕方にトンボの観察を行った。主なポイントを図1に示す。それぞれの特徴は次の通りである。

A：余野川の中流域にあたり、瀬になっている。河原には伏流による小さい水たまりがあり、オオカナダモに覆われている。この地域ではサナエト

ンボがみられ、水たまりには止水性のイトトンボやトンボ類が見られる。

B：小さな用水池でトンボやイトトンボが見られる。この池ではこの地域で唯一ホソミイトトンボが見られる他、イトトンボ類やサナエトンボなど種類は結構見られる。

C：広い池でヒシで覆われ、池の周囲にはガマがはえている。ヤンマ類やトンボ類が見られる。

D：山道沿いで小さな小川がある。昆虫の通り道になっているのか、いろいろな種類が見られる。

E：大きな池でやはりヒシが多い。トンボの種類はそんなに多くはない。

F：小さなため池が点在している。それぞれ、ヒシや水草で覆われ、岸辺にはガマ、ミクリなどがはえていてトンボが多く見られる他、モリアオガエルの卵なども見られた。このため池ではショウジョウトンボ、ヨツボシトンボ、チョウトンボなど多くのトンボ類が見られた。

G：谷川沿いの暗い環境で、ニシカワトンボが見られる。

3. 観察結果

この2年間で見られたトンボは9科45種にのぼる。この結果は黒川地域(木下・牛尾, 1997)と比較しても多く、観察地域内でため池や林などトンボの生育に必要な環境が揃っているためであろう。表1にトンボの月別観測数を、表2に黒川地域との比較を載せる。これらの表で、●、◎、○は個体数を表しており、個体数を大体3段階に分類し、●は数が多い、◎は普通、○は少ないとした。

4. 目録

<イトトンボ科>

1. ホソミイトトンボ

この地域ではBだけで見られている。

2. クロイトトンボ (10.V.1997 1♂2♀♀)

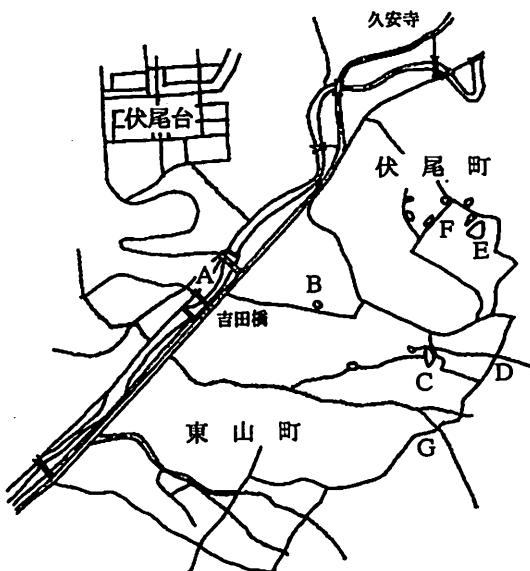


図1 池田市北部のトンボの調査地点

A, B, Fなどにて、池田市北部ではもっとも数が多いイトトンボである。

3. アジアイトトンボ(12.IV.1997 1♀, 10.V.1997 1♀)

A, Fで見られるが、それほど多くはない。

4. アオモンイトトンボ(7.VI.1997 1♀, 22.VI.1997 1♂, 12.IX.1998 1♂1♀)

A, B, Fで見られる。数は多くない。

5. キイトトンボ(17.V.1998 1♂)

Fで非常に多くの個体を見ることができた。

<モノサシトンボ科>

1. モノサシトンボ

A, B, C, E, Fなど見られ、数も多い。

<アオイトトンボ科>

1. オオアオイトトンボ

B, Gなど見られているが、数は少ない。

2. アオイトトンボ (5.X.1997 1♀)

Bで1頭だけ見られた。

3. ホソミオツネトンボ

Bで見られるが数は多くない。

<サナエトンボ科>

1. オグマサナエ (10.V.1997 2♂♂, 17.V.1997 1♂, 18.V.1997 1♀)

B, C, Fでかなりの数が見られる。4月後半には羽化直後の個体が続々と飛んでいく姿が見られた。

2. フタスジサナエ (17.V.1997 1♂, 14.VI.1997 1♂, 29.IV.1998 1♀, 4.V.1998 1♂)

B, C, Fでかなりの数が見られる。

3. ダビドサナエ

A, Bで見られているが、昨年・今年ともに1頭ずつ見られただけである。

4. オジロサナエ (16.VIII.1997 1♀)

Bで1頭だけ得られている。

5. ヤマサナエ (10.V.1997 1♂, 9.V.1998 1♂)

Aで見られているが、数はそれほど多くはない。

6. アオサナエ (9.V.1998 1♂)

Aで川の中の石に止まっているのを採集した

のが唯一の記録である。

7. コオニヤンマ (19.VI.1997 1♂, 5.VII.1997 1♀)

Aで川の中の石に止まっているところがたびたび目撃されている。

<カワトンボ科>

1. オオカワトンボ (10.V.1997 1♂)

Aの余野川の河原で毎年見られているが、数は少ない。

2. ニシカワトンボ (10.V.1997 1♀)

5月頃、山沿いの薄暗い道にかなりの数を見る。

3. ミヤマカワトンボ (10.V.1997 1♂)

以前は見られなかったが、最近ではAで2年つづけて見られている。

4. ハグロトンボ (5.VII.1997 1♀)

Aで毎年多く見られている。

<エソトンボ科>

1. コヤマトンボ (18.V.1997 1♂)

山沿いの道で旋回しているのをときどき見かける。

2. タカネトンボ

山沿いの道Dで旋回しているのを見かけたのが唯一の観察例である。

3. トラフトンボ (4.V.1998 1♂, 9.V.1998 1♂)

昨年は気がつかなかったが、今年は河原Aで飛んでいるところとC, E, Fの池で巡回している姿を見た。

<ヤンマ科>

1. クロスジギンヤンマ (10.V.1997 1♂)

A, B, C, E, Fなどの水たまりや池でしばしば見ることができた。

2. ギンヤンマ (3.VIII.1997 1♂)

クロスジギンヤンマと同様に池に多いが水を張った田圃でも多く見られた。

3. コシボソヤンマ (10.IX.1997 1♂)

吉田橋のバス停で瀕死の状態を拾ったのが唯一の観察例である。

4. ミルンヤンマ (12.X.1997 1♀)

秋も深まった頃、山道を飛び回っているのを

表1 池田市北部月別トンボ発生状況 (1997-98)

	月 1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		個体数
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	
1 ホソミイトトンボ							○	●	●	●	○	◎	◎				○	○							●
2 クロイトトンボ							○	●	●	●	◎	●	●	◎	●	◎									●
3 アジイトトンボ							○	○	○	◎	○	○			○	○		◎							◎
4 アオモンイトトンボ											○	○	○	○	○	○		○							◎
5 キイトトンボ										◎	○	●	●	●	◎										●
6 モノサシトンボ									○	◎	●	●	◎	●	◎	○	○								●
7 オオアオイトトンボ											○	○							○	○	◎				◎
8 アオイトトンボ																		○							○
9 ホソミオツネトンボ						○	○	○			○	○													○
10 オグマサナエ							○	◎	◎	○															◎
11 フタスジサナエ							○	○	○	○															○
12 ダビドサナエ							○																		○
13 オジロサナエ																○									○
14 ヤマサナエ								○	○	○	○														○
15 アオサナエ									○																○
16 コオニヤンマ													○	○											○
17 オオカワトンボ							○	◎	○																◎
18 ニシカワトンボ							◎	●	●	○															●
19 ミヤマカワトンボ							○	◎	◎	◎															◎
20 ハグロトンボ												○	○	◎	●	◎	○	○							◎
21 コヤマトンボ									○	○															○
22 タカネトンボ																		○							○
23 トラフトンボ								○	○	○															○
24 クロスジギンヤンマ							○	◎	◎	○	○	○	○	○		○									◎
25 ギンヤンマ							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								◎
26 コシボソヤンマ																	○								○
27 ミルンヤンマ																		○							○
28 マルタンヤンマ													○	○											○
29 カトリヤンマ																	○								○
30 オニヤンマ													○	○	◎	○	○	○							◎
31 シオヤトンボ							◎	◎	◎																◎
32 ショウジョウトンボ								○	●	●	●	●	◎	○	○										●
33 ヨツボシトンボ								●	●	◎															●
34 シオカラトンボ							○	●	●	◎	○	●	◎	●	◎	○		○							●
35 オオシオカラトンボ									○	○	◎	◎	●	◎	○	○		○							●
36 ハラビロトンボ								○		○	○	○													○
37 コシアキトンボ									●	○	●	●	●	◎	○										●
38 チョウトンボ											○	●	●	●	●										●
39 ウスバキトンボ												○	●	●	●	●	●	◎							●
40 アキアカネ													○		○										●
41 ナツアカネ															○	○	◎	◎	●	●	●	○			●
42 マユタテアカネ													○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎					●
43 リスアカネ												○		○	◎	◎			○	○					◎
44 ノシメトンボ																○	○	◎	○						◎
45 コノシメトンボ																			○						○
種類数合計							1	4	15	19	21	22	17	19	19	20	20	17	13	13	4	5	1		

表2 黒川地域と池田市北部(東山、伏尾)のトンボの比較

	科名	種名	幼虫 黒川	成 黒川	虫 東山	兵庫県 RDB
1	イトトンボ	キイトトンボ		○	●	
2		ホソミイトトンボ	○	●	●	
3		アオモンイトトンボ			◎	
4		アジアイトトンボ		○	◎	
5		クロイトトンボ	○	◎	●	
6	モノサシトンボ	グンバイトンボ		○		C
7		モノサシトンボ	○	○	●	
8	アオイトトンボ	アオイトトンボ		○	○	
9		オオアオイトトンボ	○	●	◎	
10		ホソミオツネントンボ		●	○	
11	カワトンボ	ミヤマカワトンボ			◎	
12		ハグロトンボ	●	◎	◎	
13		ニシカワトンボ	●	●	●	
14		オオカワトンボ	◎	●	◎	
15	サナエトンボ	ヤマサナエ	◎	◎	○	
16		タベサナエ	○			
17		フタスジサナエ			○	
18		オグマサナエ		○	◎	
19		ダビドサナエ	◎	◎	○	
20		オジロサナエ	◎	○	○	地
21		アオサナエ			○	C
22		オナガサナエ	○			
23		コオニヤンマ	◎	◎	○	
24	オニヤンマ	オニヤンマ	●	●	◎	
25	ヤンマ	サラサヤンマ		○		B
26		コシボソヤンマ	●	○	○	
27		ミルンヤンマ			○	
28		カトリヤンマ	○	○	○	
29		ヤブヤンマ	○	○		
30		オオルリボシヤンマ			○	
31		マルタンヤンマ			○	
32		クロスジギンヤンマ			◎	
33		ギンヤンマ	◎	◎	◎	
34	エソトンボ	トラフトンボ			○	
35		タカネトンボ		○	○	
36		コヤマトンボ	●	○	○	
37		オオヤマトンボ	◎	○		
38	トンボ	ハラビロトンボ		○	○	
39		シオヤトンボ		◎	◎	
40		シオカラトンボ	○	●	●	
41		オオシオカラトンボ		●	●	
42		ヨツボシトンボ			●	
43		ユフキトンボ	○			
44		ショウジョウトンボ	○	○	●	
45		ナツアカネ	○	●	●	
46		アキアカネ	●	●	●	
47		マユタテアカネ	●	●	●	
48		マイコアカネ			○	
49		リスアカネ			◎	
50		ノシメトンボ	●	●	◎	
51		コノシメトンボ			○	
52		コシアキトンボ		◎	●	
53		ウスバキトンボ		●	●	
54		チョウトンボ			●	
		合計	27	37	47	

注：黒川の欄は文献(木下・牛尾、1997)による。兵庫県RDBの欄は「ひょうごの野生動物」神戸新聞総合出版センター(1997)による(B：Bランク、C：Cランク、地：地域限定貴重種)。

何度か目撃した。

5. マルタンヤンマ

8月の夕方遅く、Fのため池で産卵する♀の姿を二、三度見かけたが、採集するところまではいかなかった。

6. オオルリボシヤンマ (11.IX.1996 1♂)

伏尾台のマンションの壁に止まっているところを採集することができた。野外では観察していない。

7. カトリヤンマ(12.IX.1998 1♂)

山道沿いでときどき見かけるが、昨年・今年とも数は少ない。

<オニヤンマ科>

1. オニヤンマ

山道を巡回する姿は夏の風物詩である。

<トンボ科>

1. シオヤトンボ (10.V.1997 1♀, 18.V.1997 1♀)

早春の山道D～Gではかなりの数を見ることができ。

2. ショウジョウトンボ (10.V.1997 1♀, 9.V.1998 1♀, 18.V.1998 1♂)

AやFでかなりの数を見ることができ。♀は田圃でもよく見かけた。

3. ヨツボシトンボ (10.V.1997 2♂♂, 9.V.1998 1♂)

昨年Aで数頭見られたのが初めての観察で、今年はFの池で多産していることが分かった。

4. シオカラトンボ

池や田圃の岸辺で見られる普通のトンボである。

5. オオシオカラトンボ (4.VI.1997 1♂)

シオカラトンボとほぼ同様な所で見られ、やはり数は多い。

6. ハラビロトンボ (7.VI.1997 1♂)

Aで数は少ないが見ることができ。

7. コシアキトンボ (4.VI.1997 1♂)

山道および池で非常に多いトンボである。

8. チョウトンボ (5.VII.1997 1♂)

B, C, E, Fの池及びその上空を舞う姿は本当に優雅である。数はかなり多い。

9. ウスバキトンボ (5.VII.1997 1♂)

夏前の田圃に水が張られると待ってましたとばかり、田圃の上をものすごい数の個体が飛び回っている。

10. アキアカネ

次のナツアカネ、マユタテアカネと共にこの地域のアカトンボの中核を形成する。

11. ナツアカネ (3.VII.1997 1♀)

アキアカネと共に数は多い。

12. マユタテアカネ

夏のさなかにも林の脇に夏を越す個体を結構見る。秋には非常に数が増える。

13. リスアカネ (19.VII.1997 1♂, 20.VI.1998 1♀)

マユタテアカネとともに林の脇で夏を越している。夏は個体数がかなり多く感じられるが、秋にはナツアカネやアキアカネなどに押されて目立たない。

14. ノシメトンボ

秋になると山道沿いに多くの個体を見ることができ。

15. コノシメトンボ (12.X.1997 1♀)

この地域ではこれまで 1頭だけ見られている。

16. マイコアカネ (30.IX.1995 1♂)

アカトンボ類に混じってこれまで 2,3頭見かけられた。数は多くないと思われる。

注：日付のないものは目撃または採集後放したもの。なお、目録には以前に採集した記録も含めている。

<参考文献>

木下修一・牛尾巧(1997) きべりはむし 25(2):39-43.

木下修一(1998) きべりはむし 26(2):13-16.

(KINOSHITA SYUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)

兵庫県におけるオサムシの分布(1)¹⁾

高橋 寿郎

筆者はかつて同じ表題で兵庫県下におけるオサムシの分布状況を詳しく報告したことがある(兵庫生物 Vol.7, No.5:247, 1979, Vol.8, No.1:37-39, 1980, Vol.8, No.2:110-112, 1981)。その後、筆者自身も県下のオサムシの分布調査を継続したし、兵庫県下でのオサムシの分布記録(特に但馬地方)も多く発表されている。そこで、現時点での兵庫県におけるオサムシの分布状況をここに再度まとめた。

何分浅学未熟者故多くの誤り、脱落等あるやに思われる。大方諸賢の御指導、御教示を頂くことができればこれに過ぎることはない。

Family Carabidae

オサムシ科

Subfamily Carabinae

オサムシ亜科

1. *Apotomopterus porrecticollis kansaiensis* (Nakane, 1961) ホソアオクロナガオサムシ(図・1, 2)

本種は県下では分布が限定されているように思われると前報で述べたが、その後淡路島からの記録も見られるし、瀬戸内海に面した海岸線近くに

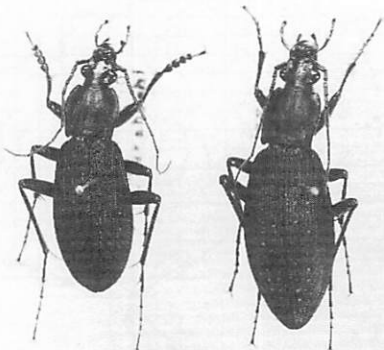


図 1.

Apotomopterus porrecticollis kansaiensis (Nakane, 1961)

ホソアオクロナガオサムシ

左 ♂ 体長26mm 右 ♀ 体長31mm

佐用郡大撫山産 11. III. 1977 採.

は記録がほとんど見られないが、佐用郡大撫山には極めて多くを産し、この地域から北の方に及んでは割合広く産するようで、但馬地方では最も普通種になるとか(永幡, 混虫ずかん, No.43, p.5, 1994)。県の中・北部を中心に分布は広く産するようである。

産地。津名郡北淡町常隆寺[大草, 1993]³⁾。川辺郡猪名川町杉生新田～能勢町天王南方 alt.490～500m, 猪名川町上阿古谷三草山(東稜線)～神山 alt.400～330m. 大原山～柏原 alt.450m. 大野山～

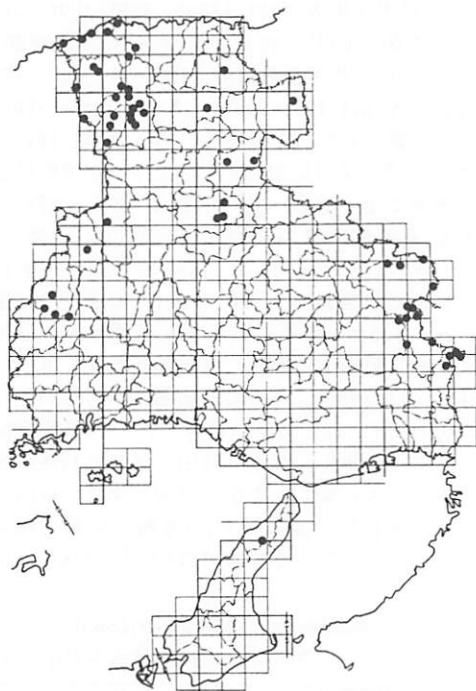


図 2. ホソアオクロナガオサムシの分布

1) 兵庫県甲虫相資料・347

2) 番号は便宜的につけた。

3) []は文献からの記録。文献名は筆者著 県産甲虫に関する文献目録(1975, 1981, 1984, 1995)参照。
1998. 富永 修, mt-DNA分析用に得た中国地方のオサムシの記録。すかしば(46):13-17. 並びに大貝秀雄, 赤相地区を中心とした播磨地方のオサムシ分布資料。てんとうむし(12):65-66, 1998の記録も収録してある。

一本松 alt.650~700m[近畿,1979]. 川西市上之町(北東)上杉池(西)~妙見山 alt.370~520m[近畿,1979], 黒川,横地,笹部[仲田,1978,1982], ときわ台(1♂,28.II.1979)⁴⁾. 宝塚市香合新田[大平,1992]. 多紀郡城東町四十九 alt.420m. 上箆坊 alt.420m, 箆坊 alt.400m, 多紀町相坂岐 alt.310~330m, 天引峠(西方) alt.320m. 篠山町小金ヶ嶽・三嶽間の峠 alt.520m[近畿,1979], 西紀町畑[小宮,1970, 岸田,辻,1975], 雨石山[林ほか,1995]. 豊岡市高屋金山稲荷神社 alt.80m[近畿,1979]. 城崎郡日高町国分寺 alt.80m,60m. 竹野町雨入, 香住町三川山麓, 香住町御崎[永幡,1994]. 出石郡但東町(赤花)[高橋,1982]. 朝来郡和田山町奥水坂~白井 alt.230m. 朝来町山内(東方) alt.150m. 新井(北方) alt.180m. 立野(北方) alt.170m[近畿,1979], 和田山町東谷(和田山南側)[富永,1998]. 佐用郡佐用町大願寺 alt.160~220m, 西徳久 alt.180~200m, 大撫山 alt.200~400m[近畿,1979, 富永,春沢,1973, 嵯峨,1986], 大撫山(4♂,5♀,15.III.1975,etc.), 佐用町日名倉山奥海岬下, 延吉~豊福, 新田[富永,1998]. 宍粟郡千種町千草~岩野辺 alt.380m[近畿,1979], 赤西(2♂,2♀,12.IV.1981, S.Ogura leg.). 美方郡浜坂町居組 alt.40~60m. 浜坂下夕林道 alt.80~120m. 浜坂町久米駅前八幡神社, 温泉町蒲生峠~船坂上の神社. 村岡町春來峠, 南下, 丸味上 alt.380m. 美方町鍛冶屋. 美方村熱田~氷の山(峠下) alt.950m[近畿,1979]. 浜坂町城山, 観音山, 本谷, 温泉町竹田, 湯谷, 村岡町相岡, 和田, 本谷実, 大ぬか, 村岡, 神坂, 萩山, 板仕野, 兎和野, 美方町大谷[永幡,1994], 扇ノ山[辻,岸田,1972]. 赤穂市谷口[大貝,1998].

2. *Calosoma maximowiczii* (Morawitz,1863)

クロカタビロオサムシ(図・3,4)

本種は, Bates によって Hiogo に産するとした古い記録がある(1873). 当時の Hiogo は現在の神戸市内のことであって筆者も神戸市内で採集しているが, 極めて稀のようである. 淡路島からは最近記録がある. 古くから川西市笹部付近には多産することが知られていたが, 開発で様子の変化が

あり, 現在どのような状況なのかわからない. 揖保郡には古い記録がある(1906). 相生市三濃山, 佐用郡大撫山などでは採集出来ている. 養父郡での記録もあるが, 県下全般での記録はあまり無い. 本種の幼虫は鱗翅類の幼虫を捕食することがよく



図3. *Calosoma maximowiczii* (Morawitz,1863)

クロカタビロオサムシ

♂, 体長: 30mm. 佐用郡大撫山産 13.III.1976

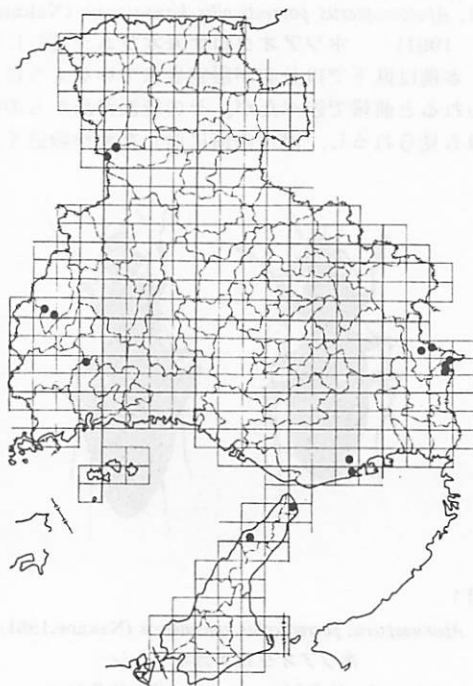


図4. クロカタビロオサムシの分布

4) ()は筆者採集標本, 原則として標本は県立人と自然の博物館保管, 採集例の多いものは1例のみ掲げて他はetc.として省略する.

知られているが、後翅が発達しているので燈火に飛来することも知られている。筆者の採集は何処とも道路上を歩いているものを採集している。

産地。津名郡淡路町茶間川、北淡町生田大坪[大草,1993, 登日,1997]。川辺郡猪名川町三草山[近畿,1979]、木間生[仲田,1978]。川西市笹部、大和、横地[仲田,1971,1978,1982, 近畿,1979]。兵庫[神戸][Bates,1873]。神戸市鳥原(1♂,12.V.1980)。揖保郡[大上,1906]。相生市三濃山(1♂,18.V.1974)。佐用郡佐用町大撫山 alt.250~400m[富永,春沢,1973, 近畿,1979]、大撫山(1♀,13.III.1976)、大願寺 alt.160~220m[近畿,1979]。養父郡関宮町鉢伏高原[日浦,1971, 高橋,1982]、氷の山越[永幡,1994]。

3. *Campalita chinense* (Kirby,1818)

エゾカタビロオサムシ(図・5, 6)

本種は兵庫県下では分布も広く、特に海岸線に近い地域にはわりと多く分布しているようである。

永幡によると調査のポイントとしては、まず河川の下流に架かる橋の水銀灯が挙げられている。三木市では日中は欄干の隙間に潜み、夜になると出てくるのが観察されていると報じている(1994)。

電灯に飛来したものを採集した報告が多い。筆者の採集も全部電灯に飛来したものである。クロカタビロオサムシと同じように後翅が発達しているからである。

産地。三原郡西淡町[登日,1979]。三原町八木養宜[藤富,1995]。洲本市中河原町[堀田,1978]、宇原[登

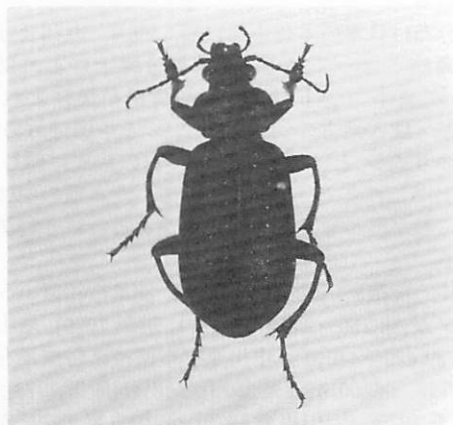


図5. *Campalita chinense* (Kirby,1818)

エゾカタビロオサムシ

神戸市多井畑 1♂, 19.VII.1990.

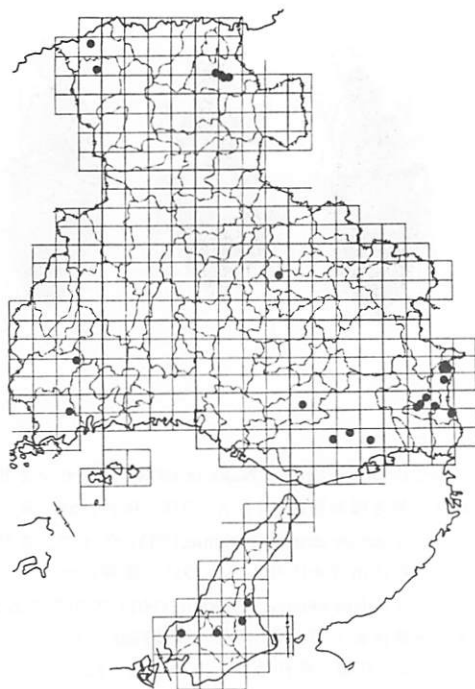


図6. エゾカタビロオサムシの分布

日,1979]、山武牧場(相川)[登日,1980]。川西市見野、大和[仲田,1970,1978,1982]。新田井之向286 alt.50m, 山下[近畿,1979]。伊丹市荒牧[河上,1984]。伊丹市天津・猪名川河川敷[富永,1998]。宝塚市[小島,1976]、武庫町、南口2丁目[新家,1988]、武庫川町、売布が丘[大平,1992]、南口2丁目(1♀,2.VI.1989, Niinomi leg.)。神戸市摩耶山(1♀,21.VII.1955)山の街[近畿,1979]、藍那(1♂,28.VII.1993)、多井畑(1♂,19.VII.1992)。三木市[永幡,1994]。赤穂郡上郡町金出地、赤穂市高雄[大貝,1998]。氷上郡山南町若林(1♀, VII.1972, K.Kuramoto leg., 1♂, VIII.1972, K.Fujiwara leg.)。豊岡市鞆団地、上陰、立野[高橋,1975,1982]、豊岡駅[近畿,1979]。美方郡浜坂町戸田、温泉町湯中山[永幡,1994]。

4. *Carabus daisen daisen* (Nakane,1953)

ダイセンオサムシ(図・7, 8)

中根猛彦博士により"Daisen, Tottori"産でヒメオサムシの亜種として記載されたものである。

Apotomogeterus japonicus daisen Nakane, Rep. Sai-kyo Univ., (Nat. Sci. & Lib. Sci.), 1(2):48,1953.

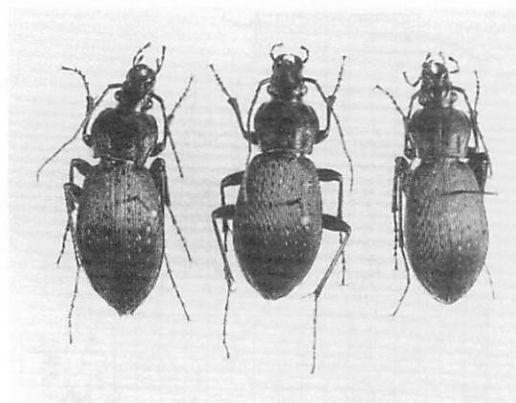


図7. 左より

1. *Carabus daisen daisen* (Nakane, 1953) ダイセンオサムシ 美方郡浜坂産 17. X. 1978 体長24mm. ♀
2. *Carabus daisen daisen* (Nakane, 1953) ダイセンオサムシ 松江市枕木山産 7. VI. 1986 体長24mm. ♀
3. *Carabus daisen okianus* (Nakane, 1961) オキオサムシ 隠岐島島後都万 21. VII. 1982 体長23mm. ♀
2, 3は淀江賢一郎氏採集 Hachitani Photo.

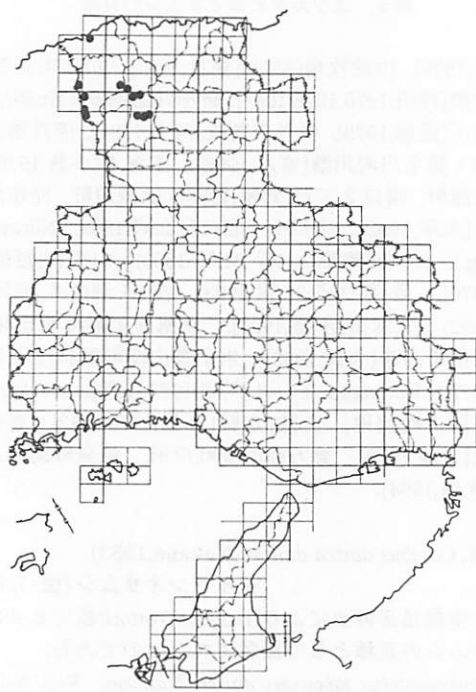


図8. ダイセンオサムシの分布

兵庫県からの初めての記録は日浦 勇らによる近畿オサムシ研究グループによる"近畿地方のオサムシ"(大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第11集, 1979)においてであると思われる。その後、筆者は浜坂町の宇都野神社の裏手で掘った1♀を採集した。最近、永幡嘉之は美方郡扇ノ山麓地帯で多くの産地を報告されている (1996, IRATSUME, No. 20)。現在の兵庫県下では美方郡に知られているだけである。

産地。美方郡浜坂町宇都野神社(1♀, 17. X. 1978)。温泉町春來峠の池畔[近畿, 1979]。村岡町春來峠～丸味 alt. 370m [近畿, 1979, 高橋, 1982]。村岡町和田 alt. 220m [近畿, 1979, 高橋, 1982]。蒲生峠 alt. 340m, 海上 alt. 400m, 岸田花口 alt. 360m, 岸田霧ヶ滝入り口 alt. 420m, 岸田菅原 alt. 500m, 岸田肥前畑 alt. 580m, 扇ノ山畑ヶ平(高原上) alt. 980m, 扇ノ山上山高原 alt. 920m, 扇ノ山小ツッコ alt. 1,000～1,100m, 小ツッコ(小ツッコ小屋付近) alt. 1,080m, 小ツッコ(雨滝からの登山道との合流点) alt. 1,100m, 小ツッコ(大石からの登山道との合流点) alt. 1,160m [永幡, 1994]。

5. *Carabus dehaanii* Chaudoir, 1848

オオオサムシ(図・9, 10)

本種はヤコンオサムシとともに兵庫県下全域に広く分布しており、個体数の多い少ないの違いはあってもまず満遍なく産する種の一つであろうと考えられる。越冬に際しては、頭部を外方に向けている。

分布は日本の本州中部以西、四国、九州及び周辺島嶼となっている。井村有希博士によれば(1996)、ミトコンドリアDNAの解析結果によれば、中部・関西地方の"オオオサムシ"と中国地方の"オオオサムシ"とはそれぞれ全く別の系統に属し、形態上にこれまで一種と見られていた本種の中に複数の種が混じっている可能性があるという説明がある。

産地。淡路島[玉井, 佐藤, 1966]。洲本市柏原山～竹原ダム alt. 250～269m [桂, 1971, 近畿, 1979]。崎山南側 alt. 420～440m, 中川原町市原淡路岳横尾トンネル南 alt. 200m [近畿, 1979]。安乎町[堀田, 1978]。納[川瀬, 1979]。内田[川瀬, 1979]。先山[近畿, 1979, 久松, 1973, 桂, 1971]。先山(1♂, 22. VII. 1976, Hotta leg. 2♂ 2♀, 9. III. 1978)。洲本市安坂～先山, 先山～無線中継塔, 先山, 千光寺, 千光寺～下内膳, 上内膳分

岐[富永,1998]. 三原郡鮎屋[久松,1973], 緑町広田周辺[川瀬,1979], 論鶴羽山[堀田,1978, 桂,1971, 川瀬,1979], 同山山頂南側 alt.570~600m[近畿,1979]. 川辺郡猪名川町杉生新田(東方)~高岳北稜線 alt.500m, 杉生新田~能勢町天王(南方) alt.490~500m, 上肝川 alt.180m[近畿,1979]. 川西市上之町北東上杉池~妙見山 alt.370~520m. 満願寺~最寺竜 alt.150m, 舍羅林山[近畿,1979], 横地, 芋生[仲田,1978,1982], ときわ台(3♀,28.III.1979). 笹部~初谷川 alt.150m. 笹部[近畿,1979, 仲田,1978]. 宝塚市鳥脇山尾根~鳥脇 alt.350~400m, 鳥脇ダム~十万社 alt.310m, 最明寺滝北 alt.150~180m, 夫婦峠~中山寺奥ノ院 alt.150~180m, 砂山権現~横尾寺 alt.430~500m. 夫婦岩~中山 alt.250~300m,390~400m, 420~450m[近畿,1979], 中山寺奥ノ院 alt.300~350m, 立合新田東 alt.250m, 十万社~立合新田 alt.330m[近畿,1979], 岩倉山(1♂2♀,9.III.1979). 西宮市北部有馬地区, 六甲山地[日浦,瀬戸,宮武,1972], 鷲林寺町~観音堂 alt.260~330m, 鷲林寺~旭滝 alt.350~400m, 旭滝~観音山 alt.400~450m,450~530m, 観音堂~旭滝 alt.350~450m, 鷲林寺, 同道路~バス停, 観音山 alt.350~400m, 400~500m, 畑山 alt.300~380m,450~500m, 船坂谷, 山口町下田三ヶ平口 alt.320m. 東久保~畑山下半 alt.300~380m, 畑山稜線 alt.500~550m, 同~玉が辻 alt.450~524m, 山口丸山南麓 alt.290m, 山口町船坂バス停横 alt.400m[近畿,1979], 盤滝(1♂1♀,28.V.1987,etc.), 船坂(1♀,1.VI.1989). 芦屋市奥山北東芦有道路東脇 alt.510m,520m, 六甲山東お多福山雨ヶ峠~本庄橋 alt.600m[近畿,1979]. 神戸市[中根,1952], 東灘区荒神山西面 alt.450m[近畿,1979], 六甲山(1ex.,27.VII.1939), 一王山(1ex.,15.I.1938,etc.), 盤滝(2♀,10.VI.1987), 灘区箕面町4丁目~摩耶ケーブル摩耶駅 alt.150~240m,240~300m,300~500m[近畿,1979], 六甲山系油コブシ高羽道[富永,1998]. 摩耶山 alt.150m[近畿,1979](1ex.,3.VI.1938,etc.), 保久良山(1♂,1.V.1975,etc.), 葦合区稲良坂~世継山 alt.400m[近畿,1979], 再度山(1ex.,30.V.1938,etc.), 市ヶ原(1♂,6.V.1979), 鳥原(1♂,16.V.1979,etc.). 菊水山南麓 alt.280m, 鈴蘭台駅南 alt.300~350m, 高尾山南東 alt.350m[近畿,1979], 下谷上(1♀,16.X.1979), 谷上(1♀,25.V.1986,etc.), 箕谷(7♂9♀,4.XI.1991), 山の街西方 alt.350~400m, 山の街[近畿,1979]. 山の街(3♂3♀,23.III.1975,etc.), 星和台(1♀,9.XI.1979), 西鈴蘭台(5♂

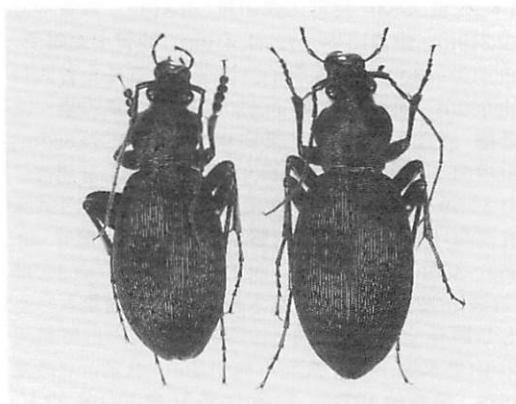


図9. *Carabus dehaanii dehaanii* Chaudoir,1848

オオオサムシ

左♂, 右♀. 神戸市北区岩谷峠 20.XI.1981

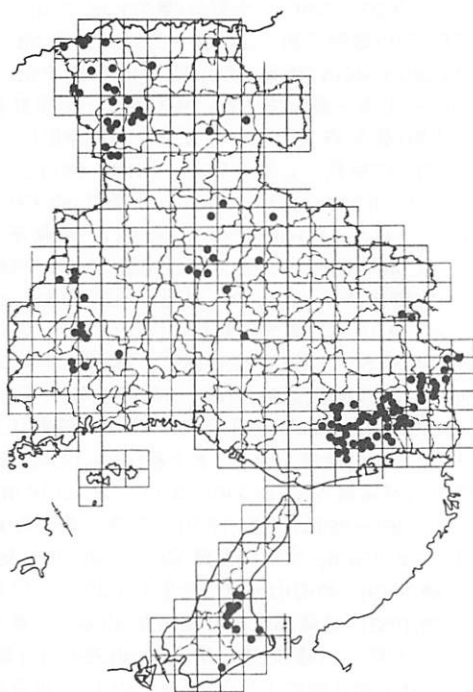


図10. オオオサムシの分布

6♀,20.X.1981), 鈴蘭台大山公園(1♀,16.IV.1987). 藍那(4♂7♀,14.XI.1975,etc.), 丹生山~坂本 alt.350~510m, 稚児ヶ墓山南西斜面 alt.300~500m, 同~岩谷峠 alt.410m[近畿,1975]. 長待山(1♀,7.V.1982), 岩谷峠(9♂7♀,20.IX.1981), 芦谷溪谷(1♂

1♀, 25.III.1983), 投町山西山腹 alt.310m, 妙賀神社 alt.340m, 鍋蓋山牛ノ背 alt.410m, 妙賀山北斜面 alt.410~430m, シュラインロード~ヨモシ谷入口 alt.560m, 同~猪鼻峠 alt.530~560m, 東山橋~上唐櫃 alt.370~390m, 天狗塚~杣谷峠 alt.660m, 射塚山~有馬 alt.600~450m[近畿, 1979], 有馬(1♂, 31.XI.1975). 有馬口~逢山峠(1♂, 4♀, 24.XI.1978), 有馬町下唐櫃, 多聞寺[富永他, 1973], 多聞寺 alt.350~400m[近畿, 1979], 大池古々山峠西 alt.350m[近畿, 1979], 古々山峠[富永他, 1973], 下唐櫃おしゃもじ観音 alt.320~340m[近畿, 1979], 山田町餓鬼の喰[富永他, 1973], 淡河町南中池町 alt.200m[近畿, 1979, 富永他, 1973], 北区八多町屏風(1♀, 22.V.1993). 加西市河内町普光寺 alt.180m[近畿, 1979]. 多可郡三谷(1♀, 6.XI.1976). 神崎郡笠形山(1♂, 6.XI.1976). 神崎郡上大山荒田神社裏 alt.270m, 神崎町大山 alt.260~320m, 生野峠(東方) alt.380m, 大河内町城山(最明寺裏) alt.260~320m, 長谷 alt.680m, 280~340m[近畿, 1979]. 姫路市千本[中臣, 1970]. 相生市三濃山(1♂, 7.V.1972, etc.). 揖保郡新宮町下野[富永, 春次, 1973]. 赤穂郡上郡町金出地[大貝, 1998]. 佐用郡三日月町広山 alt.160~180m, 広山(南方) alt.200~260m, 広山~下筋原 alt.260~200m, 三日月 alt.140~160m, 湯浅口~高蔵寺~徳平 alt.140~220m, 三日月町西ノ脇 alt.120~140m, 新宮町猪ノ谷 alt.160m, 南光町船越瑠璃寺 alt.320m[近畿, 1979], 南光町船越山[石田, 1973], 佐用郡佐用町青木~水根[富永, 1998]. 宍粟郡山崎町岩田神社~NHK塔[近畿, 1979], 山崎町上葛根[宮沢, 春沢, 1973], 音水(1♂, 11.VI.1972). 多紀郡城東町上篋坊 alt.420m[近畿, 1979]. 氷上郡[山本, 1958]. 青垣町大名草常龍寺裏 alt.240~260m, 森 alt.180m, 杉谷 alt.260~280m[近畿, 1979]. 朝来郡朝来町新井(北) alt.180m, 生野町生野(西方) alt.340~380m[近畿, 1979], 和田山町竹田(1♀, 1.IV.1978). 出石郡[高橋, 1982]. 城崎郡城崎町極楽寺 alt.40m. 桑々崎, 香住町三川権現ダムサイト alt.250m[近畿, 1979]. 養父郡八鹿町上小田(南西) alt.40m, 世賀居(西) alt.40m[近畿, 1979]. 美方郡浜坂町居組 alt.40~60m, 浜坂下夕山林道 alt.80~120m[近畿, 1979], 浜坂[高橋, 1982], 浜坂町宇都野神社, 春来峠上の池横, 春来峠 alt.420~430m[近畿, 1979]. 美方町鍛冶屋, 熱田~氷ノ山峠下 alt.950m, 貫田[近畿, 1979], 浜坂町居組, 城山, 本谷, 温泉町竹田, 湯谷, 春来, 蒲生峠, 越坂, 伊角, 村岡町神坂, 祖岡, 板佐野, 村

岡, 鉢北, 本谷奥, 和田, 大ぬか, 美方町久須部, 関宮町大久保, 丹戸[永幡, 1994].

6. *Carabus japonicus awaziensis* Imura, Dezima et Mizusawa, 1993 アワジヒメオサムシ

1993年, 井村有希, 出嶋利明, 水沢清行によってヒメオサムシの亜種アワジヒメオサムシとして記載されたものである(Gekkan Mushi, No.264, p.14, 16, figs.21, 22, 23, 1993).

タイプ標本は, Holotype: ♂, Mt.Sen-Zan, Is., Awaji-shima, Sumoto-shi, Hyogo Pref. 1- II -1984, I.Tanaka leg. Paratypes: 9♂♂, 9♀♀, same data as for the holotype; 2♂♂, as for the holotype, 16- II -1983, I.Tanaka leg.; 6♂♂, 3♀♀, same locality as for the holotype, 5- I -1990, T.Dezima leg.

古くから先山に産するヒメオサムシとして知られていたもので, 筆者も先山で採集している. ただ今の所先山のみが知られている産地で, 淡路島の他の地域には全くいないのかどうかよくわからない.

産地. 洲本市先山[桂, 1971, 久松, 1973, 堀田, 1976, 大草, 1993, 富永, 1998], 先山(1♂, 16.VII.1950, Hotta leg. 1♂, 3♀, 9.III.1978, etc.), 先山南側斜面 alt.430m, 420~440m, 440m, 200m, 350~270m, 200~270m, 300~400m, 400m(千光寺側)[近畿, 1979], 中河原市原淡路岳横尾トンネル南 alt.200m[近畿, 1979], 先山[Imura, Dezima, Mizusawa, 1993], 先山千光寺, 下内膳, 上内膳分岐[富永, 1998].

7. *Carabus japonicus chugokuensis* (Nakane, 1961)

アキオサムシ

中根猛彦博士によってヒメオサムシの亜種として1961年記載されたものである(Frag. Coleop. Pars. 1, p.1, 1961). タイプ標本は

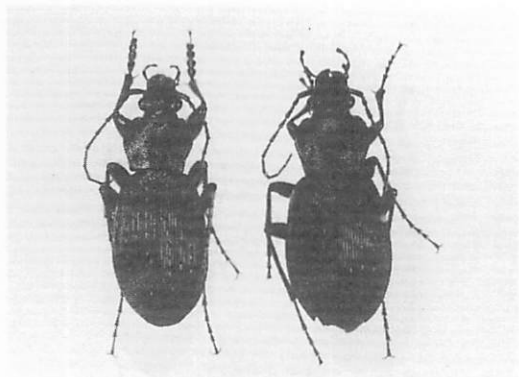
Holotype: ♂, Mt.Takashiro, Shimane Pref., Honshu, 3.IV.1956, K.Mashida leg.

Allotype: ♀, Tojo, Hiba, Hiroshima Pref. Honshu 31. VII.1941, H.Kimura leg.

Paratypes: 8♂♂, 4♀♀, from Shimane, Hiroshima,

Okayama and Hyogo Prefecture.

となっていて Paratypes の産地は一切表示されていない. 1962年の中根猛彦博士の「日本昆虫分類図説第2集, 第3部 鞘翅目 オサムシ科」(北隆館・東京)の中で, Sasayama-Hyogo と兵庫県産のものは多紀郡篠山産のものであることがわかった.

図11. *Carabus japonicus chugokuensis* (Nakane, 1961)

アキオサムシ

左♂, 20. II. 1976 右♀, 11. III. 1977

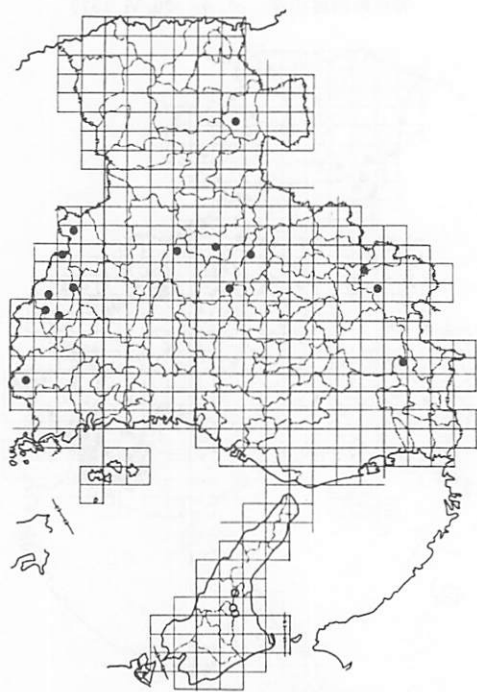


図12. ○ アワジヒメオサムシの分布

● アキオサムシの分布

兵庫県下での分布は、佐用郡の大撫山のようにたいへん多く産するところは別として、わりと限定されているようであるが、分布としては広く分布しているようである。

産地。宝塚市西谷大原野[大平, 1992]。神崎郡大河内

町砥ノ峯(1♂, 3.IX.1977), 笠形山[富永, 1998]。多可郡加美町千ヶ峰[富永, 1998]。佐用郡佐用町大願寺東方の谷 alt.160~220m, 中三河(西方) alt.250~400m[近畿, 1979], 大撫山[近畿, 1979, 富永, 春沢, 1973, 嵯峨, 1986], 大撫山(8♂, 7♀, 13.III.1976, etc.), 佐用郡日名倉山奥海岨下, 延吉~豊福・新田[富永, 1998]。赤穂郡上郡町高山, 宍粟郡千種町西河内[大貝, 1998]。多紀郡多紀町藤阪(神社裏山) alt.300m[近畿, 1979], 篠山[岸谷, 1961, Nakane, 1967, 小宮, 1970, 中臣, 1970, 岸田, 辻, 1975], 西紀町(2♂, 1♀, 18.IV.1936, K.Kobayashi leg.). 出石郡出石町[高橋, 1963, 1982]。朝来郡生野[小宮, 1970]。養父郡氷の山[日浦他, 1971, 高橋, 1982]。関宮町氷ノ山ゴロゴロ坂[近畿, 1979]。美方郡扇の山[永幡, 1996]。

8. *Carabus maiyasanus maiyasanus* Bates, 1873

マヤサンオサムシ

種名のごとく神戸の摩耶山産で記載された種である。原記載には "Found only at Moon temple (Maiyasana), Kobe; at 2,000 feet" とある (Trans.ent. Soc. London, 1873-Part. II: 232) (Moon-temple は初利(とうり)天上寺のことで、当時の位置と現在の位置は違っている)。

淡路島にはまだ産地は知られていないが、兵庫県下には広く分布しているようだ。特に六甲山系には多い。ただし、この基亜種は本州中部から兵庫までで、鳥取県には分布していないといわれている。基亜種の系列には、北陸と養老山地の2亜種が含まれ、分布域南限の鈴鹿山脈南東麓、信楽山地、三重県宮川上流、三重県鶴方付近などによりもう一つの系列が形成されると。

産地。川辺郡大野山~柏原 alt.450m, 猪名川町大野山 alt.750m, 上阿古谷・三草山~神山 alt.400~330m, 柏原 alt.390~400m[近畿, 1979], 上阿古谷, 里野[仲田, 1970, 1978]。川西市妙見山駐車場 alt.640m, 上之町上杉池(南)~妙見山 alt.370~520m, 笹部[近畿, 1979], 笹部[仲田, 1978, 1982]。宝塚市譲葉山~岩倉山 alt.480~500m[近畿, 1979], 岩倉山(1♂4♀, 9.III.1979), 大原野自然ノ家構内(1♂, 21.V.1978, T. Okutani leg.), 塩尾寺, 香合新田[大平, 1992]。西宮市北部山地有馬地区, 六甲山地東南部[日浦, 瀬戸, 宮武, 1972], 熊笹峠登り口~熊笹峠 alt.580~600m, 棚越~大谷乗越 alt.550~660m, 観音堂~旭滝 alt.350~450m[近畿, 1979], 船坂(1♂, 29.V.1987, etc.), 盤滝(7♀, 12.VI.1987, etc.). 芦屋市奥池 alt.550m,

トビワリ～東お多福山バス停 alt.480m, 六甲山東
 お多福山雨ヶ峠～本庄橋 alt.600m[近畿,1979].
 神戸市六甲山[中根,1952, 中根,伊賀,1955, 神吉,
 1958, 日浦,1971], 六甲山(1ex.,27.VII.1939), 六甲山
 系油コブシ高羽道[富永,1998], 六甲寒天山頂[吉阪,
 1961, 日浦,1971], 六甲山麓(1♀,22.VIII.1931, K.Ko-
 bayashi leg.), 一王山(7exs.,15. I .1939), 保久良山
 (1♀,12.V.1978), 御影[関,1934, 吉阪,1961, 日浦,
 1971], 本山町森[八田,1971], 東灘区雨ヶ峠～本庄
 橋 alt.610～550m, 灘区箕面町4丁目～摩耶ケー
 ブル摩耶駅 alt.300～400m, 摩耶山[近畿,1979],
 摩耶山[Bates,1873, Heyden,1879, 柴内, 中畔,1950,
 Nakane,1953, 小宮,1970, 井村,水沢,1996](3exs.,20.
 VI.1939.etc.), 森林植物園(2♀,14.VI.1986), 鳥原
 (2♂,16.VIII.1987.etc.), 鳥原～鶴越[富永,1998], 葦合
 区稲妻阪～世継山 alt.400m, 再度谷[近畿,1979],
 再度山[吉阪,1961, 日浦,1971](19♂,5♀,10.VI.1959.
 etc.), 山の街[近畿,1979, 日浦,桂,1971](7♂6♀,23.
 III.1975.etc.)[富永,1998], 藍那(1♀,11.X.1978), 箕
 谷(1♂1♀,4.XII.1991), 丹生山～坂本 alt.450～510
 m, 鈴蘭台[近畿,1979], 丹生山, 丹生山[永幡,1991],
 北鈴蘭台(5♂4♀,20.XI.1981), 大山公園(4♂6♀,4.
 XII.1991.etc.), 下唐櫃おしゃもじ観音 alt.320～340
 m, 有馬口カタ越峠 alt.320m, 下唐櫃, 投町山(西
 山腹)～行原 alt.250m[近畿,1979], 八多町屏風
 (1♂1♀,12.V.1993.etc.), 岩谷峠(2♂,20.XI.1981), 芦
 谷溪谷(1♀,11.VI.1982.etc.), ヨモシロ谷入り口～
 猪鼻橋 alt.560～530m, 鍋蓋山頂～天王谷 alt.400
 ～250m, 妙賀山(北西の谷) alt.400～350m, 妙賀山
 北斜面 alt.410～430m, 稚子墓山(南西斜面) alt.300
 ～350m[近畿,1979], 三田市永沢寺～奥ノ院 alt.
 530～570m, 尼寺～花山院 alt.250～300m, 川原北
 東～布木, alt.200m[近畿,1979], 多可郡加美町清
 水口雲門禅寺～沓ヶ岳南方の峠 alt.450m, 清水～
 鳥羽[近畿,1979], 大山新[日浦,桂,1971], 加美町三
 谷(1♂,24.V.1975), 加美町千ヶ峰[富永,1998], 神崎
 郡大河内町川上～砥ノ峯, 大河内町上大山(東方)
 alt.280m, 生野峠 alt.380m, 大河内町城山(最明寺
 裏) alt.260～320m[近畿,1979], 神崎郡大河内町長
 谷 alt.600m,280～340m[近畿,1979], 笠形山(1♂,6.
 XI.1976)[富永,1998], 加西市河内町普光寺[嵯峨,
 1986], 姫路市書写山門教寺裏 alt.360m[遊磨,1979],
 千本[中臣,1970], 相生市三濃山(2♂,6.V.1973.etc.),
 矢野小河, 矢野釜出, 矢野瓜生[大貝,1998], 龍野市
 菖蒲谷 alt.250～300m[近畿,1979], 赤穂郡上郡町

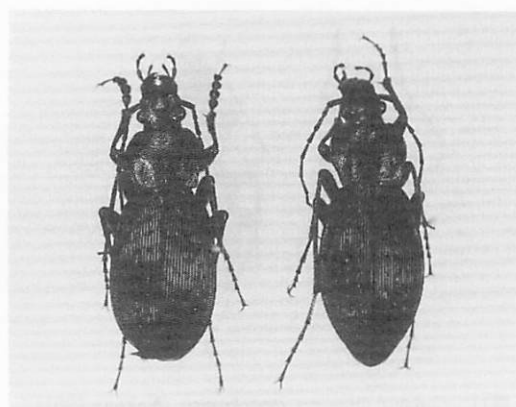


図13. *Carabus maiyasanus maiyasanus* Bates,1873

マヤサンオサムシ

神戸市再度山産 ♂, ♀ 20. VI. 1979

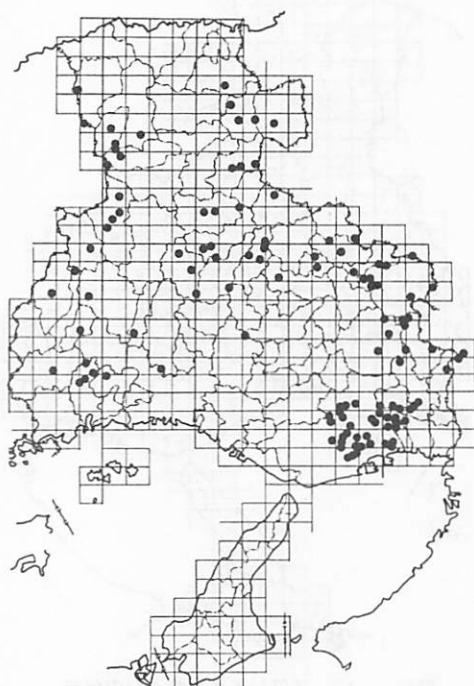


図14. マヤサンオサムシの分布

惣尻 alt.60～80m[近畿,1979], 佐用郡三日月町広
 山～下筋原[近畿,1979], 船越山[石田,1974], 佐用
 町延吉～豊福・新田[富永,1998], 宍粟郡安富町(旧
 安師村)塩野[近畿,1979, 日浦,桂,1971], 山崎町岩
 田神社～NHK塔 alt.180～260m, 葛根 alt.250～

280m[近畿,1979], 山崎町葛根[富永,春沢,1973], 千種町千草〜岩野辺 alt.380m[近畿,1979], 波賀町原[日浦,桂,1971, 遊磨,1979], 波賀町音水(1♀,25.VI.1972), 波賀町戸倉, 大森神社[近畿,1979], 波賀町引原(1♀,22.IV.1975, M.Yuma leg.). 多紀郡篠山町東浜谷, 春日神社 alt.260m[近畿,1979], 東浜谷池東岸 alt.260m, 郡家 alt.240m[日浦,1971, 近畿,1979], 小金ヶ嶽,三嶽ノ間の峠 alt.520m, 西浜谷〜東浜谷(盃ヶ岳山麓), 春日神社 alt.270m[近畿,1979], 篠山町[岸谷,1961, 岸田,辻,1975](2♂4♀,17.IV.1976), 大市[水沼,1969], 三嶽[中臣,1970], 城東町四十九 alt.420m, 弥十郎岳南東の峠下方 alt.600m, 飛曾山東方 alt.250m[近畿,1979], 多紀町天引峠(西方) alt.320m[近畿,1979], 雨石山[林ほか,1995], 西紀町(1♂,15.I.1977,etc.K.Kobayashi leg.). 水上郡[山本,1958], 春日町(東) alt.260m. 市島町多利(東方) alt.120m, 春日町黒井城山(西斜面) alt.230m[近畿,1979], 柏原町柏原入船八幡神社 alt.50m, 青垣町大名草〜槍倉 alt.240m, 杉谷 alt.260〜280m[近畿,1979], 山南町若林(1♂,26.III.1975, K.Kuramoto

leg.,3♂5♀,23.I.1977, K.Fujiwara leg.), 石生(1♂, XI.1981, Y. Hachitani leg.). 出石郡出石町水石(東床尾山北麓) alt.100〜140m[近畿,1979], 但東町河本, 出石町三木, 鍛冶屋[高橋,1982]. 豊岡市九日市[高橋,1975], 高尾山金山稻荷神社 alt.80m[近畿,1979]. 朝来郡朝来町青倉山青倉神社 alt.800m, 生野町生野(西方) alt.340〜380m, 口銀谷姫宮神社(西方) alt.320m, 和田山町奥水坂〜白井 alt.230m, 東町小谷 alt.160m, 朝来町新井(北方) alt.180m[近畿,1979], 朝来町佐寝・さのう高原, 和田山町東谷(和田山西側), 柳原(和田山北東側)[富永,1998]. 養父郡関宮町丹戸[中山,1968, 日浦,1971], 関宮町鉢伏高原[富永,1998]. 氷の山[大槻,1957, 日浦,桂,1971], 氷の山(1ex.,19.VII.1943, M.Ohkura leg., 1ex.,12.VII.1954, M.Yoshizaka leg.), [高橋,1964,1982]. 美方郡美方町鍛冶屋 alt.450m[近畿,1979, 辻,岸田,1971], 温泉町蒲生峠〜越坂上の神社[近畿,1979], 鉢伏山頂[日浦,桂,1971], 村岡町福岡八幡神社[富永,1998], 扇ノ山[辻,岸田,1972, 高橋,1982]. (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区水室町1-44)

キベリハムシを日本で一番初めに採集したのは ジョージ・ルイスではないのか? 高橋 寿郎

筆者は本誌上に「キベリハムシが初めて日本で記録されたところの想い出」なる報文を発表して頂いた(きべりはむしVol.25, No.2: 44-47, 1997). その中でキベリハムシが初めて図説されたのが加藤正世博士の分類日本原色図鑑第9輯, pl.23, f.6にカラーで図説されたものであると紹介し, 当然その頃より本種の神戸での記録は見る事が出来るようになった。だがそれ以前何時頃神戸でこのキベリハムシがいたのかと云ったことは全く謎のままであり, 漠然と明治の終わり頃ではないかと考えていたのであるが, 最近, 偶然黒沢良彦博士が, よく知られている素木(しらき)標本についての詳しい解説文を書いておられるのをゆっくり読む機会を持った(甲虫ニュース No.50: 7-13, No.51: 5-6, 1980). 即ち, 素木標本として知られている標本は, 大正5年(1916)当時の台湾総督府農事試験場技師であった素木得一博士が, 3年間のロンドン留学

を終えて帰国されたが, 帰国に際し膨大な量の日本内地や東南アジア産の甲虫標本を持ち帰られた。

日本内地産の標本は有名なジョージ・ルイス(George Lewis)の採集品で, 彼自身や他の甲虫学者によって記載された多くの種類のタイプ標本を含んでいた(この標本がどのような経緯で入手されたのかは全く不明である)。これらの標本の産地を示すラベルは素木得一博士が帰台後台北においてすべて外され, その代わりに台湾内の特定の数カ所の地名を示すラベルが付けられたとのことで, このような大がかりな意識的なラベルの付け替えが, いかなる目的のもとにされたのか, これまた全く謎である。

さらに, 黒沢良彦博士の解説は続く。“降って大正11年(1922), 当時台湾に在って浪人中の若き日の加藤正世博士は, 素木得一博士の尽力により, 台湾総督府嘉義農事試験場に奉職した。同博士は

昭和3年(1928)まで足掛け7年間台湾に滞在されたが、内地に戻るに際し、博士自身の採集品と共にかなりの量の「素木標本」を持ち出した。その間の経緯についても「素木標本」の経緯と同様に私にはどうであったか全く判らない。ただ、加藤正世博士がこれらの標本をすべて台湾産と信じて全く疑いを持たれなかったことは確かである。”とある。

加藤正世博士が東京に居を移した後、昭和8年(1933)に刊行された加藤正世博士著「分類原色日本昆虫図鑑」の甲虫編に当たる第8及び第9輯に多量の「素木標本」がすべて台湾産として図示されていることによってそれは推定できる。しかし、加藤正世博士は甲虫の方はあまり詳しくなかったもので、同図鑑の中には随所に奇妙な「頭隠して尻隠さず」式の誤りが散見するとして、黒沢良彦博士は数多くの図示された種の分布上不合理な点を指摘され、それ等標本の真の産地を示されている。

ただ、黒沢良彦博士もハムシについてはあまりよく御存知なかったのか、図鑑第9輯, pl.13, f.6に「*Oides bowringi* Baly キベリハムシ[分布]台湾」とあるのに疑問を示されていない(学名も違っている……*Oides bowringii* Baly)。この図鑑が発行されてからこのキベリハムシが次々と神戸六甲山系で見つかりはじめ、いろいろと疑問も出てきたが、それに対して加藤正世博士は自身で採集されたものならその状況の説明があってもよいであろうし、その標本にどんなラベルが付いていたのか等々について何の言及もされていない。当時ハムシ類の専門家の湯浅啓温博士も、台湾から未記録だとされ内地からもしはじめてであると云っておられる(昆虫界, Vol.1, No.6, p.656-657, 1933)。加藤正世博士は、このキベリハムシの標本も素木標本の一つであり、台湾産のものでないといったことに気がついていなかったのだと思われる。即ち、黒沢良彦博士の解説によるジョージ・ルイスの採集品に台湾での産地ラベルを付けられた素木標本であり、ハムシについてあまり御存知なかった加藤正世博士が何の疑いも持たずに台湾産であると図説されたものであると考えられる(それ以後、現在に至るまでの台湾のハムシの調査結果からも、キベリハムシが台湾にいと云った記録は全く見られない)。ジョージ・ルイスは1867(慶応3)年から1872(明治5)年にかけて日本に滞在して(厳密には1864年—元治元年と1865年に日本に立ち寄っている)、長崎や神戸、大阪を中心に横浜、鹿児島など

を含めて採集している。神戸で何処をどのように採集したのかよくわからないが(神戸産で新種記載されている甲虫は多くある)。

慶応3年と云えば明治元年で、神戸開港式が挙行されている。筆者の手許に明治2年版の「兵庫港地図」がある。人家のあるのは兵庫津を囲んだ地域のみで、その兵庫津の周辺の村々には萬屋・酒屋の一・二軒があるほかほとんど農地で、背後には未開の山地が見られる程度のまだまだ自然状態での様相を呈している。同じ明治12年の兵庫・神戸実測図という地図も手許にある。湊川から東の海岸線沿いに人家が増えたぐらいで、やはりまだ未開の地の印象を受ける。さらに、明治2年頃の生田の森を北野の高台から望んだ写真、明治4年3月起工の生田川の付け替え工事の写真が「写真集、神戸100年」(神戸市, 1989刊)に示されている。港付近を除いては田園風景そのものの全く現在とは想像もつかない状況を見ることが出来る。

ジョージ・ルイスが2回目の日本訪問(1880~1881年)の日本各地の訪問先は詳しくわかっている(草間慶一, ジョージ・ルイスの足跡について(上). 月刊むし(8): 18-23, 1971)。その時神戸には、1881年6月4日~6月9日にわたり滞在、兵庫、湊川、三宮、摩耶山に行っており、7月9日から19日迄もいたことになっている。どちらの訪問にしても、ジョージ・ルイスは神戸ではかなり長い間滞在、採集したようであり、その時キベリハムシを採集したことは十分考えられる。そうすると、キベリハムシが日本からはじめて採集されたのは、ジョージ・ルイスによる1867~1872, 1880~1881年のどちらかになるのではと考えられる。即ち、少なくとも明治のはじめにはキベリハムシは神戸にいたのだといえそうである。或いは、もっと前に日本に来ていることも考えられないことはないが……。どのような経緯で日本に入って来たのかよくわからないが、少なくとも明治初めの頃から神戸に住みついていたことは間違いのないのではと思ひ、そのキベリハムシの初めての採集者はジョージ・ルイスであると考えてよいのではないかと思っている次第である(ジョージ・ルイスの Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago, London, 1879 の中にはこのキベリハムシに該当しそうな種は残念ながら収録されていなかった)。

(VI.1998)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

兵庫県産メイガ科 2 種の記録

山本 義丸

(1) ワタヌキノメイガ

従来ワタノメイガと称されていた種が 2 種の混同であることが判明し、先年井上(1990)に依って指摘された。すなわち次の 2 種である。

Haritalodes derogata (Fabricius) ワタノメイガ

Haritalodes basipunctalis (Bremer) ワタヌキノメイガ

日本産蛾類大図鑑(1982)ではまだ両種混同されており、pl.40 に図示されている fig.25 は前者、fig.26 は後者である。両者は前後翅の外縁線の形状などで識別できるが、幼虫の食性も傾向を異にし、ワタノメイガはアオイ科の各種植物、ワタヌキノメイガはアオギリ(アオギリ科)やボダイジュ(シナノキ科)を食することが知られている。

筆者は以前氷上郡(1958)及び氷ノ山(1958)からワタノメイガを記録しているが、どちらの種であったのか。所蔵標本を検したところ、氷ノ山(山麓)で採集しているものはワタヌキノメイガである。氷上郡産の古い標本は手許に無いが、1997 年夏に柏原町で採取したオクラを食する幼虫はワタノメイガであった。

大阪府箕面公園では、筆者は両種ともに飼育し記録している(1998)。恐らく関西一円に両種が混生しているものと思われる。

(2) ウスオビクロノメイガ

本種について県下最初の報告は岡本・猪股(1962)であって、多可西脇地方の蛾類として次の種が記録され、近畿地方の初記録とされている。

Herpetogramma jumboalis Yamanaka (和名なし)

1♂1♀, 17.VIII.1961. 中畑(猪股)

ところで、本種は蛾類大図鑑において学名変更(syn.n.)され、次の名で示されている。

Herpetogramma fuscescens (Warren)

ウスオビクロノメイガ(新称)

筆者はこのほど所蔵標本の中から本種を見出した。関西での記録が少ないので、古いものではあるが一応記録しておくことにする。

柏原町. 1♂, 3.VI.1953.

<引用文献>

井上 寛, 1990. 日本のワタノメイガは 1 種でない, 昆虫と自然 Vol.25(13):27-28.

岡本 清・猪股涼一, 1962. 兵庫県多可西脇地方の昆虫 2 (蛾類 I). 兵庫生物 Vol.4(3/4):154-167, 178.

(YAMAMOTO YOSHIMARU 池田市渋谷 2-2-20)

芦屋市における昆虫 2 種の記録 西 隆広

ナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* (Jordan) は、兵庫県下からは川西市、宝塚市、三木市、西脇市から播磨、丹波、但馬地方に記録がみられるが、六甲山城からは記録がない(高橋寿郎氏私信による)。

私は、本年六甲山城の一部である兵庫県芦屋市において本種を記録したので報告する。採集個体は谷川沿いのススキの葉の上に静止していた。

なお、本種の記録に関して御教授いただいた高橋寿郎氏に深甚の謝意を表する。

1♂ 27.VI.1998 芦屋市高座川 採集者 西 隆広

ヤスマツトビナナフシ *Micadina yasumatsui* Shiraki を六甲山城である兵庫県芦屋市の山中で採集したので参考までに報告する。採集個体は、灌木のスイーピングで得たものである。

1♀ 25.VII.1998 芦屋市奥山町 採集者 西 隆広

(NISHI TAKAHIRO 芦屋市川西町 4-3)

兵庫県蝶類分布資料(13)－減少著しい蝶4種の記録－ (ゴイシシジミ・ウラギンヒョウモン・ウラギンスジヒョウモン・ミヤマチャバネセセリ) 広畑政巳・近藤伸一

はじめに

これまで普通種といわれ、あまり話題にのぼらなかった蝶が、いつのまにか見られなくなっていたという例が多い。このような種は採集記録の発表が少なく、どの地域にいつ頃まで見られたということさえ分からない。

今回は個体数の減少が著しい4種について、兵庫県内における採集記録をもとに分布状況を報告する。記載の方法は、各産地1例ずつあげて、気付いたことを付記した。採集記録のうち場所が特定出来ない箇所については、分布図、垂直分布表から省いた。

本稿を草するにあたり、次の方々に貴重な採集記録を提供いただき、産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

相坂耕作 浅田 卓 石井為久 岩村 巖
故尾崎 勇 木下賢司 木村三郎 佐々木薫
住田正雄 大東康人 高島 昭 徳岡正己
苦木隆幸 西 隆広 蜂谷幸雄 平尾栄治
福本市好 森下泰治 唐土洋一 山下剛史
米村和繁 永嶋嘉之

1 ゴイシシジミ

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の平地、山地に広く分布するが局地的である。県下の分布は図1のように、全域に広く点在するが、発生は局地的である。県南部では住宅地開発などで生息地が消滅した場所も多い。ゴイシシジミの幼虫は純肉食性で、タケ・ササ類等に寄生するアブラムシ類を食べるため、個体数はアブラムシの発生の消長に大きな影響をうける。大発生した同じ場所で次の年には姿を消したり、これまでみられなかった場所で突然大発生することもある。淡路島ではそれまでゴイシシジミの採集記録はなかったが、1980年タケノアブラムシが淡路の各地で大発生し、ゴイシシ

ジミが多数採集された。

(2) 生息環境の現況

タケ・ササ類等が林床に茂る薄暗い山道や境内地などが一般的な生息域であるが、美方町石寺では林に接した農地周辺の明るい空間でも多数の成虫が見られた。

垂直分布は高標高地から低地までみられるが標高が下がるほど発生場所の数も多くなる傾向にあり、特に300m以下に集中している。

(3) 採集記録

川西市笹部	30-V-1970	仲田元亮	8)
" 西多田	22-VII-1966	小坂利明	8)
" 黒川 1♀	26-VII-1988	品川 恭	10)
" 鼓ヶ滝 1ex.	8-IX-1967	浜田 稔	12)
" 多田高詔 3exs.	5-VI-1969	浜田 稔	12)
" 東谷	—	—	44)
猪名川町馬場	23-IX-1988	小坂利明	8)
" 上阿古谷	15-VI-1969	仲田元亮	8)
" 槻並	14-VIII-1988	小坂利明	8)
" 大部峠 1ex.	11-VI-1988	川元 裕	10)
" 上原 1ex.	18-VI-1988	松井賢慈	10)
" 高岳 3♂1♀	28-IX-1969	塩崎 容	12)
宝塚市清荒神 1♀	18-X-1970	加藤暢也	38)
" 安倉北 4丁目			
1ex.	30-V-1987	新家 勝	37)
" 切畑	30-IX-1989	—	52)
" 玉瀬	7-VII-1990	—	52)
西宮市仁川百合野町 1♀	13-VI-1990	法西 浩	51)
神戸市			
灘区伯母野山付近 1ex.	10-VI-1966	—	59)
須磨区妙法寺 1♀	-IX-1969	蜂谷幸雄	
" 車大道 2exs.	6-VII-1964	三木 進	39)
北区道場 1♂	24-VIII-1986	有田 斉	10)
" 山ノ街 1♂	8-VI-1960	吉坂道雄	13)
" 箕谷	—	—	15)
" 有馬 1♀	5-X-1989	—	52)
" 藍那	—	—	53)

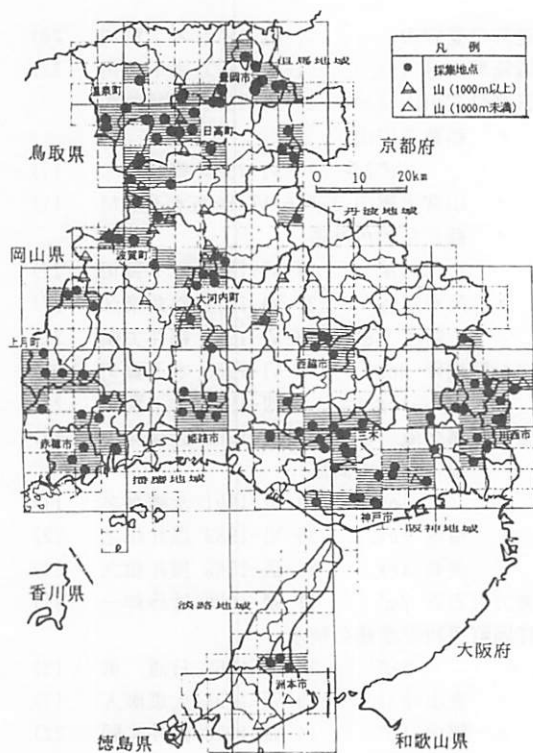


図1 ゴイシジミの県内分布

西区伊川谷町前開	1♀	19-V-1988	蜂谷幸雄	
〃 太山寺				15)
〃 雌岡山	1♀	15-IX-1983	近藤伸一	
明石市松蔭新田	1ex.	28-VI-1987	近藤伸一	
三木市大村	1♂1♀	V-1984	永幡嘉之	5)
〃 本町	1♂	18-V-1988	永幡嘉之	20)
〃 窟屋	1♀	1-VI-1986	永幡嘉之	20)
〃 増田		-VII-1977	小倉 滋	40)
〃 志染中		-VII-1977	小倉 滋	40)
〃 御坂		-VII-1977	小倉 滋	40)
〃 脇川		-VII-1977	小倉 滋	40)
〃 細川	1♀	13-IX-1985	蜂谷幸雄	
〃 細川町垂穂鍛冶	1♀	V-1984	永幡嘉之	
〃 口吉川町善祥寺				
lex.		14-VI-1986	永幡嘉之	
加古川市志方町			高嶋 明	35)
小野市下来住			山本広一	44)
〃 山田	2♂	17-IX-1987	蜂谷幸雄	
加西市青野ヶ原	1♂1♀	7-VII-1984	石井為久	
西脇市比延		20-V-1959		45)
〃 西田				45)
黒田庄町喜多				45)
〃 大伏				45)
八千代町笠形山				45)

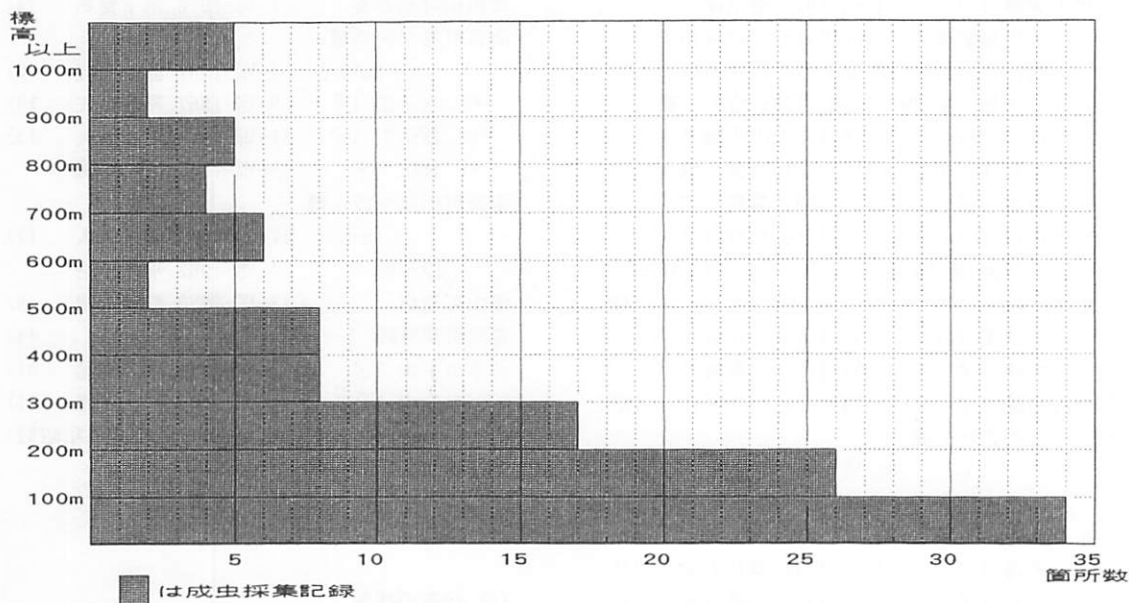


表1 ゴイシジミの垂直分布

姫路市大野峠 2♀	28-VI-1957	岩村 巖	47)	豊岡市愛宕山	2-VI-1972	木下賢司	30)
" 増位山	—	木村三郎	36)	城崎町来日 1ex.	1-VI-1977	木下賢司	22)
" 書写山 1♂	15-VIII-1971	相坂耕作		日高町三川山 1♂	29-VI-1994	石井為久	
夢前町菅生澗	—	木村三郎	40)	" 稲葉三川山			
" 雪彦山 1♂	25-VI-1989	木村三郎		1♂2♀	18-VI-1994	梁瀬	17)
香寺町奥須加院 1♂	8-IX-1989	木村三郎		" 山宮大岡山 1♂	6-VI-1995	木下賢司	17)
福崎町七種山 1♂	10-VII-1973	森下泰治		" 蘇武岳名色林道			
大河内町川上 1♀	8-VI-1975	広畑政巳		1♀	27-VI-1978	木下賢司	22)
" 砥峰 1♀	2-VI-1968	米村和繁		" 阿瀬溪谷	31-VII-1977	谷角素彦	27)
" 峰山 1ex.	2-IX-1979	近藤伸一		" 小阿江 1♂	13-VI-1984	福井丈嗣	22)
" 深山 1♂	8-VI-1975	石井為久		出石町桐野 3exs.	8-VI-1965	木下賢司	22)
波賀町赤西溪谷	14-VII-1981	佐々木薫		" 奥山 1ex.	1-VII-1977	木下賢司	22)
" 上野 3♂1♀	20-IX-1995	相坂耕作		温泉町霧ヶ滝 1♂	7-IX-1988	近藤伸一	17)
" 音水 1♀	12-VI-1988	石井為久		" 扇ノ山上山高原			
" 坂の谷林道 1ex.	7-IX-1986	広畑政巳		1ex.	29-VI-1991	永幡嘉之	17)
" 藤無山温原				" 檜尾 1ex.	29-VI-1983	黒井和之	22)
2♂2♀	23-VI-1996	大東康人		" 美原 1ex.	26-IX-1985	黒井和之	22)
千種町三室山 2exs.	20-VII-1990	苦木隆幸		美方町石寺 2♂	11-VIII-1989	近藤伸一	17)
相生市矢野町小河 1♀	17-V-1975	佐々木薫		村岡町兎和野原桂の清水			
" 南町(相生4丁目)				1♂	26-V-1967	日浦 勇	13)
4♂	30-VIII-1966	米村和繁		" 金山峠 1♀	9-VII-1994	大東康人	17)
" 相生3丁目 3exs.	14-V-1966	中浜春樹		" 鰐山 1♂	14-VII-1978	福井丈嗣	22)
" 三濃山 2♂	1-VIII-1986	唐土洋一		" 村岡 1♂	31-VII-1963	小崎茂樹	22)
" 川原町 1♂	28-IX-1983	米村和繁		八鹿町椿色 1ex.	4-IX-1964	木下賢司	22)
赤穂市大津 1♂	21-VI-1964	唐土洋一		和田山町糸井谷	1-VII-1978	木下賢司	24)
" 加里屋駅裏 1♂	10-VIII-1973	松村邦正		関宮町杉ヶ沢高原			
" 新在家 1ex.	18-V-1977	石井為久		3♂9♀	7-VIII-1987	墨谷 健	3)
三日月町大畑 1♀	撮 11-X-1995	岩村 巖		" 氷ノ山 1♀	9-VIII-1967	宮武頼夫	13)
佐用町延吉 2exs.	12-IX-1998	山下剛史		" 鉢伏山 1♂	11-VIII-1967	宮武頼夫	13)
" 上石井 2♂	31-VII-1981	高島 昭		" 鉢伏 1♀	12-VIII-1980	佐々木薫	
" 奥海 3♂	28-VII-1992	高島 昭		生野町栃原～段ヶ峰			
上郡町佐用谷 1♂	3-X-1966	米村和繁		1ex.	17-VII-1967	大東康人	17)
" 八保丙(皆坂) 1♂	22-V-1983	唐土洋一		" 段ヶ峰	4-VIII-1962	平尾栄治	
上月町久崎	—	—	44)	篠山町笹坊	13-IX-1980	森地重博	9)
" 上秋里 1ex.	4-VII-1976	石井為久		青垣町粟鹿峰	—	—	44)
" 尾崎 1♂	7-VI-1997	大東康人		洲本市宇山 2♂	6-VIII-1980	林 俊雅	31)
南光町船越 1♂	VIII-1954	松井俊公	13)	" 先山 1♀	17-VIII-1980	林 俊雅	31)
豊岡市奈佐森林公園				" 中川原町安坂 1♂	1-VI-1980	前川和昭	32)
1♀	25-VI-1994	宮垣友洋	21)				
" 妙楽寺 1♂	1-X-1983	前平照雄	22)				
" 奥野 2exs.	31-V-1964	木下賢司	22)				
" 市場 1♂	16-VI-1983	福井丈嗣	22)				
" 赤石 1♂	2-X-1983	前平照雄	22)				
" 神武山	21-VIII-1963	友田	30)				

2 ウラギンヒョウモン

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の平地、山地に広く

分布する。県下の分布は図2のように、淡路島以外の全域に広く分布しているが、県中部の播州高原から北部但馬地域の山地に分布が集中し、個体数も比較的多い。県南部の各地では近年激減し、全く見られなくなった地域も多い。六甲山系では、石の宝殿から東お多福山にかけて1980年代の初め頃までよく見られたが、最近ほとんど見られなくなった。

(2) 生息環境の現況

ウラギンヒョウモンの幼虫の食餌植物はスミレ類で、スミレ類が繁茂するような明るい草原、河川敷、湿地性草原や牧場跡、スキー場など草原環境が維持されている場所に生息する。垂直分布表2をみると、低地から高標高地まで高さに関係なく分布しているが、近年草原環境の減少に伴い各地で姿を消し、特に低地での減少が著しい。

(3) 採集記録

川西市山下	7-VI-1964	岡田俊典	8)
猪名川町上阿古谷	16-VI-1968	仲田元亮	8)
" 仁頂寺	15-VI-1980	森地重博	8)
" 杉生新田	6-VI-1982	小坂利明	8)
" 柏原(大野山)	25-VIII-1982	小坂利明	8)
" 鎌倉 1♂	25-VI-1994	—	11)
宝塚市北部西谷	—	—	52)
" 大原野	5-VII-1981	平尾栄治	
芦屋市石宝殿 1♀	10-VII-1983	西 隆広	34)
" 東お多福山	—	西 隆広	
神戸市			
" 六甲山 1♀	21-VII-1951	吉坂道雄	46)
灘区六甲山カントリーハウス			
1♂1♀	22-VII-1969	—	59)
" 伯母野山 1♀	18-IX-1969	—	59)
北区小部峠 1♂	13-VI-1960	尾崎 勇	
" 有野町逢山峠 1♀	14-VI-1960	尾崎 勇	
" 山ノ街 1♀	2-VII-1950	吉坂道雄	14)
" 森林植物園			
1♂1♀	21-VI-1964	三木 進	39)
" 教育植物園 1♂	27-VII-1987	山下剛史	
明石市松蔭新田 1♀	21-VI-1959	尾崎 勇	
三木市善祥寺 1♀	3-X-1983	永幡嘉之	20)
" 戸田	-VI-1977	小倉 滋	40)
" 脇川 3♂	-VI-1977	小倉 滋	40)

三木市増田	-VI-1977	小倉 滋	40)
小野市	—	山本広一	44)
" 青野原 1♂	9-VI-1985	近藤伸一	
西脇市比延	—	徳岡正巳	
加美町三国岳	3-VI-1959	猪俣涼一	45)
" 千ヶ峰	—	—	45)
姫路市増位山	—	木村三郎	36)
夢前町菅生瀬 2♂	5-VI-1981	木村三郎	
市川町上牛尾 1♂	16-IX-1984	広畑政巳	
大河内町砥峰 1♂	9-VIII-1981	広畑政巳	
" 峰山 2♂	15-VII-1973	森下泰治	
" 長曾 1♂1♀	2-VII-1975	石井為久	
山崎町梯 1♂	25-VII-1959	岩村 巖	
波賀町道谷 1♀	3-X-1982	広畑政巳	
" 戸倉スキー場			
1♂2♀	30-VI-1996	大東康人	
" 水谷 1ex.	20-VII-1986	二宗誠治	6)
" 東山高原 1♂1♀	15-VII-1978	石井為久	
" 戸倉	4-VII-1976	平尾栄治	
" 坂の谷 1♂	8-VII-1979	高島 昭	
相生市	—	唐土洋一	
赤穂市上飯屋 1♂	31-VII-1962	滝井邦興	
三日月町広山 1ex.	撮影 19-X-1997	唐土洋一	
上郡町八保丙(皆坂)			
1♀	23-IX-1984	唐土洋一	
" 富満 1♂	5-VII-1982	高島 昭	
佐用町若州 1♂	22-VI-1980	広畑政巳	
" 日名倉山 5♀	16-VII-1967	岩村 巖	
" 青木 1♂	12-VI-1977	石井為久	
" 大撫山 3♂	23-VI-1979	高島 昭	
上月町西新宿 1♂	3-VI-1973	佐々木薫	
豊岡市妙楽寺 2♂	14-VI-1963	木下賢司	22)
" 福田 2♂	15-VI-1982	前平照雄	22)
" 矢次山	23-VI-1968	吉田	30)
" 伊賀谷	23-VI-1968	吉田	30)
城崎町来日岳 1♂	29-VI-1985	松村秀行	3)
竹野町須谷 1♂1♀	16-VI-1964	木下賢司	22)
日高町神鍋山 5♀	7-VII-1991	木下賢司	17)
" 金谷 2♂	25-VI-1963	木下賢司	22)
" 蘇武岳 1♀	26-VI-1978	福井丈嗣	22)
" 鶴岡 1♂	22-VI-1979	福井丈嗣	22)
" 山宮 1♂	27-VI-1984	木下賢司	22)
" 阿瀬溪谷	25-VI-1963	木下賢司	27)
" 三川山 1♂	29-VI-1994	石井為久	

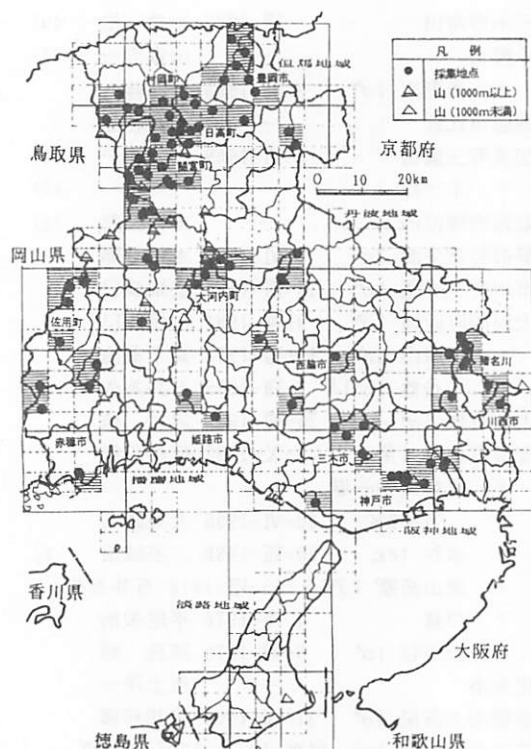


図2 ウラギンヒョウモンの県内分布

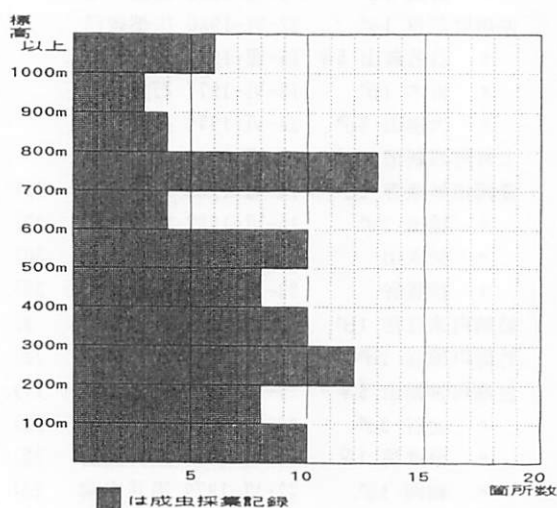


表2 ウラギンヒョウモンの垂直分布

出石町東尾山山頂

1♀	27-VI-1977	木下賢司	22)
" 桐野谷	22-VII-1976	谷角素彦	24)
温泉町丹戸	10♂1♀	25-VI-1992	永幡嘉之 17)
" 扇ノ山上山			
2♂1♀	29-VI-1991	永幡嘉之	17)
" 美原	2exs.	4-VII-1981	黒井和之 22)
村岡町金山峠	1♂	7-VII-1985	松村秀行 3)
" 黒田	2♂	19-VII-1992	永幡嘉之 17)
" 村岡坂中	1♂	27-VI-1992	永幡嘉之 17)
" 祖岡	1♂	25-VI-1992	永幡嘉之 17)
" 兎和野	1♂	4-VII-1992	永幡嘉之 17)
" 和佐父	4♀	6-VII-1992	永幡嘉之 17)
" 大笹鉢北	6♂	6-VII-1992	永幡嘉之 17)
" 耀山	1♂	25-VI-1983	福井文嗣 22)
八鹿町妙見山	—	—	25)
大屋町加保坂	1♀	11-X-1992	大東康人 17)
" 杉ヶ沢高原	7♀	27-IX-1981	近藤伸一 17)
関宮町葛畑	2♀	2-VIII-1982	近藤伸一 17)
" 轟	1♀	12-IX-1986	近藤伸一
" 鉢伏山山頂			
3exs.	23-VII-1964	大東康人	17)
" 氷ノ山大平頭			
1♂	12-VII-1992	永幡嘉之	17)
" 福定	1♀	26-VII-1986	永幡嘉之 17)
" 氷ノ山東尾根			
1♂1♀	25-VII-1986	永幡嘉之	17)
" 氷ノ山麓スキー場			
1♀	25-VII-1986	永幡嘉之	17)
" 杉ヶ沢高原	1♂	21-VII-1976	石井為久
生野町段ヶ峰	1♂	5-VII-1959	岩村 巖
" 栃原ゴルフ場付近			
3exs.	22-VI-1968	大東康人	17)
篠山町笹坊		13-IX-1980	森地重博 9)
" 後川新田	1♂	14-VI-1997	鍋島 11)

3 ウラギンシジヒョウモン

(1) 分布の状況

北海道、本州、四国、九州の平地、山地に広く分布する。県下の分布は図3のように、全域に広く点在し、県南部、北部とも集落周辺に生息地が多く、特に県南部の東播磨に分布が集中している。

1970年代頃までは各地で見られ、東播磨ではヒョウモン類の中で最も個体数の多い種であったが、近年は減少が著しく、オオウラギンヒョウモンと同じ運命をたどるのではないかと心配される。

(2) 生息環境の現況

ウラギンスジヒョウモンも幼虫の食餌植物はスミレ類で、明るい草原を生息地とし、県南部の低地では湿地が点在する疎林、河川敷、田畑周辺などでよく見られる。垂直分布は高標高地から低地まで分布するが、100m以下の低地に集中している。低地の産地は集落の周辺にあり、環境の変化が著しいため個体数の減少を加速させている。

(3) 採集記録

川西市笹部	15-IX-1976	仲田元亮	8)
猪名川町槻並	18-VI-1981	仲田元亮	8)
" 上阿古谷	24-VI-1981	勝屋 潤	8)
" 三草山数頭	11-VII-1977	山下剛史	
宝塚市切畑 1♀	1-X-1983	—	52)
" 大原野	5-VI-1996	平尾栄治	
三田市下相野 1♂	14-VI-1997	山下剛史	
芦屋市東お多福山 1♀	9-VII-1983	西 隆広	34)

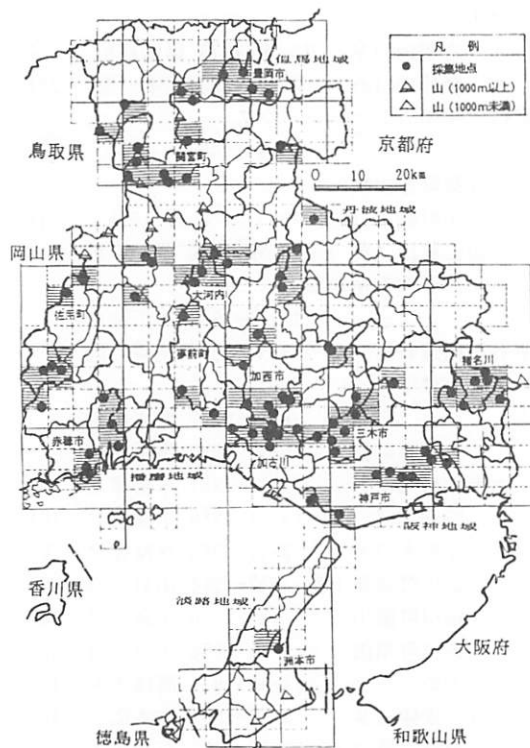


図3 ウラギンスジヒョウモンの県内分布

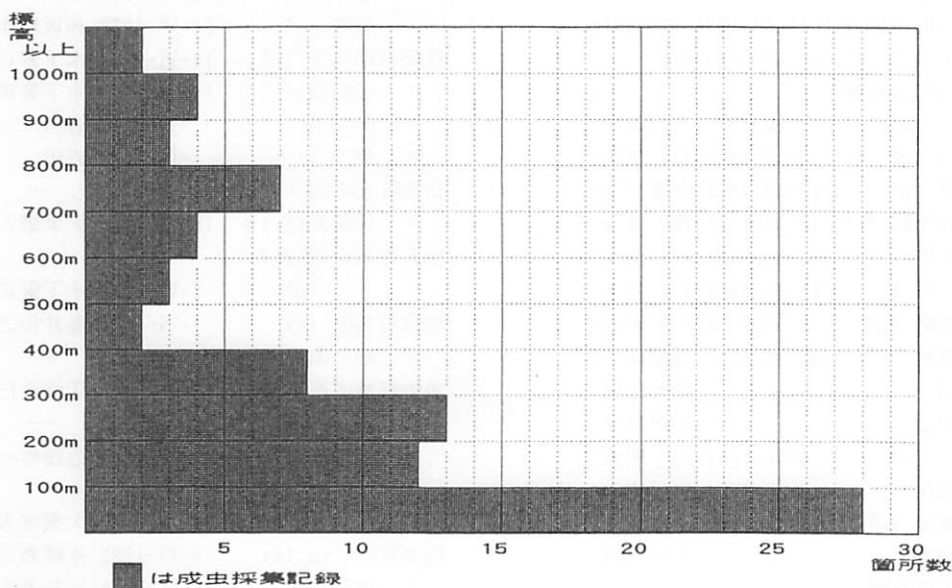


表3 ウラギンスジヒョウモンの垂直分布

神戸市

" 六甲山 1♀	18-VII-1979	黒田昌利	3)
" 摩耶山 lex.	3-VII-1963	三木 進	39)
灘区六甲山カントリーハウス 1♀	22-VII-1969	—	59)
北区有野町逢山峡			
" 山田町藍那 12♂	30-VI~ 8-VII-1995		1)
" 山田町山ノ街 1♂	3-VII-1960	尾崎 勇	
" 山田町教育植物園 1♂	27-IX-1987	山下剛史	
明石市松蔭新田 3♂	14-VI-1959	尾崎 勇	
" 大蔵谷奥 1♂1♀	8-VII-1962	大東康人	
" 大久保町松蔭	15-VI-1980	平尾栄治	
三木市大村 2♂	14-VI-1987	永幡嘉之	5)
" 殿畑 3♂	19-VI-1989	永幡嘉之	20)
" 与呂木 1♀	2-X-1988	永幡嘉之	20)
" 細川町瑞穂下南	-VI-1976	小倉 滋	40)
" 細川町脇川 3♂	-VI-1976	小倉 滋	40)
" 細川町増田 2♀	-VI-1976	小倉 滋	40)
" 志染	27-VI-1976	高橋久夫	40)
小野市下来住 1♀	5-VII-1931	山本広一	46)
" 青野ヶ原 1♂	20-VI-1978	石井為久	
加古川市権現ダム 1♂	6-VI-1992	石井為久	
" 平荘湖 1♂	15-VI-1996	—	2)
" 志方町中才 1♂	19-VI-1983	広畑政巳	
" 野尻 1♂	12-VI-1982	M. T	4)
" 志方町長楽寺 1♂1♀	9-VII-1984	石井為久	
" 城山 1♂	30-VI-1996	石井為久	
" 広尾 1♂	18-VI-1983	近藤伸一	
加西市青野ヶ原 6♂	18-VI-1978	森下泰治	
" 野田町 1♂	18-VI-1983	石井為久	
" 中山町 1♂	16-VI-1991	石井為久	
" 田原町 6♂	23-VI-1996	山下剛史	
" 繁昌町 2♂1♀	16-VI-1993	近藤伸一	
西脇市比延	—	徳岡正巳	
" 岡野山	—	徳岡正巳	
東条町森 2♂	3-VII-1988	山下剛史	
加美町三国岳	3-VI-1959	猪俣涼一	45)
" 岩座神 1♂1♀	7-VII-1977	石井為久	
姫路市増位山	—	木村三郎	36)
" 飾東町夕陽ヶ丘 1♀	18-IX-1998	大東康人	

夢前町雪彦山 1♂	20-V-1956	吉坂道雄	14)
" 菅生潤 1♀	19-VII-1970	木村三郎	41)
播州高原	—	—	49)
神崎町千ヶ峰 1♂	12-VII-1964	大東康人	
市川町上牛尾 1♂	14-VI-1972	広畑政巳	
福崎町日光寺山 1♂1♀	28-VI-1974	石井為久	
大河内町砥峰 1♂	9-VII-1981	広畑政巳	
峰山 2♂1♀	26-VII-1963	岩村 巖	
山崎町野々住原(牧場) 1♂1♀	17-VII-1994	大東康人	
波賀町水谷 lex.	20-VII-1986	二宗誠治	6)
" 上野 1♂	15-IX-1995	相坂耕作	
相生市矢野町三濃山 1♂	30-VII-1967	唐土洋一	
" 光明寺 1♂	9-VI-1974	佐々木薫	
" 天ヶ台山 2♂	19-VI-1979	唐土洋一	
赤穂市尾崎 1♂	9-V-1963	北条 正	
" 目坂 1♀	13-IX-1969	粉引敏彦	
" 加里屋駅裏 1♂	12-VI-1973	松村邦正	
三日月町	—	広利雅美	42)
上郡町八保丙(皆坂) 1♀	25-VI-1984	唐土洋一	
佐用町上石井 2♂	16-VI-1974	森下泰治	
" 日名倉山 2♂	26-VII-1967	岩村 巖	
上月町秋里 2♂1♀	16-VI-1974	尾崎 勇	
" 上秋里 2♂	24-VI-1979	高島 昭	
" 久崎 1♂	24-VI-1972	相坂耕作	
豊岡市妙楽寺 1♂	14-VI-1963	木下賢司	22)
" 三開山 2♂	15-VI-1972	木下賢司	22)
" 矢次山	7-VI-1968	吉田	30)
" 滝	-IX-1967	吉田	30)
日高町三川山	—	—	25)
" 神鍋高原 1♀	19-IX-1993	大東康人	
出石町奥山(茗荷谷) 1♂	8-VII-1977	木下賢司	22)
温泉町美原 lex.	4-VII-1981	黒井和之	22)
" 扇ノ山	—	—	25)
美方町美方高原 1♂	9-VII-1978	広畑政巳	26)
八鹿町妙見山	—	—	25)
大屋町加保坂 1♀	13-VII-1984	近藤伸一	17)
" 杉ヶ沢高原 2♂1♀	30-VII-1995	大東康人	
関宮町氷ノ山 lex.	8-VII-1992	永幡嘉之	
" 出合 1♂	25-VII-1976	石井為久	
" 鉢伏高原	13-VI-1963	平尾栄治	

生野町栃原 1♂	17-VII-1977	石井為久
〃 段ヶ峰	4-VIII-1962	平尾栄治
青垣町稲土	9-VII-1978	平尾栄治
洲本市安乎 1♂	27-VI-1947	堀田 久 33)

4 ミヤマチャバネセセリ

(1) 分布の状況

本州、四国、九州の平地、山地に広く分布するが、生息地は狭く限られる。県下の分布は図4のように、日本海に近接した城崎町から瀬戸内海に面した低地まで、淡路島を除く広い区域に点在するが、いずれの地域も生息地は限られ個体数も少ない。西播磨北部から但馬にかけての山地に記録が集中し、丹波地域に空白区域が見られる。県下のミヤマチャバネセセリはもともと個体数の少ない種であったが、近年は特に減少したようで、氷ノ山山麓周辺以外はほとんど見られなくなっている。

(2) 生息環境の現況

溪流沿いの農地、林縁部の草地や山道、山地の草原など色々な環境で見られる。垂直分布も赤穂市や姫路市南部のような市街地に近接した低地から1,000mを超す高標高地までみられ、生息環境に明確な特徴がみられない。個体数は少なく、生息地の特徴も分かりにくいいため、県内の蝶の中では最も観察の困難な種と言える。

(3) 採集記録

猪名川町槻並	12-VII-1972	小坂利明	8)
〃 上阿古谷 1♂	12-V-1973	長沼二郎	10)
〃 三草山	5-VI-1975	小坂利明	8)
芦屋市蛇谷 2♂	6-VI-1981	西 隆広	34)
神戸市			
神戸市六甲山地	—	—	19)
北区 道場 1ex. 目撃	4-VI-1983	遠山 豊	10)
東灘区御影	—	—	19)
三木市大村 1♂	22-VII-1988	永幡嘉之	5)
加古川市志方町		高嶋 明	35)
加美町三国岳 1♂1♀	30-V-1959	猪俣涼一	45)
多可西脇地方	—	—	45)
姫路市広畑区才 1♂	13-VI-1981	広畑政巳	

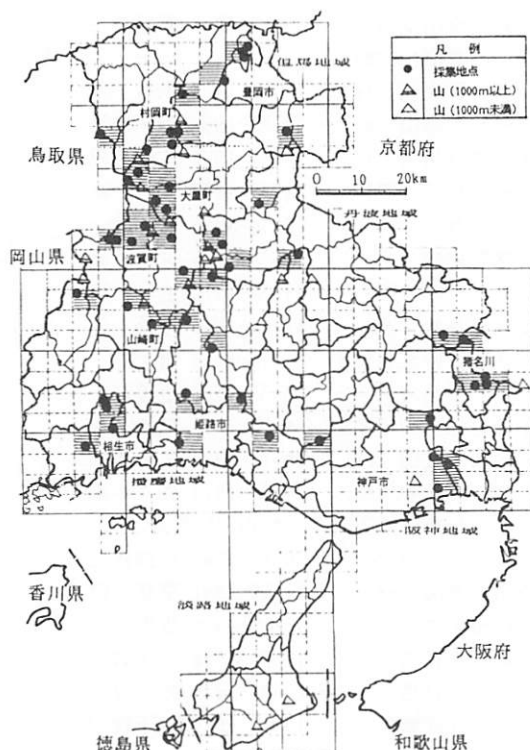


図4 ミヤマチャバネセセリの県内分布

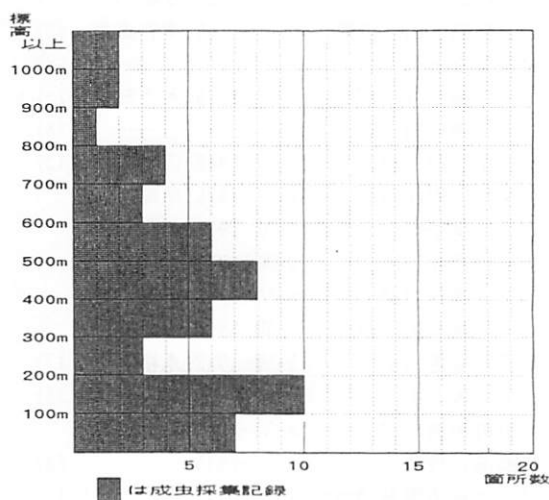


表4 ミヤマチャバネセセリの垂直分布

姫路市南山田 1ex.	19-VII-1980	近藤伸一	
夢前町雪彦山 2exs.	—	—	48)
” 菅生潤 1ex.		木村三郎	
福崎町七種山 1ex.	26-VII-1988	森下泰治	
大河内町川上 1♂	8-VI-1975	広畑政巳	
山崎町葛沢 5♂1♀	24-V-1975	岩村 巖	
” 与位 1ex.	8-VIII-1985	近藤伸一	
一宮町福知 1♂	18-V-1975	岩村 巖	
” 小原 1♂1♀	27-V-1975	岩村 巖	
波賀町音水 1♂	11-V-1975	尾崎 勇	
” 赤西溪谷 1♂	21-VII-1984	唐土洋一	
” 平桑 1♂	18-V-1980	近藤伸一	
千種町三室山 2♂1♀	9-VI-1975	尾崎 勇	
相生市三濃山 1ex.	29-IV-1973	佐々木薫	
” 光明寺 1ex.	4-V-1974	佐々木薫	
” 矢野町能下 1♀	14-VIII-1982	唐土洋一	
赤穂市周世 3♂	29-VIII-1982	広畑政巳	
佐用町奥海 1ex.	31-VII-1981	高島 昭	
豊岡市矢次山	16-VI-1968	吉田	30)
城崎町来日 1♀	14-V-1975	木下賢司	22)
” 来日岳	27-V-1975	木下賢司	
” 元薬師奥	15-V-1975	木下賢司	28)
日高町三川山	—	—	25)
” 金山峠	3-VIII-1977	谷角素彦	27)
出石町桐野 1♂	9-VI-1974	木下賢司	22)
香住町御崎 1♀	26-VII-1987	永幡嘉之	17)
温泉町扇ノ山 多数	-1955	中谷貴寿	48)
村岡町黒田	—	—	18)
” 耀山 2♂1♀	12-V-1978	木下賢司	22)
” 澁川山	—	—	18)
和田山竹田 1♂	15-V-1946	山本広一	43)
朝来町奥田路 1♂	18-V-1975	尾崎 勇	
” 神子畑	15-V-1976	平尾栄治	
大屋町若杉 2ex.	12-V-1974	佐々木薫	
” 横行 1♂	8-VI-1974	尾崎 勇	
” 杉ヶ沢 1♂	8-VIII-1982	近藤伸一	
関宮町福定 1♂	5-VIII-1988	永幡嘉之	17)
” 水ノ山	—	—	25)
生野町栃原 2♂	8-VI-1975	広畑政巳	
柏原高校校区	-1975		58)
篠山町笹坊温泉 3exs.	7-V-1972	浜田・藤田	12)
” 曾地奥 1♀	5-VIII-1973	浜・当麻	12)

<参考文献>

- 1) 蝶研出版編集部(1996) 蝶類採集情報総集編 月刊蝶研サロン1989-1995所収
- 2) 蝶研出版編集部(1996) 1996年蝶類採集情報 蝶研サロン118号付録
- 3) 京都大学蝶類研究会(1988) 日本産蝶類 239種類の記録 SPINDA NOUV(3):2-41
- 4) 京都大学蝶類研究会(1983) 1982年の蝶類採集目撃記録 SPINDA(8):1-80
- 5) 永幡嘉之(1989) 三木市大村の昆虫相(1)蝶相 釜城生物1(1):18-58
- 6) 二宗誠治(1987) 昆虫研第1回調査報告 ホシミスジ(1):3-4
- 7) 山口福男(1985) 朝来郡山県立自然公園の昆虫 朝来郡山県立自然公園及び周辺地域の自然環境調査報告 兵庫県新観光課
- 8) 小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶 詩画工房 大阪
- 9) 仲田元亮(1982) 能勢の昆虫(蝶の部) 自刊
- 10) 大阪昆虫同好会(1989) 北摂の蝶
- 11) 大阪昆虫同好会(1998) 北摂の昆虫(2)
- 12) 大阪昆虫同好会(1981) 北摂の昆虫(1) 蝶類
- 13) 日浦 勇(1970) 日本列島の蝶 大阪市立自然博物館収蔵資料目録 第2集
- 14) 日浦 勇(1969) 日本列島の蝶 大阪市立自然博物館収蔵資料目録 第1集
- 15) 加藤昌宏・武衛晴彦(1981) 神戸の蝶 神戸市立教育研究所 神戸市
- 16) 小佐々茂他(1949) 昆虫相解明調査報告(2) 虫同友会研究報告1(2)
- 17) 木下賢司・近藤伸一・大東康人・永幡嘉之(1996) 但馬地域の蝶類目録Ⅱ IRATSUME(20):66-86
- 18) 大東康人(1997) 兵庫県の蝶-観察と知見(1) IRATSUME(21):34-38
- 19) 山本広一(1971) 兵庫県の蝶相 月刊むし(3):2-10
- 20) 永幡嘉之(1993) 三木市内における蝶の採集記録 きべりはむし 21(1):10-22
- 21) 宮垣友洋(1995) 奈佐森林公園における蝶・トンボの記録 IRATSUME(19):22-25
- 22) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986) 但馬地域の蝶類目録IRATSUME(10):55-95

- 23) 島田真輔(1982) 美方町の蝶
IRATSUME(6):25-29
- 24) 木下賢司(1979) 床ノ尾山の蝶
IRATSUME(3):20-32
- 25) 高橋 匡(1979) 但馬地方昆虫目録
(予報第1報) IRATSUME(3):40-58
- 26) 広畑政巳(1979) 美方高原 7月上旬の蝶
IRATSUME(3):38-39
- 27) 谷角素彦(1978) 日高町金山の蝶
IRATSUME(2):11-21
- 28) 木下賢司(1977) 来日岳の蝶類
IRATSUME(1):21-33
- 29) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録
(第3報) 兵庫県豊岡高等学校生物教室
- 30) 遠藤知二ほか(1975) 豊岡市周辺の蝶
兵庫自然保護協会但馬支部研究紀要1(1)
- 31) 林 俊雅(1981) 洲本市の蝶類採集記録
PARNASSIUS(24):7-11
- 32) 堀田 久(1981) ゴイシシジミ淡路島に産す
PARNASSIUS(23):8
- 33) 登日邦明(1974) 淡路島の蝶相(2)
佳香蝶26(99):25-32
- 34) 西 隆広(1984) 芦屋市の蝶
てんとうむし(9):28-38
- 35) 高嶋 明(1984) 加古川の蝶
てんとうむし(9):46-49
- 36) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫
てんとうむし(9):53-58
- 37) 新家 勝(1988) 宝塚市におけるシジミチョウ
2種の採集記録 きべりはむし16(1):12
- 38) 加藤信一郎(1981) 宝塚市清荒神のチョウ
きべりはむし9(2):8-15
- 39) 三木 進(1979) 六甲山系(西部)の蝶
きべりはむし7(1):2-7
- 40) 小倉 滋・高橋久夫(1978) 三木市内の蝶に
ついて きべりはむし6(1/2):8-16
- 41) 谷川洋行(1977) 夢前町菅瀬谷の蝶
てんとうむし(3):7
- 42) 広利雅美(1977) 三日月町の蝶
てんとうむし(4):5
- 43) 山本広一・吉坂道雄(1958) 兵庫県蝶類
目録(1) 兵庫生物3(4):228-236
- 44) 山本広一(1958) 小野市の蝶を語る
兵庫生物3(4):248-254
- 45) 猪俣涼一・岡本 清(1960) 多可・西脇地方
の昆虫(蝶類) 兵庫生物4(1):24-28
- 46) 山本広一・吉坂道雄(1960) 兵庫県蝶類
目録(3) 兵庫生物4(1):37-44
- 47) 岩村 巖・中谷貴寿(1961) 西播の蝶分布資
料(1) 兵庫生物4(2):135-136
- 48) 岩村 巖・中谷貴寿(1961) 西播の蝶分布資
料(2) 兵庫生物4(3/4):173-174
- 49) 西村公夫(1967) 播州高原の蝶類について
兵庫生物5(3/4):222-240
- 50) 唐土洋一(1998) ソバの花にきたチョウ
てんとうむし(12):66
- 51) 法西 浩(1998) 兵庫県西宮市でゴイシシジ
ミを採集 蝶研フィールド12(10):66
- 52) 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫類 I
- 53) 兵庫県自然保護協会鈴蘭支部(1979) 藍那地
区自然環境調査
- 54) 堀田 久(1981) ゴイシシジミの飼育
PARNASSIUS(24):4-6
- 55) 福田晴夫ほか(1983) 原色日本蝶類生態図鑑
(II) 保育社
- 56) 福田晴夫ほか(1984) 原色日本蝶類生態図鑑
(III) 保育社
- 57) 福田晴夫ほか(1984) 原色日本蝶類生態図鑑
(IV) 保育社
- 58) 上嶋孝博ほか(1975) 柏原校区の蝶
NATURA33
- 59) 杠 隆史(1982) 六甲山系の蝶
Crude(23):67-73

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-7)

兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科

兵庫県産蛾類分布資料・9

高島 昭

はじめに

蛾の同定には立派な図鑑が刊行され、大変便利になった。一方、これまで県下の蛾の記録をまとめたものとしては、1975年頃遠山雅夫氏らの手による、その当時の文献記録をもとにした兵庫県のシャチホコガ、スズメガについての目録が唯一ではないかと思われる。これも「淡路島を除く」となっており、蛾の仲間全体を全地域的に体系的にまとめたものはないといっている。そのため、採集しても記録の整理には不便をとまなう。チョウやトンボなどに比べて蛾が敬遠されがちなのは、分布像がはっきりわからないことによるところが大きいと思われる。

そこで筆者は二年前から、兵庫県の蛾相解明の一助にと、過去に発表された蛾の採集記録を参照できるデータベースづくりに取りかかり、多くの方の御支援、御援助を得ながらこれまで文献に発表された県下の蛾の採集記録を中心に一部未発表記録も含めた目録を作成中である。この目録は膨大なもので、小蛾類などはデータや参考資料も少なく、まだまだまとめる段階には至っていないが、ヤガ科やシャチホコガ科などをはじめ、大蛾類についてはかなり資料も充実してきたので、ある程度データの整理ができたものから順次連載の形で報告していきたい。

今回はヤガ科のウスベリケンモン亜科、ケンモン亜科について報告する。この仲間の蛾は比較的地味で話題にのぼらないものが多いが、分布上注目すべき種が少なくない。深山にひっそりと生息する種も多いが、データをご覧になってわかるとおり、蝶などと比べて蛾の採集データは少なく、分布状況が把握できるほど記録の集積ができていないのが実情である。たとえ普通種であっても、未発表記録や新産地は積極的に発表してほしい。

また、ここには文献に基づく記録と未発表データを掲載したが、まだまだ多くの漏れ落ち等があると思われるので、御教示願えれば幸いである。

本稿を草するにあたり、次の方々に貴重な文献の御紹介、御恵与、採集記録の提供等を賜った。御芳名を記してお礼申し上げる(五十音順、敬称

は略させていただきます)。

相坂耕作、岡本 清、近藤伸一、柴田 剛、
高橋寿郎、中西明德、広畑政巳、山本義丸

<地域区分について>

兵庫県は北は日本海側から南は淡路島まで、また標高も最高は1,510mの氷ノ山と、その自然環境はたいへん変化に富んでおり、植生も場所によって大きく異なる。同様に蛾相も地域によって大きく異なると思われる。そこで、摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の5つの地域区分をベースに、摂津地域は六甲山系を有する神戸地区と、北摂山系を背後に控え南部は猪名川、武庫川のデルタが発達した阪神・北摂地域に、面積的に広大な播磨地域は、中国縦貫道を境に急峻な山地地形となる北部と平坦な南部に分け、さらに平野及び台地が発達した中東播と沈降型地形で沿岸部まで丘陵地帯が迫る西播に分けた。但馬地域は南北に二分割し、淡路地区も瀬戸内海型気候の北部と黒潮の影響を受けていると思われる南部に細分化した。本文中の地域区分の名称と範囲は次のとおり。

神 戸：神戸市域

阪神・北摂：尼崎、西宮、芦屋、伊丹、宝塚、川西、三田各市と猪名川町

中東播南部：姫路市、飾磨郡、神崎郡以東、中国縦貫道以南の播磨地域

中東播北部：飾磨郡、神崎郡以東、中国縦貫道以北の播磨地域

西播南部：揖保郡、龍野市、宍粟郡以西、中国縦貫道以南の播磨地域

西播北部：中国縦貫道以北の宍粟郡及び佐用郡

南 但：朝来郡、養父郡の各町

北 但：豊岡市、出石郡、城崎郡、美方郡の各町

丹 波：多紀郡、水上郡の各町

淡路北部：津名郡の各町

淡路南部：洲本市及び三原郡の各町

<本文の構成>

単なる採集記録の羅列でなく各種ごとに次の項目について解説した。

1. 全国での分布の概要、産出の特徴
2. 判明している食樹・食草等
3. 県下の分布の概要(注目種であればその旨の記述と分布状況の解説)

※注目種について：県内の分布状況やこれまでの記録等から見て、個体数が少ないもの、産地が局限されているもの、分布の限界域にあるもの、全国的に稀種とされているものなどを注目種として表示した。ただしこの分類はあくまでも筆者の主観であることをお断りしておく。

4. 県下の記録(市町ごとにこれまで文献等に記載されたもの、筆者が採集・確認したもの、及び未発表データの提供を頂いたものを列記)

なお、筆者はすべての標本を検したわけではないので、誤同定、誤記載等の疑いのある場合もそのまま掲載していることをお断りしておく。

なお、紙面の制約から各種毎に分布図を付けられないので、記録地の一覧図を図1に示した。

5. 現在記録が見られないが、将来調査が進めば発見される可能性のある種について各(亜)科の最後に一括解説する。

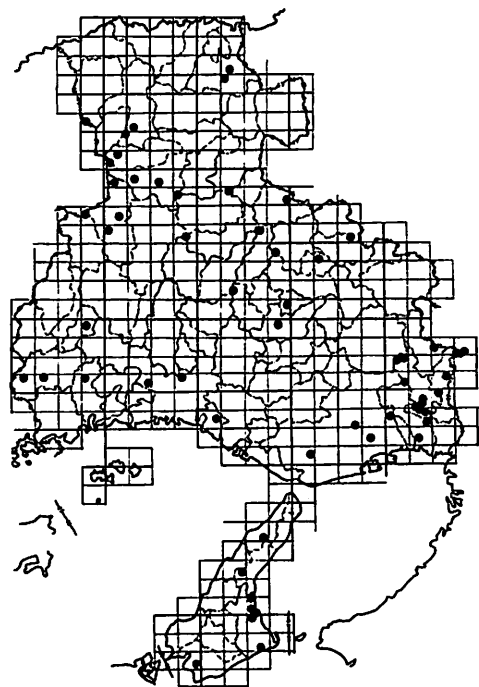


図1 ウスベリケンモン亜科・ケンモン亜科の採集記録地一覧

6. 参考・引用文献は、最後に一括掲載する。

<凡 例>

データの記載方法は市町毎に表示し、次の順序とした。また、以下1)～11)に示す基準に基づいて掲載している。

市町名(採集地名、日、月、年、頭数・性別、採集者名、文献記録の場合は文献番号)

文献記録は原則として原記載のとおりとしているが、3), 4), 6), 7)等に該当する場合はデータの加工を行っており、必ずしも原記載に忠実なものとはなっていないことをお断りしておく。

- 1) 市町名の配列は原則として行政順としたが、一部前後するところもある。
- 2) 採集地名は原則として文献での記述に従ったので、同一箇所で採集されたと思われるデータでも複数の表現が存在したり、地名の範囲の大きさにばらつきが生じる場合がある(例：南淡町阿万と南淡町阿万上町など)。
- 3) 地名は国土地理院発行の50,000分の1の地形図に準拠したため、一部に文献での地名と異なる表記のものがある。例えば、姫路市「広峰山」は「広嶺山」とする。ただし、「広峰神社」の場合は「峰」の字を当てる。また、文献の中には採集地に固有名詞を挙げているものも多いが、原則としてそれが位置する地名(集落名)に統一した(波賀町引原ダム→波賀町引原、関西学院大学千刈キャンプ場→三田市香下、西脇高校黒田庄分校→黒田庄町喜多など)。ただし、広い範囲をさす固有名詞(例：六甲山、有馬温泉など)の場合はそのまま表記した。
- 4) 文献上の採集地名が市町名を特定できない場合や、市町村名、旧村名(地域名)のみの表示したものについてはそのまま記述した(例：氷ノ山、氷上郡など)。ただし、市町名が表されていない場合でも、特定することが可能な場合は表示している(例：摩耶山→神戸市摩耶山、先山→洲本市先山など)。なお、町村合併等で行政区分が変更している場合等は現在の表記に合わせている(例：久崎村→上月町など)。神戸市の場合はさし支えないと思われる場合は「区」名表示を省略した。
- 5) 府県境での記録については、他府県のものであることが判別できるものについては省き、どちらかわからないものについては掲載した。

- 6) 文献によるデータのうち、採集地名、採集日、頭数、性別が不明のものは「-」で表示した。ただし、原記載に具体的なデータが表示されていなくても文献中の解説文等からデータが判断できるものは記載している。
- 7) データに採集者名が記載されていない場合の取り扱いについては、文献の発表者が採集したと判断できる場合はその発表者を、文献の発表者が複数の場合には「〇〇(代表者名)ほか」とし、文献の発表者以外の採集であっても採集者が客観的に特定できる場合は同様の処置を行った。採集者が全く不明な場合は「-」で表示した。
- 8) 文献は通し番号とし巻末に一括表示した。この番号は便宜上付けたものであり、概ね文献の発表年順に並べたが一部で順不同のものもある。
- 9) 本記録集は現時点での生のデータの集大成という性格を持つので、同一地点での採集記録でもできるだけ多く記載した。その場合採集地名は重複を避けて「同」という表現にした。また、同一文献に記載された同一地域、同一採集者による記録については、「;」で区切り、採集地名は一連のデータの最初に、採集者名と文献番号は最後に表示した。
- 10) 文献番号がないものは未発表データである。
- 11) 一度発表されたデータが修正、訂正されたものについては、最新のものを掲載し、訂正等の経緯についても可能な範囲で記述した。ただし、再発表や補足があったものについても、従来のものと変更がないデータは最初の文献を拠としている。

ウスベリケンモン亜科 (PANTHEINAE)

ヤガ科の中では小さな亜科で、後翅のM₂が発達し、複眼上に毛を密生することがこの亜科の特徴となっている。日本には13種が確認されているが、兵庫県にはそのうち7種が記録されている。このうち、マルバネキシタケンモン、ナマリケンモン、カラフトゴマケンモンの3種は記録が少なく注目種である。なお、ウスベリケンモン亜科の各種の県内における分布状況を第1表に示した。

1. *Trisuloides rotundipennis* Sugi

マルバネキシタケンモン 注目種

1976年にホリシャキシタケンモンから分離され

た。同種と類似するが、前翅の翅型はより丸みを持ち、翅頂部は突出しない。古い記録は混同されている可能性があるので注意を要する。伊豆半島以西の本州南西部、四国、九州に産する。今のところ日本特産種で幼生期は不明である。年2回の発生が認められている。県内では1954年に柏原町で1頭採集されているだけで、他の記録は見当たらない。これは最初ホリシャキシタケンモンとして記録された(山本,1958)ものであるが、本種に該当すると再報告されたものである。淡路や瀬戸内海沿岸地域などでは注意が必要かと思われる。

[採集記録]

柏原町(柏原,7.VII.1954,1♀,山本義丸⁴³⁾)

2. *Anacronicta nitida* (Butler)

ウスベリケンモン

北海道から九州に至る本土域に普通に見られる。年2回の発生で、クマザサの類から幼虫が発見されているが、詳しい食性は不明である。県下からは各地で記録されており、普通種である。南但からは記録がないが生息していると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,田中蕃⁷⁾:同,-,-,-,-,岡村八郎³⁴⁾)

宝塚市(西谷西部,18.VI.1977,1♂; 23.VI.1979,1♂; 13.IX.1986,1♂,東正雄³⁵⁾)

川西市(平野,3.VII.1992,1♂,東良雄³⁶⁾)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂; 20.VIII.1982,5♂; 1.IX.1982,1♂,夏秋ほか²²⁾)

黒田庄町(喜多,4.V.1959,1ex.; 21.V.1959,1ex.; 24.V.1960,1ex.; 9.VI.1960,1ex.,岡本清⁴⁰⁾)

姫路市(広嶺山,-,-.1982,-,木村三郎²⁷⁾)

波賀町(引原,22.VI.1974,1♂; 13.VII.1974,1♂,遊磨正秀¹¹⁾:同,25.VIII.1987,3exs.; 5.IX.1987,2exs.,高島昭⁴²⁾:坂の谷,4.IX.1998,1♂,高島昭)

三日月町(下本郷,-.IX.-,-,川副昭人³³⁾)

豊岡市(正法寺,22.V.1998,1♂,柴田剛)

村岡町(瀬川平,12.VIII.1989,1♀,近藤伸一)

温泉町(扇ノ山,25.V.1985,1ex.,足立義弘⁴¹⁾)

水上郡(-,-,-,-,-,山本義丸⁴⁾)

津名町(大町畑,29.VI.1972 1♀; 3.V.1972,2♀; 5.V.1972,2♀,登日邦明⁹⁾)

洲本市(宇山,12.IV.1981,1ex.,林俊雅³³⁾)

南淡町(阿万上町,3.VI.1961,-; 4.V.1976,-,藤平明³²⁾)

3. *Anacronicta caliginea* (Butler)

コウスベリケンモン

前翅翅表は前種よりもはるかに黒褐色を呈し、中室端部の淡色部を除き、各横線は明瞭でない。北海道から九州に至る本土域に分布する。年2回の出現でススキを食べることが知られている。

県内からはほぼ全域にわたり平地から山地まで得られているが、前種よりは少ないようである。

[採集記録]

宝塚市(南口2丁目, 25.V.1982, -, 新家勝²⁶⁾)

猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 1♀; 1.IX.1982, 2♂, 夏秋ほか²²⁾)

黒田庄町(喜多, 1.V.1959, 1ex.; 12.VI.1961, 1ex., 岡本清⁴⁹⁾)

姫路市(太市, 31.V.1995, 1♀, 高島昭)

波賀町(引原, 7.VI.1988, 1♂, 高島昭⁴²⁾)

三日月町(下本郷, -.VI.-, -, 川副昭人³³⁾)

関宮町(氷ノ山, -. -.1955, -, 山本義丸³⁾)

氷上郡(., -. -. -, 山本義丸⁴⁾)

北淡町(常陸寺山, 7.VII.1972, 1♂, 登日邦明¹⁴⁾)

南淡町(阿万上町, 22.IX.1973, -, 藤平明¹²⁾; 同, 8.V.1976, -, 藤平明³²⁾)

4. *Anacronicta plumbea* (Butler)

ナマリケンモン 注目種

♂の触角は両櫛葉状で *Anacronicta* ウスベリケンモン属の中では唯一の例外である。北海道から九州にかけて記録があり、山地帯では年1回の発生であるが低標高地では年2化の可能性もある。幼生期は不詳である。

県下の記録は少なく黒田庄町、生野町、柏原町、育垣町で報告されているだけである。なお、宝塚市からも本種が記録され(新家, 1982)、それが宝塚の昆虫(宝塚市教育委員会, 1993)にも引用されているが、ウスアオヨトウとの誤同定であったとのことである(本人私信)。

[採集記録]

黒田庄町(喜多, 17.V.1960, 1ex.; 13.IX.1960, 1ex., 岡本清⁴⁹⁾)

生野町(段ヶ峰, 6.VIII.1953, 1♂, 山本義丸⁴⁶⁾)

柏原町(柏原, -. -. -, 山本義丸⁴³⁾)

育垣町(神楽, -. -. -, 山本義丸⁴³⁾)

5. *Trichosea champa* (Moore)

キバラケンモン

北海道から九州、対馬、屋久島にかけて分布する。変異が大きい種という認識があったが、近年ニセキバラケンモン、キタキバラケンモンという2種が分離された。本種はの中では最も暖温帯性の種である。少なくとも年2回の発生で、コゴメウツギ、ヒサカキ、シャシャンボ、タチバナモドキが食樹として知られる。大図鑑ではやや局地的との記述があるが、県下では各地に普通である。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -. -. -, 田中蕃⁷⁾; 同, -. -. -, 岡村八郎³⁴⁾)

宝塚市(南口2丁目, 3.X.1988, -, 新家勝³⁸⁾; 武庫川町, 11.XI.1978, -, 新家勝¹⁹⁾; 花屋敷, 28.V.1932, 2♀, 東正雄³⁹⁾; 西谷西部, 16.VI.1990, 1♀, 東正雄³⁹⁾)

妙見山(26.VIII.1983, 2♂; 5.VIII.1984, 2♂; 18.VIII.1984, 8♂3♀, 夏秋ほか²⁸⁾)

川西市(黒川, 20.IX.1997, 1♂, 高島昭⁶⁰⁾)

三田市(香下, 7.IX.1991, 1♂, 東正雄³⁹⁾)

黒田庄町(喜多, 12.IX.1960, 1ex., 岡本清⁴⁹⁾)

姫路市(広嶺山, -. -.1982, -, 木村三郎²⁷⁾)

波賀町(引原, 2.VI.1975, 1♀, 遊磨正秀¹¹⁾; 同, 8.VIII.1981, 1♂1♀, 相坂耕作; 同, 10.IX.1988, 1ex.; 26.VIII.1988, 1♂, 高島昭⁴²⁾)

相生市(瓜生, 7.VII.1989, 1♀, 高島昭⁴⁴⁾; 同, 8.IX.1997, 1♂, 高島昭)

上郡町(行頭, 23.VI.1995, 1♂, 高島昭⁴⁶⁾)

三日月町(下本郷, -.IX.-, -, 川副昭人³³⁾)

温泉町(扇ノ山, 2.VI.1984, 1♂, 谷田昌也³¹⁾; 同, 25.V.1985, 2♂, 足立義弘³¹⁾)

関宮町(氷ノ山, -. -.1955, -, 山本義丸³⁾)

市島町(妙高山, -. -. -, 山本義丸⁴³⁾)

北淡町(常陸寺山, 7.VII.1972, 2♀, 登日邦明¹⁴⁾)

洲本市(厚浜, 13.V.1975, -, 藤富正昭⁴⁰⁾; 宇山, 8.IV.1981, 1ex.; 11.IV.1981, 1ex., 林俊雅²³⁾; 三熊山, 19.VII.1981, 1♀, 西岡公明²⁵⁾)

南淡町(阿万上町, 1.II.1978, -, 藤平明³²⁾)

6. *Panthea coenobita* (Esper)

カラフトゴマケンモン 注目種

冷温帯性の種で、北海道～九州、対馬に産するが、北海道から中部山地にかけては普通に見られる。西南暖地では山地性で少ない種となる。年2回の出現でトウヒやモミなどの針葉樹を食べる。

県下からは、波賀町と市島町で記録されている

ほかは報告がない。

【採集記録】

波賀町(引原,25.VII.1988,1♂; 9.VII.1988,1♂,高島昭⁴²⁾)

市島町(妙高山,9.VII.1954,-,山本義丸⁴⁾)

7. *Colocasia jezoensis* (Matsumura)

ネグロケンモン

北海道から九州にかけて分布し、西南暖地では山地性となる。年2回の発生で、ミズナラ、クヌギ、ハルニレなどが食樹として確認されている。第1化の発生は比較的早く、4月下旬から見られる。発生地での個体数は多い。県下では西播から但馬にかけての山地帯に比較的広く分布していると思われる。

【採集記録】

波賀町(引原,6.V.1974,1♂; 18.V.1974,2♂; 6.XI.1975,1♂,遊磨正秀¹¹⁾; 28.IV.1988,1♂; 5.VII.1988,3♀,高島昭⁴²⁾; 同,10.IV.1998,2♂,高島昭; 坂の谷,17.IV.1998,2♂,高島昭; 同,24.VII.1998,1♀,高島昭)

温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,3♂,谷田昌也³¹⁾)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♀,遊磨正秀¹⁵⁾)

大屋町(田淵山,5.VII.1975,目,遊磨正秀²⁰⁾)

氷ノ山(-.-.1954,-,山本義丸³⁵⁾; 同,-.-.-,遠山ほか¹³⁾)

関宮町(鉢伏高原,23.VII.1975,1♀,山本義丸⁴⁾)

<今後記録される可能性のある種>

1. *Colocasia umbrosa* Wileman

ヒメネグロケンモン

ヒメウスベリヤガともいう。ネグロケンモンに類似するが、複眼は裸出し、前翅翅表の横線は二重線とはならないこと、外横線は常に明瞭であることで区別できる。腎状紋は通常明瞭で中央でやや狭まり、その中に暗色条もしくは2個の暗色点を含むことが多い。宮城県付近を北限として九州までの本土域に分布し、年2回の発生で幼生期は未知。県下からは関宮町氷ノ山からの記録(山本,1955)があったがネグロケンモンの間違いであったとして訂正(山本,1989)されており、県下からは未知である。しかし、岡山県では北部山地で記録があるようで、西播から但馬にかけての山地帯で発見される可能性が高い。

ケンモン亜科 (ACRONICTINAE)

後翅のM₂の発達が悪く、横脈のほぼ中央から発している。幼虫は胸腹部に2次刺毛を生じるものや、1次刺毛の大半あるいは一部に毛束を生じ、ドクガ科の幼虫に似ることが多い。しかし、幼虫が未知の群もあり、将来分類上の位置が変更されるものがあるかもしれない。幼虫はほとんどが樹木性であるが、一部草本や単子葉植物につくものがある。日本産は50種が知られ、そのうち兵庫県では29種の分布が確認されている。地域別に見ると神戸8種、阪神・北摂21種、中東播南部10種、中東播北部10種、西播南部12種、西播北部19種、南但22種、北但8種、丹波地域14種、淡路北部5種、淡路南部8種(第1表参照、1998年9月22日現在)である。このように県内では阪神・北摂の低山地、及び西播北部から南但にかけての氷ノ山周辺の山地帯に多くの種が分布している。これはこの亜科のほとんどの種が森林性であること、この地域が古くからよく調査されていることがあげられる。冷温帯性の種が多いこともこの亜科の特徴であるが、これらの種は西播から但馬にかけての山地帯に分布しており、その結果、波賀町引原ダムでは17種、氷ノ山では21種など豊富な産出となっている。能勢妙見山からも山地性の種が見出され、計17種を産する。アオケンモン、ウスムラサキケンモン、ハンノケンモンをはじめ、10種については採集記録が少なく注目種といえる。とくにネジロシマケンモンは全国的にも稀種である。

なお、マダラウスズミケンモンは大図鑑に兵庫県が産地としてあがっているが、記録の確認ができなかったため分布種に数えていない。また、過去にアサケンモンの記録があるが、シロモンケンモンとの誤認であったとのことであり、やはり分布種には扱っていない。

1. *Belciades niveola* (Motschulsky)

アオケンモン 注目種

北海道から九州にかけて山地に分布する。幼虫はシナノキを食べ、夏に成虫が現れる。

県内では永らく氷ノ山での古い記録があるだけであったが、最近筆者は波賀町でも確認している。今のところ氷ノ山山系からしか見つかっていないが、西播から但馬にかけての山地をさがせば新しい産地はみつかると思う。

第1表 兵庫県におけるウスベリケンモン亜科、ケンモン亜科の地域別分布状況一覧 (1998年9月22日現在)

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	特記事項
ウスベリケンモン亜科													
1. マルバネキシタケンモン									○			1	注目種 南方系
2. ウスベリケンモン	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	16	
3. コウスベリケンモン		○	○	○	○	○	○		○	○	○	10	
4. ナマリケンモン				○			○		○			4	注目種
5. キバラケンモン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	
6. カラフトゴマケンモン						○			○			2	注目種
7. ネグロケンモン						○	○	○				7	
計	2	3	3	4	3	5	4	3	6	3	3		
ケンモン亜科													
1. アオケンモン						○	○					2	注目種 山地性
2. ゴマケンモン		○	○	○	○	○	○		○			13	
3. キクビゴマケンモン		○			○	○	○	○				6	
4. ニッコウアオケンモン		○				○	○	○	○			7	
5. スギタニアオケンモン		○		○		○	○		○			8	山地性
6. スギタニゴマケンモン						○	○	○	○			4	注目種 山地性
7. ヒメケンモン		○	○							○		5	局地的
8. シロフヒメケンモン			○		○	○	○		○			7	局地的
9. オオケンモン		○				○	○		○			10	
10. サクラケンモン		○	○	○	○		○	○	○		○	15	
11. シロハラケンモン		○	○	○			○		○		○	7	
12. シロモンケンモン	○	○			○	○			○			5	局地的
13. ウスムラサキケンモン							○					1	注目種 山地性
14. リンゴケンモン	○	○	○	○	○	○		○		○	○	11	
15. オオホソバケンモン		○				○	○					4	注目種 山地性
16. キハダケンモン		○		○					○			5	
17. ハンノケンモン						○	○					2	注目種 山地性
18. ウズミケンモン	○	○			○							3	注目種 局地的
19. キシタケンモン		○	○				○					3	注目種
20. シロシタケンモン		○			○	○	○	○			○	6	
21. ナシケンモン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23	
22. クビグロケンモン	○									○	○	3	注目種
23. イボタケンモン						○	○					3	注目種 山地性
24. ニッコウケンモン		○				○	○					4	
25. シマケンモン	○	○	○	○	○				○	○	○	15	
26. ネジロシマケンモン							○					1	注目種
27. クロフケンモン	○	○		○		○	○					6	山地性 局地的
28. シロフクロケンモン		○			○	○	○		○			8	
29. アミメケンモン	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	21	
計	8	21	10	10	12	19	22	8	14	5	8		

【採集記録】

波賀町(坂の谷, 17.VII.1998, 1♂, 高島昭)
 関宮町(氷ノ山, -.-.1954, -, 山本義丸²⁾)
 氷ノ山(-.-.-, -, 遠山ほか¹³⁾)

2. *Moma alpium* (Osbeck)

ゴマケンモン

ユーラシア種でヨーロッパからアジアにかけて広く分布する。日本では北海道から九州までの本土域に産する。年2回の発生でコナラ属を食べるが、クリやシラカンバでも幼虫が発見されている。

県下では神戸、北但と淡路で記録がないほかは、各地に普通な種である。記録のない地域にも広く分布していると思われる。

【採集記録】

宝塚市(西谷西部, 28.V.1977, 1♂; 2.VII.1988, 1♀; 9.VII.1988, 1♂; 20.VIII.1988, 1♂; 15.VI.1991, 1♀, 東正雄³⁰⁾; 武田尾, 23.VI.1987, 1♂, 東正雄³⁰⁾)
 川西市(黒川, 10.VIII.1996, 1♀; 5.VII.1997, 1♀, 高島昭⁵⁰⁾)
 猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 2♂1♀; 12.VIII.1982, 1♂, 夏秋ほか²²⁾)
 黒田庄町(喜多, 16.VI.1960, 1ex., 岡本清⁴⁹⁾)
 姫路市(広嶺山, 22.VI.1996, 1♂1♀, 高島昭⁴⁷⁾)
 波賀町(引原, 8.VI.1974, 1♀; 22.VI.1974, 1♂; 2.VI.1975, 1♂1♀, 遊磨正秀¹¹⁾; 同, -, VIII.1983, 1♂, 相坂耕作; 同, 25.VIII.1987, 1ex.; 26.VI.1988, 1♂1♀, 高島昭⁴²⁾; 坂の谷, 27.V.1998, 1♀, 高島昭)
 相生市(瓜生, 17.VI.1989, 1♀, 高島昭⁴⁴⁾)
 三日月町(下本郷, -.VI.-, -; -.VI.1984, -; -.VII.1984, -; -.VIII.1985, -, 川副昭人³³⁾)
 和田山町(久世田, 3.VII.1989, 1♂, 近藤伸一)
 氷ノ山(-.-.-, -, 遠山ほか¹³⁾)
 関宮町(氷ノ山, -.-.1955, -, 山本義丸³⁾)
 氷上郡(-.-.-, -, 山本義丸⁴⁾)

3. *Moma fulvicollis* (Lattin)

キクビゴマケンモン

北海道と本州から記録があり、前種と近縁である。年1回の発生と思われる。幼虫はクマシデから見つかった。県下では宝塚市、三日月町、波賀町、氷ノ山、村岡町の6カ所から報告があるだけで前種よりはるかに局地的で個体数も少ない。しかし、低山地から山地まで見られ、食樹さえあれば少ないながら各地に生息する可能性は高い。

【採集記録】

宝塚市(西谷西部, 18.VI.1977, 1♀, 東正雄³⁰⁾)
 波賀町(引原, 2.VII.1988, 1♀; 25.VII.1988, 1♂1♀, 高島昭⁴²⁾; 坂の谷, 5.VI.1998, 1♂, 高島昭; 同, 10.VII.1998, 1♀, 高島昭)
 三日月町(下本郷, -.VI.1984, 1♂, 川副昭人³³⁾)
 村岡町(瀬川平, 12.VIII.1989, 1♀, 近藤伸一)
 氷ノ山(-.-.-, -, 遠山ほか¹³⁾)

4. *Nacna malachitis* (Oberthür)

ニッコウアオケンモン

北海道では道南部と礼文、奥尻の各島、本州から九州にかけて分布する。西南暖地ではおそらく年2回発生と思われる。幼生期ははっきりわかっていないが、シソ科のニガクサから幼虫が得られたことがあるという。県内での記録は山地に限られ、西播北部から但馬にかけてと市島町妙高山、能勢妙見山に孤立的に得られている。なお、大阪府箕面公園では少ないながら産するようで、北摂地域の山地には連続的に産するかもしれない。

【採集記録】

妙見山(29.VIII.1983, 1♂, 夏秋ほか²⁸⁾)
 波賀町(引原, 26.IX.1987, 1ex., 高島昭⁴²⁾; 坂の谷, 12.VIII.1998, 1♂, 高島昭)
 温泉町(扇ノ山, 2.VI.1984, 1ex., 谷田昌也³¹⁾)
 朝来町(須留ヶ峰, 9.VI.1975, 1♂, 遊磨正秀¹⁸⁾)
 氷ノ山(-.-.-, -, 遠山ほか¹³⁾)
 関宮町(氷ノ山, -.-.1954, -, 山本義丸²⁾)
 市島町(妙高山, -.-.-, -, 山本義丸⁴³⁾)

5. *Nacna sugitanii* (Nagano)

スギタニアオケンモン

日本特産種で、秋田県以南、九州まで産する。西南暖地では山地に限られ少ない種となる。夏から初秋にかけて発生する。食性はわかっていなかったが、八千代町笠形山でミカエリソウから採集された幼虫から本種の羽化が確認された(岡本, 1995)。県内では前種と同じく山地で得られているが、黒田庄町のような低山地の記録もある。

【採集記録】

妙見山(26.VIII.1983, 6♂4♀; 18.VIII.1984, 2♂, 夏秋ほか²⁸⁾)
 黒田庄町(喜多, 24.IX.1964, 1ex.; 10.XI.1967, 4exs., 岡本清⁴⁹⁾)
 八千代町(笠形山, 12.VII.1964(幼), -; 7.IX.1967,

(幼)4exs.,31.VII.1968,(幼)6exs.,岡本清⁴¹⁾

波賀町(引原,25.VII.1987,1♂;7.IX.1988,1♀,高島昭

⁴²⁾:坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島昭:同,26.VI.1998,1♂,高島昭)

朝来町(須留ヶ峰,9.VII.1975,2♂,遊磨正秀¹⁸⁾)

関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸²⁾)

市島町(妙高山,28.VII.1954,-,山本義丸⁴⁾)

6. *Harrisimemna marmorata* (Hampson)

スギタニゴマケンモン 注目種

北海道から九州にかけて産し、年2回の発生と思われる。幼生期はよくわかっていない。北アメリカに産する近縁種はイボタやハシドイを食べるという。県内では山地性で産地は局限され、波賀町坂の谷、氷ノ山、扇ノ山、篠ヶ峰の4カ所で報告されているだけである。中央山地を中心に十分な調査が必要である。

[採集記録]

波賀町(坂の谷,26.VI.1998,1♀,高島昭)

温泉町(扇ノ山,11.VIII.1984,1♂1♀;25.VIII.1984,1♂,谷田昌也³¹⁾)

関宮町(氷ノ山,-.VIII.1954,2exs.,山本義丸²⁾)

氷上町(篠ヶ峰,26.VIII.1952,1♂,山本義丸⁴⁾)

7. *Gerbathodes angusta* (Butler)

ヒメケンモン

関東地方から四国北部、九州北部の暖温帯落葉樹林に生息する。食樹はクヌギが知られている。

春から出現するが周年経過はよくわかっていない。おそらく2~3回の発生ではないかと思われる。ミツテンケンモンとも呼ばれる。

県下ではやや局地的で、県南部と淡路島の里山的環境で得られている。低地の二次林に優勢な蛾なので実際には広く分布していると思われる。

[採集記録]

川西市(黒川,18.V.1996,1♀;3.V.1997,1♂,高島昭⁶⁰⁾)

猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♀,夏秋ほか²²⁾)

姫路市(広嶺山,22.VI.1996,2♂;6.VII.1996,1♂,高島昭⁴¹⁾)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-;-.VII.1983,-,川副昭人³³⁾)

津名町(大町畑,5.V.1972,1♂,登日邦明⁹⁾)

8. *Gerbathodes lichenodes* (Graeser)

シロフヒメケンモン

前種と近縁であるが♂では中室付近により明瞭な褐色鱗片を混じ、中室下方の白色影も明瞭。♀でも翅表中央はより黒色を帯びる。食性はよくわかっていないがコナラ属を食べられると思われる。北海道と本州に産する。やや局地的とされ中国地方以西では発見されていない。県下では中・西播地域から氷ノ山にかけてと、丹波地域に限られている。前種と同様、低地の二次林に見られるほか山地でも採集されている。発生地での個体数は多い。

[採集記録]

姫路市(広嶺山,6.VII.1996,2♂2♀,高島昭⁴¹⁾)

波賀町(引原,26.VI.1988,1♂;2.VII.1988,1♀,高島昭⁴²⁾:坂の谷,26.VI.1998,1♂,高島昭)

相生市(瓜生,7.VI.1989,1♂;17.VI.1989,1♂,高島昭⁴⁴⁾)

三日月町(下本郷,-.VI.-,-;-.VII.1983,-;-.VII.1983,-;-.VI.1984,-;-.IX.-,-,川副昭人³³⁾)

氷ノ山(-.-.-,山本義丸⁶⁾)

市島町(妙高山,-.-.-,山本義丸⁶⁾)

9. *Acronicta major* Bremer

オオケンモン

北海道から九州まで本土域と対馬に普通に産する。年2回の発生で幼虫はカエデ、リンゴ、スモモ、ニセアカシアなど多種の広葉樹につく。

県下では案外局地的な産出で、神戸から中東播にかけては大きな分布空白域となっている。

[採集記録]

西宮市(甲東園,20.V.1970,1♀,東正雄³⁹⁾)

宝塚市(南口2丁目,12.IX.1979,-,新家勝¹⁹⁾:光明町,9.IX.1988,-,新家勝³⁹⁾)

妙見山(5.VII.1984,1♂,夏秋ほか²⁸⁾)

波賀町(引原,27.VII.1973,1♂;12.VIII.1974,1♂,遊磨正秀¹¹⁾:同,14.VIII.1979,2♂,相坂耕作:同,12.VIII.1987,1♂1♀;25.VIII.1987,2exs.;16.VII.1988,1♂,高島昭⁴²⁾:坂の谷,31.VII.1998,1♂,高島昭)

三室山(-.-.-,遠山ほか¹³⁾)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀²⁰⁾)

氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹³⁾)

関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸²⁾)

氷上郡(-.-.-,山本義丸⁴⁾)

10. *Hyboma adacta* (Warren)

サクラケンモン

北海道から九州北部まで分布する。年2回の発生と思われる。幼虫はサクラ類につく。県下では低山地を中心に各地で見られる。黒田庄町では普通に得られているようであるが、全般に個体数は少ない種のようなのである。

[採集記録]

宝塚市(南口2丁目, 21.V.1979, -, 新家勝¹⁹: 野上1, 6.V.1976, 1♀, 東正雄³⁹: 宝梅1, 2.V.1977, 1♂, 東正雄³⁹: 光明町, 17.IX.1991, 1♀, 新家勝³⁹: 西谷西部, 5.V.1992, 1♂, 東正雄³⁹)
 川西市(黒川, 3.V.1997, 1♂, 高島昭⁵⁰)
 高砂市(-, 17.VII.1966, 1ex. 岡本清: 米田町, 4.VI.1977, 1ex., 岡本清⁴⁵)
 黒田庄町(喜多, 17.V.1960, 1ex.; 24.VI.1960, 2exs.; 13.IX.1960, 2exs.; 14.IX.1960, 1ex.; 10.V.1961, 2exs.; 7.VII.1961, 1ex.; 21.IX.1961, 1ex.; 23.VII.1962, 1ex.; 23.IX.1962, 1ex. 岡本清⁴⁹)
 三日月町(下本郷, -, V.1984, -, 川副昭人³³)
 豊岡市(山本, 27.V.1973, -, 山根政之¹⁸: 正法寺, 2.VII.1998, 1♂, 柴田剛: 同, 12.VII.1998, 1♂, 柴田剛)
 氷ノ山(-, -, -, -, 遠山ほか¹³)
 氷上郡(-, -, -, -, 山本義丸⁴³)
 南淡町(阿万上町, 30.IV.1968, -; 19.V.1973, -, 藤平明¹²)

11. *Plataplecta pulverosa* (Hampson)

シロハラケンモン

前翅翅底に黒褐色条があり、この下側に接して卵形の暗色紋がある。後翅は外縁部が暗色帯となっている。本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布し、年2回発生する。幼虫はアキグミから得られている。県下では平地から丘陵地にかけて生息しているが、記録されている地域は少ない。局地的な分布というより調査が充分でないのだろう。県下全域に広く分布するものと思われる。氷ノ山でも記録がある。

[採集記録]

宝塚市(宝梅1, 30.VII.1986, 1♂, 東正雄³⁹)
 高砂市(-, 10.VI.1965, 1ex., 岡本清⁴⁵)
 黒田庄町(喜多, 16.V.1960, 1ex.; 21.V.1960, 1ex.; 24.V.1960, 1ex.; 11.VII.1960, 1ex.; 12.VIII.1960, 1ex.; 9.IX.1960, 1ex.; 8.V.1961, 1ex.; 30.VI.1961, 1ex., 岡本清⁴⁹)

姫路市(太市, 6.V.1995, 1♀, 高島昭)

氷ノ山(-, -, -, -, 遠山ほか¹³)

柏原町(柏原, -, -, -, -, 山本義丸⁴³)

南淡町(阿万上町, 7.VII.1962, -, 藤平明¹²: 同, 20.IV.1986, -, 藤平明³²)

12. *Plataplecta aibistigma* (Hampson)

シロモンケンモン

アサケンモンに似ているが外横線の白紋列はR脈間ではほぼ直線状、前翅環状紋は白色長楕円形で中心部の暗色点は大きい。日本特産で静岡県に離れた産地があるほかは近畿以西、四国、九州北部、対馬に産する。年2回の発生である。幼生期は未知である。県下ではやや局地的である。宝塚市の記録は*P. pruinosa* アサケンモンとして報告(新家, 1982)されていたもので、「宝塚の昆虫V」(宝塚市教育委員会, 1993)にも引用されていたが、本種の誤りであったとのことである(本人私信)。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, 27.VII.1967, -, 岡村八郎³⁴)
 宝塚市(武庫川町, 22.IX.1987, -, 新家勝)
 猪名川町(上阿古谷, 20.VII.1982, 2♂, 夏秋ほか²²)
 波賀町(引原, 22.VI.1974, 1♂, 遊磨正秀¹¹: 同, 1.IX.1988, 1♂1♀; 22.IX.1988, 1♀, 高島昭⁴²)
 三日月町(下本郷, -, VI. -, -, -, VII.1984, -; -, IX. -, -, 川副昭人³³)
 柏原町(柏原, -, -, -, -, 山本義丸⁴³)

13. *Triaena subpurpurea* (Matsumura)

ウスムラサキケンモン 注目種

寒地性の種で北海道から本州中部にかけては連続的に分布するが、西南暖地では山地に局地的に産する。個体数は少なく年1回6~7月に出現する。県下では氷ノ山で古い記録が1例あるだけである。近県では岡山県に記録があり、西播から但馬にかけての高地には分布していると思われる。

[採集記録]

関宮町(氷ノ山, -, -, 1955, 1♂, 山本義丸³)

14. *Triaena intermedia* Hampson

リンゴケンモン

本土域に分布し平地から山地に生息するが、庭木などにも発生するという。年2回の発生で、幼虫はサクラ、ヤナギ、ハルニレなど多くの落葉広葉樹につく。県下での採集例はそう多くないが、

平地から山地まで各地で見られる。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁷: 同, -.-.-, 岡村八郎³⁴)

宝塚市(南口2丁目, 11.X.1978, -, 新家勝¹⁹)

妙見山(29.VIII.1983, 1♂, 夏秋ほか²⁴)

高砂市(-, 28.IX.1962, 1ex.; 26.VII.1963, 1ex.; 15.IX.1965, 1ex.; -.IX.1982, 2exs., 岡本清⁴⁵)

黒田庄町(喜多, 18.V.1960, 1ex., 岡本清⁴⁹)

波賀町(引原, 12.VIII.1974, 1♂, 遊磨正秀¹¹: 坂の谷, 28.VIII.1998, 1♀, 高島昭)

三日月町(下本郷, -.VII.1983, -, 川副昭人³³)

温泉町(扇ノ山, 2.VI.1984, 1♂, 谷田昌也³¹)

津名町(大町畑, 5.V.1972, 1♂, 登日邦明⁹)

南淡町(阿万上町, 11.VI.1961, -; 9.V.1984, -, 藤平明³²)

15. *Triaena cuspis* (Hübner)

オオホソバケンモン 注目種

北海道、本州に分布するが北方系の種で、西南暖地では山地性の稀種となる。年2回の発生と思われ、幼虫はヤマハンノキから得られている。

県下では宝塚市、波賀町、関宮町で記録がある。氷ノ山を中心とした山地帯には比較的広く分布するのではないと思われるが、宝塚市の記録は低標高地であり注目される。

〔採集記録〕

宝塚市(西谷西部, 16.VI.1990, 1♂, 東正雄³⁹)

波賀町(引原, -.VII.1983, 1♂, 相坂耕作: 同, 7.VI.

1988, 1♂; 26.VI.1988, 1♂, 高島昭⁴²: 坂の谷, 26.

VI.1998, 1♀, 高島昭: 同, 12.VII.1998, 2♂, 高島昭)

関宮町(氷ノ山, 16.VII.1955, 1♀; 11.VII.1956, 2♀, 山本義丸³⁶)

16. *Triaena leucocuspis* Butler

キハダケンモン

同属の各種に似るが前翅は最も幅広く短い。また前翅の色調も明るく、二重の各横線は顕著である。北海道から本州、四国に産するが、関東以西の本州では局地的で、東海、紀伊半島、兵庫県、香川県に記録がある。兵庫県は分布の西限域になっている。暖地では年2回の発生である。

県下では、宝塚市、猪名川町、黒田庄町、柏原町で採集されており、いずれも丘陵地から低山地の二次林である。県西部、北部と淡路からは今の

ところ記録は見られず、黒田庄町喜多の記録が本州の西限である。

〔採集記録〕

宝塚市(西谷町, 16.VI.1963, 1♂, 田中蕃⁸: 西谷西部, 14.V.1977, 1♂; 24.VI.1978, 1♂; 17.VI.1989, 1♂; 16.VI.1990, 1♂, 東正雄³⁹)

猪名川町(上阿古谷, 28.VII.1963, 2♂, 若林守男⁸)

黒田庄町(喜多, 15.VI.1960, 1ex.; 17.VI.1960, 1ex.; 1.VII.1960, 1ex.; 12.VI.1961, 1ex.; 12.VII.1962, 1ex., 岡本清⁴⁹)

柏原町(柏原, 18.V.1951, 1♀, 山本義丸⁴³)

17. *Jocheaera alni* (Linnaeus)

ハンノケンモン 注目種

ユーラシア種で北海道から本州に産する。北海道には普通であるが、南に行くにつれて山地性となり、西南日本では局地的で少ない種である。ミズナラ、オニグルミなどの温帯林の広葉樹につき、年2回発生するという。県下では、引原ダムと氷ノ山に古い記録があるのみである。中央山地での発見が期待される。

〔採集記録〕

波賀町(引原, 29.VI.1974, 1♂, 遊磨正秀¹¹)

関宮町(氷ノ山, -.VII.1955, 1♂1♀, 山本義丸³)

18. *Hylomyza carbonaria* (Graeser)

ウスズミケンモン 注目種

マダラウスズミケンモンによく似ているが、♂♀とも後翅の地色は白色に近く、前翅の白色鱗片は少ない。関東以西、北九州地方までのクヌギを主とする二次林に見られるが局地的で産出は連続的でない。春に出現する。県内の記録は少なく、神戸市、宝塚市、三日月町で得られているに過ぎないが、宝塚市では市街地の真中で得られており注目される。

〔採集記録〕

神戸市(山田町, 28.VII.1973, 1♀, 松本健嗣²⁹)

宝塚市(武庫川町, 21.V.1988, -, 新家勝³⁸)

三日月町(下本郷, -.V.1984, -, 川副昭人³³)

19. *Hylomyza catocaloida* (Graeser)

キシタケンモン 注目種

前種に近縁であるが、後翅基半部と縁毛は鮮やかな黄色で一見して区別できる。ミズナラ林を中心に冷温帯を主たる生息域とし、北海道から九州

まで分布するが、四国や九州では高地帯に限られる。食樹はミズナラが知られている。年1回、夏の発生である。

県下の採集例は少なく、大阪との府県境にある能勢妙見山を含めてもわずかに3例があるに過ぎない。このうち姫路市広嶺山の記録は、周辺にミズナラのある山地帯からは遠く離れており、それ以外に食樹があるものと思われる。

〔採集記録〕

妙見山(5.VIII.1984,1♂,夏秋ほか²⁸⁾)

姫路市(広嶺山,6.VII.1996,1♂,高島昭⁴⁷⁾)

大屋町(田淵山,5.VIII.1975,1♂,遊磨正秀²⁰⁾)

20. *Hylonycta hercules* (Ferder & Rogenhofer)

シロシタケンモン

日本産ケンモンヤガのうちでも最大種の一つ。北海道から九州にかけての本土域と対馬に分布し、年2回の発生で、ハルニレ、ケヤキなどニレ科植物をたべる。県下では採集記録はあまり多くないが、平坦地から山地にまで及んでおり、普遍的に分布するものと思われる。

〔採集記録〕

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂,夏秋ほか²²⁾)

波賀町(引原,29.VI.1974,1♂; 2.VI.1975,1♂,遊磨正秀¹¹⁾: 同,5.IX.1987,1ex.; 9.VII.1988,1♀,高島昭⁴²⁾)

三日月町(下本郷, -.VI.-, -.VI.1984, -, 川副昭人³³⁾)

豊岡市(山本,18.VI.1973, -, 山根政之¹⁶⁾)

氷ノ山(-. -. -, 遠山ほか¹³⁾)

南淡町(阿万上町,28.V.1973, -, 藤平明¹²⁾: 同,1.VII.1973, -, 藤平明³²⁾)

21. *Viminia rumicis* (Linnaeus)

ナシケンモン

前翅の斑紋には多少の変異がある。本種はユーラシアの広域分布種で、日本では本土域と対馬、屋久島に普遍的に分布する。年2回以上の発生で食性は広く各種の灌木や草本につく。県内でも各地で採集され、個体数も多い。最も普通のケンモンである。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, -. -. -, 田中蕃⁷⁾)

宝塚市(南口2丁目,21.VI.1979, -, 新家勝¹⁹⁾: 武庫川町,3.VII.1989, -, 新家勝³⁸⁾: 光明町,8.VIII.1988, -,

新家勝³⁹⁾: 西谷西部,22.VIII.1987,1♀,東正雄³⁹⁾: 武田尾,26.VI.1992,1♂1♀,東たか³⁹⁾)

川西市(平野,14.VII.1992,1♀,東良雄³⁹⁾: 黒川,13.VII.1996,5♂; 3.V.1997,3♂; 5.VII.1997,1♀,高島昭⁵⁰⁾)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♀; 1.IX.1982,1♂,夏秋ほか²²⁾)

黒田庄町(喜多,27.III.1959,1ex.; 9.IV.1959,1ex.; 4.V.1959,1ex.; 15.VI.1959,1ex.; 25.VI.1959,1ex.; 28.IX.1959,1ex.; 13.IV.1960,1ex.; 19.IV.1960,1ex.,岡本清⁴⁹⁾)

姫路市(太市, -. -. -.1991, -, 丸谷ほか¹⁷⁾)

波賀町(引原,8.VI.1974,1♂; 22.VI.1974,1♀,遊磨正秀¹¹⁾: 同,7.VI.1988,1♂; 18.VI.1988,1♂; 26.VI.1988,1♂; 17.VI.1988,1♂; 8.VII.1988,1♀,高島昭⁴²⁾: 同,24.IV.1998,1♂,高島昭⁴⁴⁾)

相生市(瓜生,30.VI.1989,1♂,高島昭⁴⁴⁾)

上郡町(船坂,4.X.1997,1♂,高島昭⁴⁴⁾)

三日月町(下本郷, -.IV.-, -. -. -.VI.-, -. -. -.VII.1983, -. -. -.IX.1984, -, 川副昭人³³⁾)

温泉町(扇ノ山, -. -. -. -, 遠山ほか¹³⁾)

氷ノ山(-. -. -. -, 遠山ほか¹³⁾)

氷上郡(-. -. -. -, 山本義丸⁴⁾)

北淡町(常陸寺山,5.VIII.1972,1♂,登日邦明¹⁰⁾)

津名町(大町畑,3.IV.1972,1♂; 5.IV.1972,1♀; 5.V.1972,1♂,登日邦明⁹⁾: 同,29.IV.1972,1♀,登日英樹⁹⁾: 同,8.VII.1972,1♂,登日邦明¹⁰⁾)

洲本市(中津川,7.IV.1972,1♂,登日邦明⁹⁾)

南淡町(阿万上町,25.IV.1958, -. -. -.11.X.1959, -, 藤平明³²⁾: 同,14.VIII.1972,1♂,登日邦明¹⁰⁾: 阿万, -. -. -. -.VI.-, -. -. -.X.-, -, 藤平明¹²⁾)

22. *Viminia digna* (Butler)

クビグロケンモン 注目種

本州中部から九州にかけて分布するが、産出は極めて局地的である。年2回の発生と思われ、カキツバタ、イタドリが食草として記録されている。

県下では、これまで神戸市と淡路(津名町、洲本市)で得られており、淡路の記録は大岡鑑でも紹介されている。四国には記録があるようだが、本州側では近県の記録を知らない。低地草原(湿原?)に固有な種であるとすれば生息環境の保護が必要である。県南部の溜池周辺に残る草原での発見が期待される。

〔採集記録〕

神戸市(伊川谷,20.VIII.1975,1♀,松本健嗣²⁴⁾
 津名町(大町畑,3.V.1972,1♂; 5.V.1972,1♂,登日
 邦明⁹⁾
 洲本市(宇山,12.IV.1981,lex.; 1.V.1981,lex.; 14.
 IX.1981,lex.,林俊雅²³⁾)

23. *Craniphora lingstri* Schiffermüller

イボタケンモン 注目種

北海道から九州にかけて分布し、幼虫はイボタ
 から発見されている。大図鑑では7~9月の出現
 とあるが、5月の採集例も多く県下では年2回以
 上の発生となる。

県下では局地的な少ない種で、西播北部から氷
 ノ山にかけて記録がある。中央山地一帯に分布す
 ると思われる。

[採集記録]

波賀町(引原,22.V.1976,1♂,遊磨正秀¹⁷⁾; 同,7.IX.
 1988,1♂,高島昭⁴²⁾; 坂の谷,28.IV.1998,1♂,高島
 昭; 同,15.V.1998,1♂1♀,高島昭; 同,12.VIII.1998,
 2♂,高島昭)

関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸²⁾)

24. *Craniphora praelara* Hampson

ニッコウケンモン

前種に近縁であるが、一般に大きく前翅基部後
 縁部に黄緑色の鱗片を有することで区別できる。
 冷温帯性の蛾で北海道から九州にかけて産するが
 西南暖地では山地性となる。幼生期は不明である。

県下では川西市、波賀町、氷ノ山などで得られ
 ている。大阪府箕面でも記録があり、県南東部の
 山地では広く分布している可能性がある。

[採集記録]

川西市(黒川,7.VI.1997,1♂,高島昭⁵⁰⁾)
 波賀町(引原,22.VI.1974,1♂,遊磨正秀¹¹⁾; 同,-.VII.
 1983,2♂,相坂耕作; 同,25.VII.1988,1♂; 1.IX.
 1988,1♀,高島昭⁴²⁾; 坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島
 昭)

氷ノ山(-.-.-,遠山ほか¹³⁾)

関宮町(氷ノ山,-.-.1954,-,山本義丸²⁾)

25. *Craniphora fasciata* (Moore)

シマケンモン

熱帯アジアに分布の中心を持つ南方系の種で、
 関東南部を北限とし、東海・近畿以西に広く分布
 する。年数回の発生と思われる。ネズミモチやヒ

イラギが食樹として知られている。県下では南部
 から淡路にかけての平地から低山地に広く分布し
 ている普通種である。但馬地域からの発見が期待
 される。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,岡村八郎³⁴⁾)

西宮市(香炉園,20.V.1950,1♂,東正雄³⁹⁾)

宝塚市(南口2丁目,19.V.1989,-,新家勝³⁸⁾; 光明
 町,31.VIII.1988,-; 22.VI.1990,-,新家勝³⁹⁾; 西谷
 西部,14.V.1977,1♂,東正雄³⁹⁾; 武田尾,15.VII.
 1991,1♂,東正雄³⁹⁾)

高砂市(-,16.VI.1965,lex.,岡本清⁴⁵⁾)

西脇市(-,1.V.1959,lex.,猪股凉一)

相生市(瓜生,7.VI.1989,1♂,高島昭⁴⁴⁾)

三日月町(下本郷,-.VIII.1983,-; -.VI.1984,-,川副
 昭人³³⁾)

氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁴⁾)

津名町(大町畑,5.V.1972,2♂,登日邦明⁹⁾; 同,1.VII.
 1972,1♂,登日邦明¹⁰⁾)

洲本市(中津川,3.VII.1972,1♂,登日邦明¹⁰⁾; 物部,2.
 V.1981,lex.,林俊雅²³⁾)

南淡町(阿万上町,10.VI.1962,-,藤平明¹²⁾; 同,2.V.
 1986,-,藤平明³²⁾)

26. *Craniphora oda* (Lattin)

ネジロシマケンモン 注目種

斑紋のパターンは同属の各種に似るが、基部か
 ら内横線に至るまで一様に灰白色で、一見して区
 別できる。採集例は極めて少なく、これまで広島
 県豊平町、新潟県朝日村と氷ノ山(大屋町横行)で
 得られているだけである。兵庫県版レッドデータ
 ブックにはその名があがっていないが、Aクラス
 の稀種である。7月に得られている。幼生期は不
 明である。国外では朝鮮、沿海州に分布する。深
 い山地で局地的に発生している可能性が高く、再
 発見が期待される。

[採集記録]

大屋町(横行,23.VII.1957,1♂1♀,山本義丸⁹⁾)

27. *Craniphora jankowskii* (Oberthür)

クロフケンモン

前翅の斑紋には地理的変異がある。北海道から
 九州にかけてと対馬に分布し、年2回の発生と思
 われる。トネリコを食樹としている。

県下での記録は少なく、山地帯に限られている。

中央山地一帯に広く分布していると思われる。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁷⁾)

妙見山(26.VIII.1983, 2♂2♀, 夏秋ほか²⁸⁾)

加美町(三国岳, 17.VIII.1960, 1ex., 猪股涼一)

波賀町(引原, 18.VII.1973, 1♂; 8.VI.1974, 1♂; 13.VII.1974, 1♂, 遊磨正秀¹¹⁾; 坂の谷, 28.VIII.1998, 1♂, 高島昭)

氷ノ山(-.-.-, 山本義丸⁶⁾; 同, -.-.-, 遠山ほか¹³⁾)

28. *Narcotina niveosparsa* (Matsumura)

シロフクロケンモン

北海道から九州にかけてと対馬に分布するが全般的に少ない種である。夏に発生するが幼生期は不明である。本種は分類上の位置が微妙で、幼虫の発見が期待されている。県下では西播磨から但馬・丹波にかけての地域と能勢妙見山に孤立した分布を示す。大阪府箕面にも記録があるので、北摂から六甲地域にかけても発見されるだろう。発生地での個体数は少ないものではないとの報告(川副, 1987)もある。

〔採集記録〕

妙見山(7.VII.1984, 1♂3♀, 夏秋ほか²⁸⁾)

波賀町(引原, 25.VII.1988, 1♂, 高島昭⁴²⁾)

相生市(瓜生, 30.VI.1989, 1♂, 高島昭⁴⁴⁾)

三日月町(下本郷, -.-.-, -.-.-; -.-.-, VI.1984, -.-.-, 川副昭人³³⁾)

大屋町(田淵山, 5.VII.1975, 2♂, 遊磨正秀²⁰⁾)

氷ノ山(-.-.-, 山本義丸⁶⁾)

関宮町(鉢伏高原, 24.VII.1974, 1♀; 23.VII.1975, 1♀, 山本義丸⁴⁸⁾)

市島町(妙高山, 28.VIII.1954, -.-.-, 山本義丸⁴⁾)

29. *Lophonycta confusa* (Leech)

アミメケンモン

分類上の位置が不確定な種で、かつてコヤガ亜科やキノコヨトウ亜科に含められていた。したがって、アミメコヤガ、アミメキノコヨトウという別称がある。本州から九州に産する。幼生期は不明である。県下では低山地から山地にかけて広く分布し、各地で普通に見られる。

〔採集記録〕

神戸市(六甲山, -.-.-.1933, -.-.-, 堀江聡男¹⁾; 摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁷⁾; 同, 2.VI.1968, -.-.-; 25.VIII.1985, -.-.-,

岡村八郎³⁴⁾)

宝塚市(西谷西部, 25.VI.1977, 2♂; 6.VIII.1977, 1♂; 27.V.1978, 1♂; 22.VI.1985, 1♂; 13.VI.1987, 1♂; 1.VIII.1987, 2♂1♀; 8.VIII.1987, 1♀; 2.VII.1988, 1♂; 6.VIII.1988, 1♂; 20.VIII.1988, 2♂; 15.VI.1990, 2♂; 8.VI.1991, 1♂, 東正雄³⁰⁾)

川西市(黒川, 13.VII.1996, 1♂; 7.VI.1997, 1♂, 高島昭⁵⁰⁾)

猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 3♂; 12.VIII.1982, 5♂; 20.VIII.1982, 3♂1♀, 夏秋ほか²²⁾)

黒田庄町(喜多, 27.V.1959, 2exs.; 11.VI.1959, 1ex.; 2.VI.1960, 1ex., 岡本清⁴⁹⁾)

姫路市(広嶺山, -.-.-.1982, -.-.-, 木村三郎²⁷⁾; 同, 6.VII.1996, 1♀, 高島昭⁴⁷⁾; 太市, 28.VI.1995, 1♂, 高島昭)

波賀町(原, 28.VII.1996, 1ex., 高島昭; 引原, 4.VII.1973, 1♂; 18.VII.1973, 1♂; 27.VII.1973, 1♂; 22.VI.1974, 1♂; 29.VI.1974, 1♂, 遊磨正秀¹¹⁾; 同, 2.VII.1988, 1♂; 16.VII.1988, 1♀, 高島昭⁴²⁾)

三室山(-.-.-, 遠山ほか¹³⁾)

相生市(瓜生, 7.VI.1989, 1♂; 30.VI.1989, 1♂, 高島昭⁴⁴⁾)

上郡町(行頭, 23.VI.1995, 1♂1♀, 高島昭⁴⁶⁾)

三日月町(下本郷, -.-.-.VII.1983, -.-.-; -.-.-.VIII.1983, -.-.-; -.-.-.VI.-.-.-, 川副昭人³³⁾)

豊岡市(山本, 27.V.1973, -.-.-, 山根政之¹⁵⁾; 正法寺, 2.VIII.1998, 1♂, 柴田剛)

朝来町(須留ヶ峰, 9.VII.1975, 1♂, 遊磨正秀¹⁸⁾)

氷ノ山(-.-.-, 遠山ほか¹³⁾)

関宮町(氷ノ山, -.-.-.1955, -.-.-, 山本義丸³⁾)

氷上郡(-.-.-, 山本義丸⁴⁾)

洲本市(中津川, 11.VIII.1972, 2♂, 登日邦明¹⁴⁾)

南淡町(阿万上町, 4.VI.1984, -.-.-; 29.VI.1987, -.-.-, 藤平明³²⁾)

<今後発見される可能性がある種>

1. *Cymatophoropsis unca* (Houlbert)

ホソバミツモンケンモン

岡山県(高梁市、新見市、備中町ほか)、広島県、高知県、宮崎県、徳島県で記録があるがいずれの地でも極めて局地的で個体数も少ないAクラスの注目種。幼生期は未知であるがおそらくクロウメモドキを食べているのではないかと推測される。

岡山県では、県西部の石灰岩地帯の深い溪谷地帯が生息域となっている。兵庫県でもクロウメドキが多い溪谷地帯を丹念に探せば見つかるのではないかと考えている。

2. *Plataplecta pruinosa* (Guenée)

アサケンモン

翅表の斑紋に個体変異が大きい、外横線は白色波状で幅広いという点で他の種と区別できる。

シロモンケンモンより暖地性で関東以西から琉球列島にかけてと対馬、伊豆諸島に分布する。年2回の発生でグミ属を食樹とする関係で、明るい低山地や林縁部、草原地帯が主な生息域と思われる。県下では宝塚市での記録が1例(新家,1982)あったが、シロモンケンモンとの誤認によるものであることがわかった。

3. *Triaena isocuspis* (Sugi)

ゴマシオケンモン

東北地方から中部地方にかけての山地に普通に産し、四国剣山でも高地に少なくないという。岡山県からも記録がある。幼生期は不明。生息域はブナ・ミズナラ帯に一致する。年2回の発生である。兵庫県でも氷ノ山を中心とした西播磨から但馬にかけての高地帯に生息している可能性が高い。

4. *Hylonycta subornata* (Leech)

マダラウスズミケンモン

ウスズミケンモンによく似ているが、翅表の白色鱗片を混じる度合いは強く、後翅は灰黄色。日本特産種でクヌギを食することが知られているが採集例は少ない。関東地方から近畿地方にかけての丘陵地で春に得られるというが、産地はかなり局地的である。周年経過等は不明である。大図鑑によると兵庫県に産するとあるが、山本義丸氏によると大阪府池田市産のものが誤って兵庫県産として記載されたのではないかとのことである。筆者の手許にある文献では兵庫県産のデータを確かできなかったため、未確認種として扱った。大阪府箕面公園や池田市でも採集されているとのこと、兵庫県からも見つかるだろう。

5. *Craniophora harmandi* (Poujade)

タカオケンモン

イボタケンモン、ニッコウケンモンとよく似て

いるが前者とは外横線内側の白色部の形状で、後者とは前翅基部内縁に黄緑色鱗片を持たないことで区別できる。東京都高尾山、紀伊半島、四国、対馬で発見されており、常緑広葉樹を主体とした暖温帯林に優勢な種との印象を受ける。北摂地域から六甲山系、淡路での発見が期待される。

6. *Craniophora pacifica* Filipjev

クシロツマジロケンモン

北海道には広く分布するが、それ以外では岡山県備中町に記録があるだけで孤立した産地となっている。本県においても氷ノ山を中心とした深い山地で発見される可能性がある。

7. *Thalatha japonica* Sugi

ウスイロケンモン

日本特産種で、東京都高尾山付近を北限として東海地方から紀伊半島、四国、九州北部、対馬、八丈島から得られている。年2回の出現で幼生期は不明である。県南部の常緑広葉樹林の残る山地から海岸地帯で発見される可能性がある。

<参考・引用文献>

- 1) 戸沢信義(1935) 六甲山産蛾類目録 関西昆虫雑誌 2(3):30-31.
- 2) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報) 兵庫生物 3(1/2):3-6.
- 3) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報) 兵庫生物 3(3):121-123.
- 4) 山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録:12-50.
- 5) 山本義丸(1958) 氷ノ山の蛾について(第三報) 兵庫生物 3(4):237-239.
- 6) 山本義丸(1959) 氷ノ山の蛾類について(補遺) 兵庫生物 3(5):383-384.
- 7) 田中 蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶 19(71):89-104.
- 8) 田中 蕃(1967) キハダケンモンの採集記録 佳香蝶 19(69):39.
- 9) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(I) 蛾類通信 73:215-224.
- 10) 登日邦明(1973) 淡路島若干の蛾の記録 PARNASSIUS 9:9-16.
- 11) 遊磨正秀(1978) 引原ダム(兵庫県波賀町)のヤガ類(I) きべりはむし 6(1/2):16-19.
- 12) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(II)

- PARNASSIUS 12:5-13.
- 13) 奥谷禎一(1974) 中国山脈東端の昆虫相
東中国山地自然環境調査報告 173-191.
 - 14) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅱ)
蛾類通信 76:261-266.
 - 15) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録
(第1・2報):48-54.
 - 16) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録
(第3報):9-14.
 - 17) 遊磨正秀(1979) 宍粟郡波賀町引原ダムの蛾類
について(Ⅱ) きべりはむし 7(2):2-16.
 - 18) 遊磨正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾類
について(Ⅰ) きべりはむし 8(1):1-8.
 - 19) 新家 勝(1981) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(その2) きべりはむし 9(2):17-20.
 - 20) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類に
ついて(Ⅰ) きべりはむし 9(1):3-6.
 - 21) 井上 寛ほか(1982) 日本産蛾類大図鑑 Vol.1:
1-968, Vol.2, 1-556, pls.1-392. 講談社・東京
 - 22) 夏秋 優・佐々木 昇(1982) 能勢地方の蛾(Ⅰ)
上阿古谷・夏の蛾 Crude 23:1-37.
 - 23) 林 俊雄(1983) 淡路島産蛾類採集記録(Ⅰ)
PARNASSIUS 28:13-16.
 - 24) 松本健嗣(1983) 神戸・明石近海地域の主な蛾
(その1) きべりはむし 11(1):3-6.
 - 25) 西岡公明(1983) 三熊山蛾類採集記録[Ⅰ]
PARNASSIUS 27:7-9.
 - 26) 新家 勝(1983) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その2) きべりはむし 11(1):6-10.
 - 27) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫
てんとうむし 9:53-58.
 - 28) 夏秋 優・佐々木 昇(1984) 能勢地方の蛾(Ⅲ)
妙見山・夏の蛾(Ⅰ) Crude 25:15-22.
 - 29) 松本健嗣(1985) 神戸市山田町の蛾(続報Ⅲ)
きべりはむし 13(1):18-19.
 - 30) 新家 勝(1986) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その5) きべりはむし 14(1):21-22.
 - 31) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(1)
IRATSUME 10:30-37.
 - 32) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊)
 - 33) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え番
てんとうむし 10:1-10.
 - 34) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集目録
てんとうむし 10:37-45.
 - 35) 新家 勝(1988) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その8) きべりはむし 16(1):13-15.
 - 36) 山本義丸(1989) 氷ノ山の蛾類について(後報)
兵庫生物 9(5):295-297.
 - 37) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森林内
基礎調査報告書 4-6昆虫類 p.119-151.
 - 38) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集した
蛾(続報その10) きべりはむし 21(2):53-64.
 - 39) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫Ⅴ
蛾類(Ⅱ)
 - 40) 藤富正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト
PARNASSIUS 41:1-4.
 - 41) 岡本 清(1995) ミカエリソウからスギタニア
オケンモンの幼虫を採集 遊蟲千年:25.
 - 42) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における
蛾相第1報 きべりはむし 23(1):6-16.
 - 43) 山本義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類(1)
きべりはむし24(2):1-13.
 - 44) 高島 昭(1996) 相生市三濃山麓の蛾(1)
きべりはむし 24(1):27-39.
 - 45) 岡本 清(1997) 高砂の蛾 てんとうむし
11:40-45.
 - 46) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1)
きべりはむし 25(1):31-39.
 - 47) 高島 昭(1997) 姫路市広嶺山の蛾(1)
てんとうむし 11:65-69.
 - 48) 山本義丸(1997) 兵庫県で採集した蛾の記録
きべりはむし 25(2):54-57.
 - 49) 岡本 清(1998) 黒田庄町で採集した蛾(1)
てんとうむし 12:30-38.
 - 50) 高島 昭(1998) 黒川の蛾 きべりはむし
26(1):23-38.
- (TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

相生市三濃山麓の蛾(2)

- 兵庫県産蛾類分布資料・10 -

高島 昭

相生市三濃山の南麓にある「羅漢の里」付近の蛾については、「相生市三濃山麓の蛾(1)」としてきべりはむし24(1)に発表したが、その後若干の種を追加したので第2報とする。採集地はすべて相生市瓜生、採集者は筆者である。

また、種名の前に付した番号は前回からの通し番号である。なお、シャクガ科については前回99種を報告したが、ニセオレクギエダシャクが誤同定であったため記録を削除するとともに今回のリストではシャクガ科はNo.99から始まる。

ヒゲナガガ科 ADELIDAE

1. *Nemophora rubrofascia* (Christoph)
ベニオビヒゲナガ 16.VI.1996, 1♂

ボクトウガ科 COSSIDAE

ゴマフボクトウ亜科 <ZEUZERINAE>

1. *Zeuzera multistrigata* Moore ゴマフボクトウ
26.VIII.1997, 1♀

ハマキガ科 TORTRICIDAE

ハマキガ亜科 <TORTRICINAE>

1. *Archips oporatus* (Linnaeus)
マツアトキハマキ 7.VI.1989, 1♀
2. *Archips fuscocupreanus* Walsingham
ミダレカクモンハマキ 17.VI.1989, 1♂
3. *Archips nigricaudanus* (Walsingham)
シリグロハマキ 16.VI.1996, 1♂
4. *Hoshinoa adumbratana* (Walsingham)
オオフタスジハマキ 7.VI.1989, 1♀
5. *Kawabeia razowskii* (Kawabe)
ハイイロフユハマキ 25.II.1997, 1♂
6. *Kawabeia nigricolor* Yasuda & Kawabe
ウスグロフユハマキ 8.III.1997, 1♂
7. *Acleris hispidana* (Christoph)
ハイミダレモンハマキ 9.IV.1997, 1♂
8. *Croesia leechi* (Walsingham)
ギンヨスジハマキ 6.VI.1997, 1♀

9. *Tortrix sinapina* (Butler) ウスアミメハマキ
6.VI.1997, 1♀

テングハマキガ亜科 <SPARGANOTHINAE>

10. *Sparganothis pilleriana* (Denis & Schiffermüller)
テングハマキ 6.VI.1997, 1♂

イラガ科 LIMACODIDAE

5. *Natada takemurai* Inoue クロスジイラガ
22.VIII.1997, 1♂

マドガ科 THYRIDIDAE

アカジマドガ亜科 <STRIGLINAE>

1. *Strigina suzukii* Matsumura アミメマドガ
24.V.1989, 1♂

マダラマドガ亜科 <SIGULINAE>

2. *Rhodonecura vittula* Guenée マダラマドガ
24.V.1989, 1♀

メイガ科 PYRALIDAE

オオメイガ亜科 <SCHOENOBIIINAE>

1. *Patissa fulvosparsa* (Butler)
キボシオオメイガ 23.VI.1989, 1♂

ツトガ亜科 <CRAMBINAE>

2. *Chrysoteuchia distinctella* (Leech)
テンスジツトガ 6.VI.1997, 1♀
3. *Ancylolomia japonica* (Zeller) ツトガ
18.VII.1997, 1♂

ノメイガ亜科 <PYRAUSTINAE>

4. *Pileocera aegimiusalis* (Walker)
クビシロノメイガ 22.VIII.1997, 1♀
5. *Pycnarmon pantherata* (Butler)
クロオビノメイガ 23.VI.1989, 1♂
6. *Chabula telphusalis* (Walker)
オオシロモンノメイガ 22.VIII.1997, 1♀
7. *Analthes semitritalis* Lederer シロヒトモンノ
メイガ 24.V.1989, 1♂, 30.VI.1989, 1♂, 9.V.
1997, 1♂, 8.IX.1997, 1♂
8. *Omiodes noctescens* Moore キバラノメイガ
1.VI.1989, 1♂

9. *Syllepte fuscomarginalis* (Leech)
クロヘリノメイガ 7.VII.1989,1♂
10. *Palpita nigropunctalis* (Bremer)
マエアカスカシノメイガ 28.III.1995,1♂
11. *Palpita inusitata* (Butler)
ヒメシロノメイガ 13.V.1989,1♂
12. *Glyphodes pyloalis* Walker クワノメイガ
24.V.1989,1♂
13. *Polythlipta liquidalis* Leech
ツマグロシロノメイガ 1.VI.1989,1♂
14. *Sinibotys evenoralis* (Walker)
セスジノメイガ 23.VI.1989,1♀
15. *Bradina geminalis* Caradja
モンウスグロノメイガ 24.VII.1997,1♂1♀
16. *Bradina angustalis* Yamanaka
アカウスグロノメイガ 24.VII.1997,1♂1♀
17. *Herpetogramma luctuosalis* (Guenée)
モンキクロノメイガ 30.VI.1989,1♀
18. *Paliga minnehaha* (Pryer) マエベニノメイガ
24.V.1989,1♀
19. *Ostrinia palustralis* (Hübner)
ユウグモノメイガ 13.V.1989,1♂
20. *Ostrinia scapularis* (Walker) フキノメイガ
24.VII.1997,1♂, 26.VIII.1997,1♀
21. *Demobotys pervulgalis* (Hampson)
トガリキノメイガ 23.VI.1989,1♀
22. *Microstega jessica* (Butler) ウスオビキノメイガ
28.IV.1995,1♂, 8.IX.197,1♂
ミズメイガ亜科 <NYMPHULINAE>
23. *Nymphula separatalis* (Leech) クロスジマダラ
ミズメイガ(Fig.1) 30.VI.1989,1♀
秋田県、新潟県、茨城県、岐阜県、愛媛県など



Fig.1. *Nymphula separatalis* (Leech)
クロスジマダラミズメイガ

で散発的に記録されているが局地的で少ない種である。兵庫県ではあまり例がないと思われる。

24. *Nymphula bifurcalis* Wileman
ゼニガサミズメイガ 24.VII.1997,1♀
25. *Cataclysta midas* Butler キオビミズメイガ
6.VI.1997,1♂
ツツリガ亜科 <GALLERINAE>
26. *Tirathaba irrufatella* Ragonot
キイロツツリガ 24.VII.1997,1♂
フトメイガ亜科 <EPIPASCHINAE>
27. *Teliphasa amica* (Butler) オオフトメイガ
18.VII.1997,1♀
28. *Locastra muscosalis* (Walker)
トサカフトメイガ 30.VI.1989,1♀
29. *Craneophora ficki* Christoph
ナカムラサキフトメイガ 23.VI.1989,1♀
30. *Orthaga onerata* (Butler) ネアオフトメイガ
6.VI.1997,1♀
シマメイガ亜科 <PYRALINAE>
31. *Hypsoptygia regina* (Butler)
トビイロシマメイガ 23.VI.1995,1♀
32. *Stemmatophora valida* (Butler) トビイロフタス
ジシマメイガ 7.VII.1989,1♂1♀
33. *Orthopterygia glaucinalis* (Linnaeus)
フタスジシマメイガ 26.VIII.1997,1♀
34. *Orybina regalis* (Leech) キンボシシマメイガ
7.VII.1989,1♂
35. *Endotricha olivacealis* (Bremer)
ウスベニトガリメイガ 24.VII.1997,1♀
マダラメイガ亜科 <PHYCITINAE>
36. *Nephopterix mikadella* (Ragonot)
ミカドマダラメイガ 18.VII.1997,1♂
37. *Etielloides curvellus* Shibuya
ナシハマキマダラメイガ 29.V.1997,1♂

カギバガ科 DREPANIDAE

カギバガ亜科 <DREPANINAE>

10. *Ditrigona virgo* (Butler)
フタテンシロカギバ 16.VI.1996,1♀

シャクガ科 GEOMETRIDAE

フユシャク亜科 <ALSOPHILINAE>

99. *Inurois tenuis* Butler ホソウスバフユシャク
8.III.1997,1♂

アオシャク亜科 <GEOMETRINAE>

100. *Diclica virescens* (Butler) ウスアオシャク
8.IX.1997,1♂
101. *Eucyclodes infracta* (Wileman)
ヒメシロフアオシャク 24.VII.1997,1♂
102. *Jodis putata* (Linnaeus)
ヒメウスアオシャク 18.VII.1997,1♀
103. *Jodis dentifascia* Warren
オオナミガタアオシャク 24.VII.1997,1♂
104. *Maxates albistrigata* Warren スジモンツバメ
アオシャク 21.V.1997,1♂, 29.V.1997,1♀
ヒメシャク亜科 <STERRHINAE>

105. *Pylargosceles steganioides* (Butler)
フタナミトビヒメシャク 28.IV.1995,1♀,
25.IV.1996,2♂
106. *Problepsis diazoma* Prout クロスジオオシロ
ヒメシャク 6.VI.1997,1♂, 8.IX.1997,1♂
107. *Scopula personata* (Prout)
ナミスジチビヒメシャク 21.V.1997,1♀
108. *Scopula floslactata* (Haworth)
ヤスジマルバヒメシャク 21.V.1997,1♀
109. *Scopula ignobilis* (Warren)
ウスキクロテンヒメシャク 8.IX.1997,1♀
110. *Idaea imbecilla* Inoue
オオウスモンキヒメシャク 22.VIII.1997,1♂
ナミシャク亜科 <LARENTIINAE>

111. *Trichopteryx terranea* (Butler)
チャオビコバナナミシャク 31.III.1997,2♂
112. *Trichopteryx miracula* Inoue ウスミドリコバ
ナミシャク(Fig.2) 8.III.1997,2♂
比較的少ない種で、早春に出現する。これまで
県下では神戸市で古い記録が2例あるだけである。



Fig.2. *Trichopteryx iracula* Inoue
ウスミドリコバナナミシャク

113. *Trichopteryx ussurica* (Wehrli)
マダラコバナナミシャク 31.III.1997,1♂
114. *Typloptera bella* (Butler)
ホソバナミシャク 6.VI.1997,1♂
115. *Xanthorhoe saturata* (Guenée)
フトジマナミシャク 24.VII.1997,1♂
116. *Xanthorhoe hortensiaria* (Graeser)
フタトビスジナミシャク 25.IV.1996,1♂
117. *Idiotephria evanescens* (Staudinger)
ナカモンキナミシャク 30.IV.1997,1♀
118. *Calleulype whitelyi* (Butler)
ツマキシロナミシャク 16.VI.1996,1♂
119. *Lampropteryx minna* (Butler)
アトクロナミシャク 29.V.1997,1♂
120. *Operophtera rectipostmediana* Inoue
イチモジフユナミシャク 22.III.1996,1♂
121. *Operophtera relegata* Prout
クロオビフユナミシャク 22.III.1996,2♂
122. *Laciniodes denigratus* Warren
セジロナミシャク 29.V.1997,1♀
123. *Eupithecia proterva* Butler
ウスカバナミシャク 31.III.1997,1♀
124. *Chloroclystis excisa* (Butler)
ソトシロオビナミシャク 21.V.1997,1♂
125. *Melanthia procollata* (Denis & Schiffermüller)
ナカジロナミシャク 29.V.1997,1♀
エダシャク亜科 <ENNOMINAE>
126. *Abraxas miranda* Butler
ユウマダラエダシャク 29.V.1997,1♂,
22.VIII.1997,1♀, 25.IX.1997,1♂
127. *Lomograaha nivea* (Djakonov)
ウスオビシロエダシャク 28.IV.1997,1♀
128. *Plesiomorpha flaviceps* (Butler) マエキオエダ
シャク 2.V.1996,1♀, 24.VII.1997,1♂
129. *Euchristophia cumulata* (Christoph)
ウスオビヒメエダシャク 6.VI.1997,1♀
130. *Krananda semihyalina* Moore スカシエダシャ
ク 30.IV.1997,1♀, 24.VII.1997,1♀
131. *Luxiaria amasa* (Butler)
トビカギバエダシャク 24.VII.1997,1♂
132. *Protoarmia simpliciaris* (Leech)
オレクギエダシャク 8.IX.1997,1♀
133. *Hypomecis roboraria* (Denis & Schiffermüller)
ハミスジエダシャク 6.VI.1997,1♀

134. *Heterarmia charon* (Butler)
ナミガタエダシャク 21.V.1997,2♂
135. *Apochima juglansiavii* (Graeser)
オカモトトゲエダシャク 8.III.1997,2♂
136. *Biston regalis* (Moore)
ハイイロオオエダシャク 18.VII.1997,1♀
137. *Cryptochorina amphidasyaria* (Oberthür)
ヒゲマダラエダシャク 31.III.1997,1♂
138. *Xerodes albonotaria* (Bremer)
モンシロツマキリエダシャク 18.VII.1997,1♀
139. *Xerodes rufescentaria* (Motschulsky)
ミスジツマキリエダシャク 18.IV.1996,2♂,
25.IV.1996,1♂, 31.III.1997,1♂
140. *Pareclipsis gracilis* (Butler) ツマキリウスキエ
ダシャク 28.IV.1997,1♀, 29.V.1997,1♀
141. *Oourapteryx maculicaudaria* (Motschulsky)
シロツバメエダシャク 29.V.1997,1♀

アゲハモドキガ科 EPICOPEIIDAE

1. *Epicopeia hainesii* Holland アゲハモドキ
22.VIII.1997,1♂, 25.IX.1997,1♂
2. *Psychostrophia melanargia* Butler キンモンガ
16.VI.1996,1♂

カレハガ科 LASIOCAMPIDAE

2. *Dendrolimus superans* (Butler) マツカレハ
26.VIII.1997,1♀

ヤママユガ科 SATURNIIDAE

2. *Antheraea yamamai* (Guérin-Méneville)
ヤママユ 26.VIII.1997,1♂
3. *Actais artemis* (Bremer & Grey)
オオミズアオ 26.VIII.1997,1♀

スズメガ科 SPHINGIDAE

5. *Dolbina tancrei* Staudinger サザナミスズメ
18.VII.1997,1♂, 24.VII.1997,1♂
6. *Acosmeryx castanea* Rothchild & Jordan
ブドウスズメ 26.VIII.1997,1♂

シャチホコガ科 NOTODONTIDAE

1. *Stauropus fagi* (Linnaeus) シャチホコガ
29.V.1997,1♂
2. *Mesophalera sigmata* (Butler)

クロシタシャチホコ 24.VII.1997,1♀

3. *Phalera assimilis* (Bremer & Grey)
ツマキシタホコ 22.VIII.1997,1♀
4. *Rablala criatata* (Butler) セダカシャチホコ
24.VII.1997,1♀
5. *Rablala splendida* (Oberthür)
アオセダカシャチホコ 18.VII.1997,2♂
6. *Peridea gigantea* Butler ナカキシタホコ
26.VIII.1997,1♂
7. *Drymonia basalis* Wileman & South
ノヒラトビモンシャチホコ 18.IV.1996,2♂,
9.IV.1997,1♂
8. *Hexafrenum leucodera* (Staudinger)
ツマジロシャチホコ 8.IX.1997,1♂

ドクガ科 LYMANTRIIDAE

9. *Calliteara argentata* (Butler) スギドクガ
6.VI.1997,1♀
10. *Arctornis kumatai* Inoue スカシドクガ
25.IX.1997,2♀
11. *Ivela auripes* (Butler)
キアシドクガ 22.VIII.1997,1♂

ヒトリガ科 ARCTIIDAE

コケガ亜科 <LITHOSIINAE>

22. *Lithosia quadra* (Linnaeus) ヨツボシホソバ
26.VIII.1997,1♂, 8.IX.1997,1♂1♀
23. *Miltochrista striata* (Bremer & Grey)
スジベニコケガ 13.V.1989,1♀, 21.V.1997,
1♂, 29.V.1997,1♂1♀

ヤガ科 NOCTUIDAE

モンヤガ亜科 <NOCTUINAE>

85. *Agrotis segetum* (Denis & Schiffermüller)
カブラヤガ 29.V.1997,1♂
86. *Cerastis pallescens* (Butler) カギモンヤガ
9.IV.1997,2♂

ヨトウガ亜科 <HADENINAE>

87. *Xylopolia bella* (Butler) クロスジキリガ
18.IV.1996,1♂

88. *Aletia pryri* (Leech) ウラギンキヨトウ
22.VIII.1997,1♀, 25.IX.1997,1♀

セダカモクメ亜科 <CUCULLINAE>

89. *Xylena fumosa* (Butler) アヤモクメキリガ

25. II. 1997, 1♂
90. *Xylena formosa* (Butler) キバラモクメキリガ
25. IV. 1996, 1♂
91. *Lithophane usutulata* Butler ハンノキリガ
31. III. 1997, 1♂
92. *Conistra aradescens* (Butler)
カシワオビキリガ 8. III. 1997, 1♂
93. *Conistra grisescens* Draudt
ミヤマオビキリガ 25. II. 1997, 1♂
94. *Conistra nawae* Matsumura ナワキリガ
8. III. 1997, 1♂
カラスヨトウ亜科 <AMPHIPYRINAE>
95. *Dipterygina japonica* (Leech)
コクロモクメヨトウ 30. IV. 1997, 1♂
96. *Athetis cinerascens* (Motschulsky)
クロテンヨトウ 9. IV. 1997, 1♂
97. *Amphipyra tripartita* Butler
シロスジカラスヨトウ 25. IX. 1997, 1♀
98. *Hadjima biguttula* (Motschulsky)
フタテンヒメヨトウ 8. IX. 1997, 1♂
フサヤガ亜科 <EUTELIINAE>
99. *Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer)
フサヤガ 25. IV. 1996, 1♀
リング亜科 <CHLOEPHORINAE>
100. *Gelastocera exusta* Butler クロオビリング
21. V. 1997, 1♂, 8. IX. 1997, 1♂
101. *Clethrophora distincta* (Leech)
ミドリリング 16. VI. 1996, 1♂
102. *Hylophilodes tsukusensis* Nagano
ツクシアオリング (Fig. 3) 29. V. 1997, 1♀,
18. VII. 1997, 1♂
南方系の種で、*Pasania*属が食樹であるという。

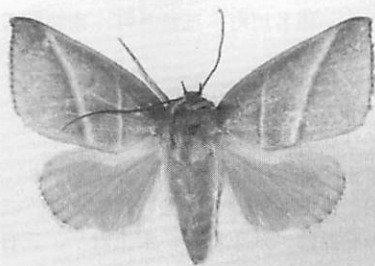


Fig. 3. *Hylophilodes tsukusensis* Nagano
ツクシアオリング

- この採集地ではシリブカガシが自生しており、土着している可能性が高い。県下ではこれまで川西市、上郡町で記録がある。
103. *Pseudoips prasinanus* (Linnaeus)
アオスジアオリング 26. VIII. 1997, 1♂
コヤガ亜科 <ACONTIINAE>
104. *Corgatha argillacea* (Butler)
カバイロシマコヤガ 18. VII. 1997, 1♂
105. *Sophia subrosea* (Butler) ウスベニコヤガ
26. VIII. 1997, 1♀
106. *Sotha ruficeps* (Walker)
テンモンシマコヤガ 6. VI. 1997, 1♀
107. *Micardia pulchra* Butler フタホシコヤガ
29. V. 1997, 1♂
シタバガ亜科 <CATOCALINAE>
108. *Catocala streckeri* Staudinger
アサマキシタバ 29. V. 1997, 5♂ 1♀
109. *Erebus ephesperis* (Hübner) オオトモエ
26. VIII. 1997, 1ex.
110. *Metopta rectifasciata* (Ménétrières)
シロスジトモエ 28. IV. 1997, 1♂
クチバ亜科 <OPHIDERINAE>
111. *Plusiodonta casta* (Butler) マダラエグリバ
21. V. 1997, 1♂
112. *Calyptra gruesa* (Draudt) オオエグリバ
14. VII. 1997, 1♂
113. *Oraesia excavata* (Butler) アカエグリバ
22. VIII. 1997, 1♂, 25. IX. 1997, 1♀
114. *Hypersynoides submarginata* (Walker)
オオシロテンクチバ 8. IX. 1997, 1♂
115. *Blasticorhinus ussuriensis* (Bremer)
コウンモンクチバ 24. VII. 1997, 1♂
116. *Tamba corealis* (Leech)
チョウセンツマキリアツバ 16. VI. 1996, 1♂,
8. IX. 1997, 1♂, 25. IX. 1997, 1♂
117. *Olulis ayumiae* Sugi ウスモイロアツバ
18. VII. 1997, 1♂
118. *Paragona inchoata* (Wileman)
ウスグロセニジモンアツバ 6. VI. 1997, 1♀
119. *Schranksia costaestrigalis* (Stephens)
クロスジヒメアツバ 25. IV. 1996, 1♂
アツバ亜科 <HYPENINAE>
120. *Bomolocha nigrobasalis* Herz
ホシムラサキアツバ 30. IV. 1997, 1♂

クルマアツバ亜科 <HERMINIINAE>

121. *Simplicia niphona* Butler
オオアカマエアツバ 29.V.1997, 1♂
122. *Zanclognatha fumosa* Butler ウスグロアツバ
16.VI.1996, 2♀
123. *Herminia tarsicrinalis* Knoch
トビスジアツバ 6.VI.1997, 1♂
124. *Hipoena fractalis* Guenée
オオシラナミアツバ 24.VII.1997, 1♂

トラガ科 AGARISTIDAE

1. *Maikona jezoensis* Matsumura マイコトラガ
(Fig.4) 18.IV.1996, 1♀
- 早春に発生する種で、兵庫県レッドデータブックのCランクに分類されている。兵庫県は分布の西限域とされ、県下の産地は神戸市と淡路島に限られていた。なお、岡山県瀬戸町(宇野, 1995)でも分布が確認されている。

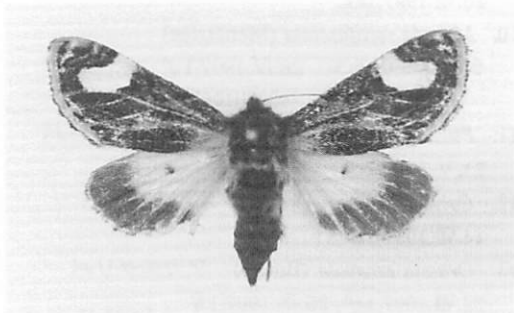


Fig.4. *Maikona jezoensis* Matsumura
マイコトラガ

以上、157種を追加する。ニセオレギエダシャクを削除するので、三濃山山麓、相生市瓜生での蛾の種類数は前回の報告とあわせ、409種となった。なお、夏から秋にかけてと冬期が十分調査できていない。さらに機会があれば調査を行いたい。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

但馬で採集した注目すべき蛾

柴田 剛

1997年4月に豊岡市に単身赴任して以来、自宅のマンションに飛来するものを中心に、但馬地域の蛾の採集を始めた。その中で、これまでに兵庫県下での採集記録の少ない種について報告する。これらの同定を行っていただくとともに、兵庫県下の過去の記録をご教示くださった高島昭氏に厚くお礼申し上げます。

1. *Ilema nachiensis* (Marumo)

ナチキシタドクガ

城崎郡竹野町森本 alt.60m, 19.VIII.1998 1♀
20.VIII.1998 1♀

局地性の強い少ない種(兵庫県版レッドデータブックCランク)で、県下の記録は高島氏により取りまとめられている¹⁾が、神戸市、宝塚市、妙見山、三日月町、出石町、柏原町、北淡町、南淡町となっている。

2. *Xylopolia bella* (Butler)

クロスジキリガ

豊岡市正法寺 alt.10m, 5.IV.1998 1♂

早春に1回出現するキリガの仲間で、比較的県下の記録が少ない。これまでの県下の記録は、川西市²⁾、猪名川町²⁾、上郡町³⁾である。

3. *Catocala hyperconnexa* Sugi

アミメキシタバ

豊岡市正法寺 alt.10m, 25.VIII.1998 1♂

やや局地的な種(兵庫県版レッドデータブックCランク)で、前出の高島氏の報告¹⁾によると、神戸市、宝塚市、猪名川町、三日月町、南淡町の記録がある。

4. *Dysgonia mandschurica* (Staudinger)

タイリクアシブトクチャ

豊岡市正法寺 alt.10m, 16.IX.1998 1♂

全国的に見ても局地性の強い種であり、これまでの県下の記録は、氷上郡⁴⁾、氷上町⁴⁾、三日月町⁵⁾である。

5. *Calyptra lata* (Butler)

キンイロエグリバ

城崎郡竹野町森本 alt.60m, 23.VIII.1998 1 ♀

青森県から兵庫県にかけての主として日本海側の地域と九州の阿蘇で記録があるが、県下の記録は猪名川町⁶⁾、柏原町⁷⁾と少ない。

6. *Hepatica nakatanii* Sugi

ナンキシマアツバ

豊岡市正法寺 alt.10m, 1.VII.1998 1 ♂

暖地性の蛾で、県下の記録は少なく姫路市⁷⁾と南淡町⁸⁾だけである。

<参考文献>

- 1) 高島 昭(1996) 兵庫県版レッドデータブックの蛾 きべりはむし 24(2); 35-44
- 2) 夏秋 優・佐々木 昇(1994) 能勢地方の蛾

(VI) キリガ(その3) Crude 39; 16-25

- 3) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1) きべりはむし 25(1); 31-38
- 4) 山本 義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類(1) きべりはむし 24(2); 1-13
- 5) 川副 昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし 10; 1-10
- 6) 夏秋 優・佐々木 昇(1982) 能勢地方の蛾(1) 上阿古谷・夏の蛾 Crude 23; 1-37
- 7) 高島 昭(1997) 姫路市広嶺山の蛾(1) てんとうむし 11; 65-69
- 8) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊)

(SHIBATA TAKESHI 豊岡市正法寺字堂屋敷425-6)

再度山のキベリハムシの多発生について

山口福男・近藤伸一

キベリハムシが再度山中で局地的に大発生しているのを観察したので報告する。

最初に観察したのは神戸市森林植物園の福本市吉氏で、1997年春から山中のビナンカズラに多数の幼虫が見られ、7月上旬には例年に多く多くの成虫が羽化したとの報告を山口が受けた。この年は確認の機会がなくてそのままになっていたが、今年(1998)6月に福本氏から幼虫が異常な程に大発生していることを知らされた。そこで成虫の羽化期を待って7月1日に福本氏の案内で山口が1回目の現地調査を行った。2回目は5日に山口と近藤と2人がかりで、3回目は7日に近藤が調査した。

1回目の調査結果は、成虫数が多すぎて到底数えきれないと判断し、一番簡単な推計方法で生息数を求めた。キベリハムシの成虫はビナンカズラの藪のどの部分を見ても同程度の数で、昆虫学の教科書に書いてあるようなポアソン分布とか負の二項分布ではなく、平凡な均一分布と見えた。そこで一部分の生息数を数えて全体を推測することにした。さてビナンカズラの藪は、横幅約4.5メートル、高さ約3メートル、厚みは2メートルであった。藪の片面、横幅約50センチメートル、手の届く高さまでの範

囲で個体を採り、捕虫網に投げ入れて数えた。総数54であったので、単純に18倍して972の数値を得た。

2回目は藪の下に白色のビニールシートを敷いて、片面全域で叩き落とし法で落下させ、落ちた成虫を数えながら一匹も残さないようにポリ袋に収容した。463匹採集したが調査しなかった面にも同数いたとして2倍し、総数を926と算出した。調査後全ての成虫をもとにもどしたが、このうち200匹の前ばねに白いエナメルでマークしておいた。

3回目は見取り法で、前ばねの見える固体を数え白いマークの有無を確認した。64匹のなかにマークのあったのは6匹であった。この数値から計算された成虫数は2,033となった。

3回の調査の結果は、直接数えた場合1回目と2回目は大差なく900匹あまりの計算値であったが、マーク法では2,000となり倍以上の数値を示した。

昆虫の密度調査ではこれくらいの差はよくあることであるが、ことがキベリハムシなるが故に実数をもっと絞ってみたいのがマニアの人情であろう。成虫の行動は鈍重で、人の気配で葉裏にかくれることはなく、振動で落下するが飛び立つことはない。また成虫はビナンカズラの葉を新旧の差なく摂食する

ので、幼虫のように若い葉に集中することはない。真夏の強烈な直射日光下ではかくれることもあるが、普段は葉の表にいる。このようなことから生息数を知る方法として直接数えることにし、2回の調査でほぼ同数の数値を得た。したがって直接数える方法の正確度はかなり高いと考えた。

つぎにマーク法を採用したのは成虫の発生が年1回で羽化期が比較的一斉であること、寿命が1月以上とながいこと、移動が少ないことなど、条件が整っていることから割合に簡単な計算で密度推定が可能とみたからであった。

どちらも自信たっぷりの数値であるが、今一度ビナンカズラの藪での生息状況を振り返ってみて気掛かりなことがあった。地面近くの葉は食い尽くされ、目の高さの葉もかなり食害されていたが、頂上部分は残されていた。成虫は葉の表面にいることが多いので下から見上げても見つからない。餌となる葉の多く残されていた樹冠部を直接法では見過ごしていた。このように考えればマーク法で得られた2,000匹が実数に近いのではなかろうか。

この調査が7月上旬で早すぎではないかと思われるかも知れないが、1998年の夏の到来が早く、多くの動植物の生育が促進されていたので、本種も羽化が例年よりかなり早いと予測していた。7月1日には成虫の死体を数個体見たことから、羽化の最盛期が到来していると判断して調査を実施した。

これまでに本種が多発したことがあるだろうかとか高橋寿郎氏のキベリハムシに関する文献目録を探したら、横山光男氏が1937年に報告していた。高橋氏の添え書きに、六甲山で一人で二百数十採集したという記録、本文は後に表現がオーバーであると指摘されたが、その当時多くいたことは事実であると書いておられる。今回の多発を見た現在では決してオーバーとは思わないが、キベリハムシを求めて六甲山をさまよった経験の持ち主ならば一度に二百匹はとても信じられる数ではなかったのは無理からぬことであった。高橋氏はさらに本誌第25巻2号に“キベリハムシが初めて日本に記録されたころの思い出”と題して寄稿され、そのなかに上記のことがもう少し詳しく、多発現象は六甲山の全域に及び、とくに鳥原水源地や東六甲で多産したと述べておられる。これらの記録から昭和12年に多発のピークが訪れたことが推察される。

日本に侵入した昆虫の多くは、爆発的な多発と急

速な分布拡大があった。しかし本種はこれまで激発することも、急速な分布の拡大もなかったのも、活力に乏しい例外的侵入昆虫と考えられてきた。

今回の本種が多発現象は、害虫にリストアップされているハムシ類の激発現象と類似点が多く、条件が整えば爆発的な大発生の可能性を示している。今回私たちが見た多発は、再度山の局地的なものなのか、以前のように六甲山の全域にわたる現象なのかは確認できないが、決して活力に乏しい種類ではないことだけは言えよう。なお前回の多発生は1937年を最後にして翌年には劇的とも言える急速な密度減少がおきている。高橋氏は1938年7月の阪神大被害を原因とされているが、私たちは増えすぎた動物に共通な密度の崩壊現象と見ている。今後再度山のキベリハムシがどのような経過をたどるのか観察を続けるつもりである。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)

(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡 619-57)

高取山にメスアカムラサキが飛来 山口福男

神戸市内で久しぶりにメスアカムラサキが観察されたので報告する。

1998年8月に笹倉 智氏から写真撮影された昆虫の同定を求められたが、その中に20枚以上ものメスアカムラサキの姿があった。すべて同一の個体で新鮮なオスであった。笹倉氏によると撮影地は高取山の山頂付近(神戸市長田区高取町一須磨区妙法寺の境界付近)で、1998年7月30日から8月4日まで連日観察出来たそうである。

笹倉氏はバードウォッチャーで昆虫マニアなかったことが幸いして、この個体が同一場所に6日も滞留していることが観察出来た。私などであればたどころに捕まえて標本にしてしまったであろう。今回のメスであれば二次発生の可能性が考えられるところであった。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神の谷3丁目6-4)

六甲山系布引公園および鉢伏山のキリガ類相

八木 剛

1. はじめに

ヤガ科ヨトウガ亜科の早春に出現する種群およびセダカモクメ亜科の晩秋に出現する種群は、和名の語尾から俗にキリガと称されている。いずれの種もやわらかな体毛に覆われていて落ちついた美しさを備えており、種数が手頃であること、適度に得難い種が多いことなども伴って、蛾の愛好家の間では人気が高い。

キリガ類を分類学的に定義することにはかなり無理があるが、落葉樹が葉を落とす期間に成虫が現れること、年1化の生活史で新葉の展開期に幼虫が生育することなど、彼らの生活史には共通点が多い。ゼフィルスやハナカミキリのようなものである。

また、植生の変化に応じて種の構成が変化すること、糖蜜採集で効率的に採集できることは、キリガ類が単に収集の対象としてだけでなく、環境評価のための指標昆虫として利用できる可能性をも示唆している。このような視点からキリガ類相を扱った研究はほとんどなかったが、最近YAMAZAKI(1998)は、ゼフィルス類が(近年特に雑木林の保全や環境評価の材料として)よく研究されているのに対し種数、個体数とも豊富なキリガ類は見落とされがちであると指摘し、キリガ類と同様に早春に出現するトガリバガ科の一部を対象に京都市内の二次林で3年間糖蜜採集を行い、種構成を比較してキリガ類の環境指

標性を論じた。

本報文は、布引公園と鉢伏山の2ヶ所におけるキリガ類の採集記録を報告することを主目的としているが、他の調査地のデータも交えた両地点間のキリガ類相の比較や、その手順についての検討も試みる。

2. 調査地と方法

調査地は、神戸市中央区布引公園(標高約150m)、神戸市須磨区鉢伏山(標高約240m)である(図1)。調査はすべて糖蜜採集によって行った。布引公園での糖蜜採集の調査地は、だるま地藏尊、展望台付近からみはらし台に至る南北方向の約300mの区間で(図2)、地形は南北方向のなだらかな尾根となってい

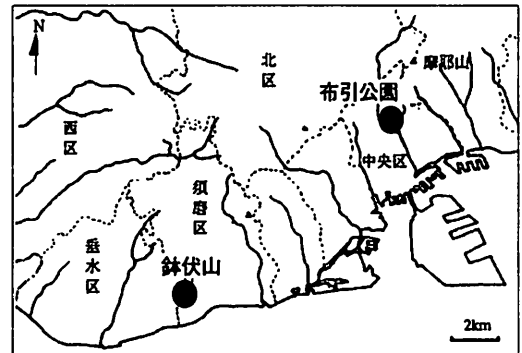


図1. 布引公園および鉢伏山の位置

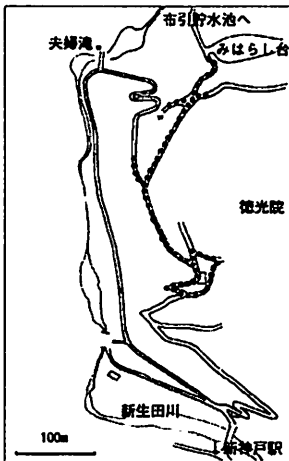


図2. 布引公園における糖蜜採集の調査区域

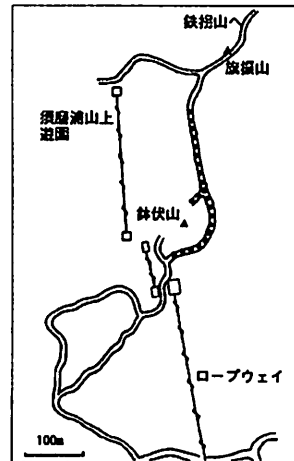


図3. 鉢伏山における糖蜜採集の調査区域

る。鉢伏山では、鉢伏山上広場を東側に巻く遊歩道から旗振山、須磨浦山上遊園方面への尾根道にかけての約300mの区間である(図3)。

糖蜜採集では、黒砂糖にビールや果汁入り飲料、酢などを配合した糖蜜を化粧用カット綿(約4cm×6cm)に浸し、日没直前に調査地の歩道沿いの樹木の胸高程度の位置に5mほどの間隔で貼り付け、日没直後から2時間程度、3、4回の巡回を行い、飛来した蛾を採集した。当日の天候はもちろん、糖蜜の内容、調査区間での設置個数などの諸条件は、一定したものではない。

調査日は1983年から1990年にかけての晩秋および早春で、布引公園では1983年3月12日、3月25日、3月30日、4月8日、1984年3月26日、1985年3月16日、1988年11月17日、1989年11月10日、11月17日、11月24日の10回、鉢伏山では1989年12月1日、12月8日、12月15日、12月26日、1990年2月21日の5回である。

3. 調査結果と採集データ

布引公園からは33種173頭、鉢伏山からは25種364頭が採集され、合計35種537頭であった。これらのうちヨトウガ亜科は7種41頭で、布引公園から7種28頭が、鉢伏山から3種13頭が記録された。セダカモクメ亜科は28種496頭で、布引公園では25種145頭、鉢伏山では22種351頭であった。ここに布引公園での目撃による記録3種を含めると、全体として38種のキリガ類がこの地域から記録されたことになる。

これらの記録の証拠標本の大半は兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されているが、布引公園のものが一部大阪市立自然史博物館に収蔵されている。所検標本と目撃記録のデータは以下の通りで、特にことわりのないものはすべて糖蜜採集による記録である。目撃記録の中には、確実に標本化されたが1998年5月現在行方不明となっているものも含まれている。個体数が未記載の目撃記録はノートに種名のみが記録されていた場合である。採集者名は省略した。大半は筆者であるが、鉢伏山の標本については一部謝辞に記した方々の採集標本を含んでいる。?印を付したものは、*Conistra*属の一部の種の損傷の激しいメス個体で、種の同定が困難なものである。学名は杉(1982)および杉編(1994)に従った。

1. *Clavipalpura aurariae* キンイロキリガ
布引公園. 1982 iv. 1, 1ex. (目撃)
2. *Perigrapha hoenei* スギタニキリガ
布引公園. 1985 iii.16, 1ex. (目撃)
3. *Orthosia evanida* カバキリガ
布引公園. 1985 iii.16, 1♂
4. *Orthosia paromoea* ブナキリガ
布引公園. 1985 iii.16, 3♂1♀
5. *Orthosia angustipennis* ホソバキリガ
布引公園. 1985 iii.16, 5♂
鉢伏山. 1990 ii.21, 4♂2♀
6. *Orthosia fausta* クロテンキリガ
布引公園. 1983 iii.12, 4♂; 1983 iii.25, 1♂; 1983 iii.30, 1♀; 1985 iii.16, 3♂
鉢伏山. 1990 ii.21, 1♂1♀
7. *Orthosia limbata* シロヘリキリガ
布引公園. 1985 iii.16, 2♂
8. *Orthosia munda* スモモキリガ
布引公園. 1983 iii.12, 2♂; 1983 iv.8, 1♂; 1985 iii.16, 1♂2♀
鉢伏山. 1990 ii.21, 5♂
9. *Orthosia gothica* カシワキリガ
布引公園. 1983 iii.25, (目撃); 1983 iii.30, (目撃); 1985 iii.16, 1ex., (目撃)
10. *Orthosia carnipennis* アカバキリガ
新神戸駅. 1983 iv.8, 1♂(灯火)
11. *Daseochaeta viridis* ケンモンミドリキリガ
布引公園. 1988 xi.17, 1♂; 1989 xi.10, 1♂
12. *Dryobotodes intermissa* ナカオビキリガ
布引公園. 1988 xi.17, 1♂2♀; 1989 xi.24, 1♀
鉢伏山. 1989 xii.1, 1♀
13. *Dryobotodes angusta* ホソバオビキリガ
鉢伏山. 1989 xii.26, 2♂
14. *Xylota nihonica* ハネナガモクメキリガ
布引公園. 1983 iii.12, 1♀; 1988 xi.17, 1♂4♀
鉢伏山. 1989 xii.1, 22♂2♀; 1989 xii.8, 1♂2♀; 1989 xii.15, 12♂1♀; 1990 ii.21, 1♂1♀
15. *Xylota formosa* キバラモクメキリガ
布引公園. 1983 iii.12, 4♂3♀; 1989 xi.10, 1♂; 1989 xi.17, 1♂1♀; 1989 xi.24, 1♀
鉢伏山. 1989 xii.1, 13♂15♀; 1989 xii.8, 1♀; 1989 xii.15, 3♂4♀; 1990 ii.21, 1♂1♀
16. *Lithophane ustulata* ハンノキリガ
布引公園. 1983 iii.12, 1♂1♀; 1983 iii.25, 1♀;

1983 iii.30, 1♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 5♀; 1990 ii.21, 7♂1♀

17. *Lithophane pruinosa* カシワキボシキリガ

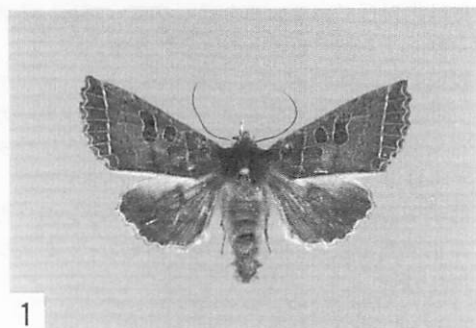
布引公園. 1985 iii.16, 1♀

鉢伏山. 1989 xii.15, 1♂; 1990 ii.21, 2♂1♀

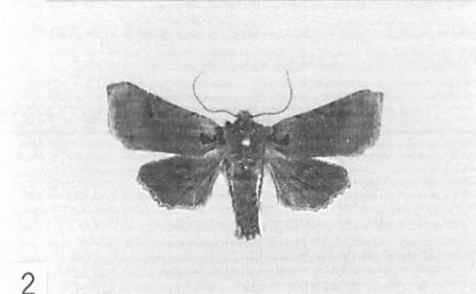
18. *Elwesia sugii* サヌキキリガ (図4-1)

布引公園. 1988 xi.17, 1♀

鉢伏山. 1989 xii.8, 1♂



1



2

図4. 1. *Elwesia sugii* サヌキキリガ ♀, 布引公園.
1988 xi.17

2. *Mesorhynchaglaea pacifica* ヤクシマキリガ ♂,
鉢伏山. 1989 xii.8

19. *Eupsilia tripunctata* ミツボシキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 2♀

20. *Eupsilia quadrilinea* ヨスジノコメキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 1♀; 1983 iii.25, 1♂; 1983

iii.30, 2♀; 1985 iii.16, 1♂; 1988 xi.17, 1♀;

1989 xi.24, 1♀

鉢伏山. 1989 x.20, 1♀; 1989 xii.1, 1♂2♀; 1989

xii.15, 1♂4♀; 1990 ii.21, 2♂3♀

21. *Eupsilia contracta* ウスミモンキリガ

新神戸駅. 1983 iv.8, 1♀(灯火)

22. *Rhynchaglaea scitula* チャマダラキリガ

布引公園. 1983 iii.25, 1♀; 1983 iii.30, 1♂1♀;

1985 iii.16, 1♂; 1988 xi.17, 1♂; 1989 xi.24,
1♂1♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 6♂; 1989 xii.1, 6♂7♀; 1989

xii.15, 2♂1♀; 1989 xii.8, 1♂; 1990 ii.21, 3♂

3♀

23. *Rhynchaglaea fuscipennis* クロチャマダラキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 1♂3♀; 1983 iii.25, 1♂;

1983 iv.8, 1♀; 1984 iii.26, 1♂1♀; 1989 xi.24,

1♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 2♂3♀; 1989 xii.15, 2♀;

1990 ii.21, 11♂4♀

24. *Mesorhynchaglaea pacifica* ヤクシマキリガ

(図4-2)

新神戸駅. 1983 iii.25, 1♀(灯火)

鉢伏山. 1989 xii.8, 2♂; 1989 xii.15, 1♂; 1989

xii.26, 3♂1♀; 1990 ii.21, 16♂24♀

25. *Sugitania lepida* スギタニモンキリガ

布引公園. 1988 xi.17, 9♂7♀; 1989 xi.10, 2♂;

1989 xi.10, 3♂2♀; 1989 xi.17, 2♂2♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 3♂1♀; 1989 xii.8, 1♀; 1989

xii.15, 1♀

26. *Agrochola evelina* フサヒゲオビキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 1♀; 1983 iii.25, 2♀; 1983

iii.30, 2♀; 1985 iii.16, 1♀; 1988 xi.17, 1♂;

1989 xi.10, 1♂1♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 3♂; 1989 xii.15, 1♂; 1989

xii.26, 1♀; 1990 ii.21, 2♂1♀

27. *Conistra ardescens* カシワオビキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 2♂1♀

鉢伏山. 1989 xii.8, 2♀; 1989 xii.26, 1♂1♀;

1990 ii.21, 6♂2♀

28. *Conistra grisescens* ミヤマオビキリガ

布引公園. 1985 iii.16, 1♂

鉢伏山. 1989 xii.15, 1♀(?)

29. *Conistra fletcheri* テンスジキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 1♀(?); 1983 iii.12, 2♂1♀

; 1983 iii.25, 1♂; 1983 iii.30, 1♂

鉢伏山. 1990 ii.21, 1♂

30. *Conistra albipuncta* ホシオビキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 8♂1♀; 1983 iii.30, 1♂

鉢伏山. 1989 xii.1, 2♀; 1989 xii.8, 3♂2♀; 1989

xii.15, 1♂5♀; 1990 ii.21, 15♂18♀

31. *Conistra nawae* ナワキリガ

布引公園. 1983 iii.25, 3♂; 1983 iii.30, 2♂; 1985

iii.16, 3♂5♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 2♀; 1989 xii.8, 5♂5♀; 1989 xii.15, 3♂3♀; 1989 xii.26, 1♀; 1990 ii.21, 3♂5♀

32. *Dasyampa castaneofasciata* ゴマダラキリガ

布引公園. 1985 iii.16, 1♀

鉢伏山. 1989 xii.26, 1♂; 1990 ii.21, 1♀

33. *Jodia sericea* ミスジキリガ

布引公園. 1983 iii.12, 1♂1♀; 1983 iii.30, 3♀; 1985 iii.16, 1♂; 1989 xi.24, 1♂

34. *Telorta edentata* キトガリキリガ

布引公園. 1989 xi.10, 1♂2♀

鉢伏山. 1989 xii.1, 1♂1♀; 1989 xii.15, 1♀

35. *Telorta divergens* ノコメトガリキリガ

布引公園. 1989 xi.17, 1♂1♀; 1989 xi.24, 2♂

鉢伏山. 1989 xii.1, 3♂9♀; 1989 xii.15, 6♂7♀; 1989 xii.26, 2♂1♀

36. *Antivaleria viridimacula* アオバハガタヨトウ

鉢伏山. 1989 xii.1, 3♀; 1989 xii.8, 1♀

37. *Nycticia hoenei* ヘーネアオハガタヨトウ

布引公園. 1988 xi.17, 2♂

38. *Meganephria funesta* ホソバハガタヨトウ

布引公園. 1988 xi.17, 1♂; 1989 xi.24, 1♂

4. 若干の考察—キリガ類相の環境指標性について

1) 布引公園と鉢伏山のキリガ類相の比較

布引公園では36種のキリガ類が記録されたのに対し鉢伏山では25種であった。この11種の差の多くの部分は、鉢伏山の春期の調査が手薄なことによるデータ不足から生じたものである。鉢伏山では2月下旬の1回しか春期の調査を行っていないため、ヨトウガ亜科のキリガの中でも発生早い種しか記録できていない。晩秋に羽化するセダカモクメ亜科だけで比較してみると、布引公園が25種に対し鉢伏山は22種で、それほどの差はなく、合計28種のうちの20種までが両者に共通に見られた。

これをもって両者のキリガ類相はよく似ているといえるのだろうか、それともずいぶん違うといえるのだろうか？

それを検討するためには、ここに第三のデータを加えて比較してみる必要がある。比較に耐えるデータはほとんどないのだが、大阪府東大阪市の枚岡公園(標高約200m)でのデータ(八木、未発表)と京都市左京区の大文字山と瓜生山とを合わせたデータ

(YAMAZAKI, 1998による。以下便宜的にこのデータを大文字山と称する)を利用してみる。これらを総合し、大文字山でデータのないセダカモクメ亜科の非越冬種を除き、鉢伏山でデータのない早春性の種も除いたデータセットが表1である。

表1をもとにこれら4地域のキリガ類相の類縁性を検討する。

表から複数の地点にまたがって記録され、かつすべてには出現していない種をピックアップし、その分布パターンを調べると次のようになる。

- 枚岡公園以外の3ヶ所に出現するもの…クロテンキリガ、ハネナガモクメキリガ、ナワキリガ
- 布引公園と鉢伏山だけに出現するもの…サヌキキリガ、ヤクシマキリガ、ゴマダラキリガ
- 鉢伏山以外に出現するもの…ミツボシキリガ
- 布引公園と枚岡公園に出現するもの…ミスジキリガ

表1. 布引公園、鉢伏山、枚岡公園*、大文字山**のキリガ類相

早春に出現する種の一部、非越冬性の種を除く。本文参照。

(*八木、未発表、**YAMAZAKI, 1998による)

和名	布引	鉢伏	枚岡	大文字
ホソバキリガ	○	○	○	○
クロテンキリガ	○	○		○
スモモキリガ	○	○	○	○
ハネナガモクメキリガ	○	○		○
キバラモクメキリガ	○	○	○	○
ハンノキリガ	○	○	○	○
カシワキボシキリガ	○	○	○	○
サヌキキリガ	○	○		
ミツボシキリガ	○		○	○
ヨスジノコメキリガ	○	○	○	○
ウスミミモンキリガ	○			
チャマダラキリガ	○	○	○	○
クロチャマダラキリガ	○	○	○	○
ヤクシマキリガ	○	○		
フサヒゲオビキリガ	○	○	○	○
カシワオビキリガ	○	○	○	○
ミヤマオビキリガ	○	○	○	○
テンスジキリガ	○	○	○	○
ホシオビキリガ	○	○	○	○
ナワキリガ	○	○		○
ゴマダラキリガ	○	○		
ミスジキリガ	○		○	

aのパターン、すなわち枚岡公園以外の3地域に共通に分布するパターンには、3種もが含まれている。このことから、それら3地域のキリガ類相の類縁性が枚岡公園を含んだ他の組み合わせに比べて高いことがうかがわれる。次に、bのパターンを見ると、そこには2種が含まれ、aによってグルーピングされる枚岡公園以外の3地域の中では、布引公園と鉢伏山の類縁性が最も高いと判断できる。

以上のことから、布引公園と鉢伏山のキリガ類相が最も類縁性が高く、その両者は次に大文字山と類縁性が高いということがいえるだろう。これを図示すると図5のようになる。

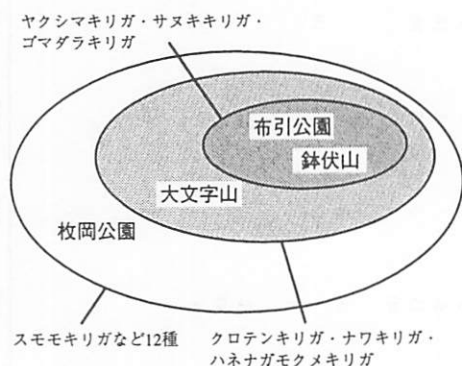


図5. キリガ類相にもとづく4地域の「類縁関係」表1をもとに作成

では、布引公園と鉢伏山のキリガ類相は同じといえるのだろうか。

これを検討するためには、個体数を含めたデータも取り入れて再度比較してみることが必要であろう。表2は、糖蜜への実際の飛来数をよく反映していると思われる一部の調査日のデータを抜粋して示したものである。布引公園の1985年3月16日のデータと枚岡公園の1985年3月24日、同じく同年3月28日のデータは、糖蜜採集の巡回時に飛来したすべての種とその個体数を現場でフィールドノートに記録したもので、実際の飛来数をほぼそのまま反映している。その他は標本から読みとったデータである。比較的もれなく採集を行った日を選定して示してあるが、多少は採集個体の選別を行っているため表の個体数は必ずしも実際の飛来数を反映したものではない。

これを見てみると、地域によって種は共通していても飛来個体数にかなりの変化があることがわかる。ヤクシマキリガは鉢伏山で多数得られるにもかかわらず、

布引公園では記録されていない(新神戸駅の灯火による記録のみ)。また、ハネナガモクメキリガも、布引公園では鉢伏山ほど多産しない。ホソバオビキリガやアオバハガタヨトウは鉢伏山だけの記録で、逆にヘーネアオハガタヨトウやホソバハガタヨトウは今のところ布引公園だけの記録である。やはり、両地域のキリガ類の種構成にはかなりの相違があるともいえよう。

布引公園と鉢伏山のキリガ類相は、「よく似ているがやっぱり違う」のである。他の地域を含めて大局的に見た場合には、同じグループとしてまとめられ、よく似ているといえる。一方、じっくり突き合わせて中身を比較すると、その差異はかなりはっきりしているのである。

昆虫を分類する場合、たとえばトゲや毛の有無で区別できると思っていた種が、サンプルが増えるにつれ、わずかにトゲのあるものや毛のあるものなどが現れて判断に苦しむ、というのはよくある話である。このような場合には、諸形質を計測し多変量解析などで判別の可能性を探ったり、分子レベルに活路を求めたりするのが分類学の定番の方針である。今回の例のような生物群集の比較あるいは環境評価も、基本的な手法は分類と同じである(八木、1996を参照)。かなり大きなレベル(分類の階層という意味。地理的な広さのスケールにある程度運動)の場合には種の有無で比較ができ、さらに小さなレベルでは個体数などのデータを考慮して比較分類を行うのがよい手順である。YAMAZAKI(1998)が個体数データを重視してキリガ類の環境指標性を論じているのは、同じ山塊のごく近いところでのデータに基づいているゆえであろう。

2) 植生との関連

ところで、服部ら(1997)の植生図(縮尺1:25,000)によると、布引公園と鉢伏山は、ともにアラカシ群落に区分されている。それに対し枚岡公園はヤブムラサキコナラ群落とされている(環境庁、1981; 縮尺1:50,000)。YAMAZAKI(1998)によると、大文字山の調査地点の植生は、かなり照葉樹林化が進行した地域から、コナラなどが主体の落葉樹林まで含まれている(もちろん、彼はわざわざそのような地点を選んで調査しているのである)。

構成種による厳密な比較はしていないが、これら4地域の植生の類似性は、キリガ類群集の種構成の

表2. 布引公園、鉢伏山、牧岡公園*、大文字山**のキリガ類群集の組成例

※ 集落の飛来数をよく反映していると思われるデータを抜粋して表示。ゴシックで示したデータは現地では記録したもの。本文参照。URL、URUはそれぞれ瓜生山の下方と上方、DAMIは大文字山の中程 (*八木,未発表、**YAMAZAKI, 1998による)

	布引公園		布引公園		鉢伏山		鉢伏山		鉢岡公園		鉢岡公園		URL93年		URL94年		DAM93年	
	1983 iii.12	1985 iii.16	1985 xi.17	1989 xii.1	1989 xii.15	1990 ii.21	1985 iii.24	1985 iii.28	2回計	4回計	3回計	1	6	1	9	1	9	3回計
スギタニキリガ	1											1	6					
カバキリガ		5										14	8					
フナキリガ		6										55	30		5			
ホソバキリガ		32					6					7	3		9			
クロデキリガ	4					2									2		1	
ヨモギキリガ		15										1						
シロヘリキリガ	2						5					31	30		3			
スモモキリガ		58										39	20		25		8	
チャイロキリガ												2	1					
カシワキリガ	1											4	1					
アカバキリガ													4					
ケンモンミドリキリガ			1															
ナカオビキリガ		4		1														
ハネナガモクメキリガ	1		5	23	13	2									1			
キバラモクメキリガ	7		2	28	7	2						3	3		1			
ハンノキキリガ	2			5		8						9	9				3	
カシワキボシキリガ					1	3						5	3		2			
サヌキキリガ			1															
ミツボシキリガ	2																	
ヨスジノコメキリガ	1	2	1	3	5	5							1	4	4		2	
チヤマダラキリガ	2	2	1	19	3	6							1	16	9	4		
クロチャヤマダラキリガ	4	4		5	2	15						3	6	76	67		39	
ヤクシマキリガ					1	40												
スギタニモクメキリガ	4	1	20	4	1													
フサヒゲオビキリガ	1	5	1	3	1	3						3	19		17		16	
Conistra spp.		55										51	56	19				
カシワオビキリガ	3					8									18		1	
ミヤマオビキリガ					1										4			
テンスジキリガ	4					1									31		11	
ホシオビキリガ	9			2	6	33									21		3	
ナワキリガ				2	6	8								2	14		14	
ゴマダラキリガ						1												
ミスジキリガ	2	2										5	14					
キトガリキリガ				2	1													
ノコメトガリキリガ			2	12	13													
アオバハガタヨトウ				3														
ヘーネアオハガタヨトウ			2															
ホソバハガタヨトウ			1															
個体数	46	196	41	112	61	148	227	215	117	234	111							

比較から導かれた上記4地点の類縁性と矛盾しないだろう。4地点の類縁性を示す図5はキリガ類相を材料に作成されたものであるが、それぞれの地点の位置関係はおそらく植物相を材料に作成した場合でも変化しそうにないと思えるのである。このような場合、キリガ類相と植生との間に相関関係があると考えるのが自然だろう。

布引公園と鉢伏山のキリガ類相の相違は、さらに下位のレベルの植生の相違に還元されるだろう。植生図では布引公園、鉢伏山ともにアラカシ群落に区別されているが、細かく見ると、両地域の植物相には素人目にもかなりの相違がうかがえる。布引公園は全域でアラカシを主体とした常緑樹が卓越しているが、鉢伏山の調査地の尾根筋ではむしろコナラやアベマキ、ウラジロノキなどの落葉広葉樹が多く見られ、ヤクシマキリガの食樹であるウバメガシも多い。もう少し両地域での調査地点を増やし、個体数などの量的な分析を取り入れれば、キリガ類群集と植生とのより細かいレベルでの相関が明らかになるだろう。

3) 環境指標種の設定

もし環境指標種(indicator)という言葉を使うのであれば、クロテンキリガ、ハネナガモクメキリガ、ナワキリガは前述のパターンaで定義づけられた地域を特徴づける(多分に照葉樹林の)指標種ということになるのであろう。さらに、サヌキキリガとヤクシマキリガは其中でもウバメガシ林ということになるのかもしれない。サヌキキリガの食草は不明であるが、これらの設定は、ナワキリガは常緑カシ類、ヤクシマキリガはウバメガシ林に固有とした杉(1982)にも矛盾しない。YAMAZAKI(1998)は、ヤナギで幼虫を発見した例も挙げてナワキリガは必ずしも照葉樹林性の種ではないとしているが、それは大文字山と瓜生山という隣接した地域での小さなスケールでの話で、今回扱った4地点のようにもっと大きなレベル(高位の植生単位)で見れば、ナワキリガは十分指標種となるのである。ものさしは、測る対象に応じて取り替えることが必要である。

いずれにしても環境指標種というのは決定論的なものではなく、このような生物相による地域の分類の結果として経験的に明らかにされてくるものである(そういう意味では用語を変えたいいかもしれない)。

5. 環境指標昆虫としてのキリガ類の特性

キリガ類を環境評価の材料に摘要するにあたって考えられるいくつかの長所と短所を挙げておこう。

まず、キリガ類群集の種構成は植生などの環境によって顕著に変化するが、これは環境評価の材料として考えたときに不可欠な要素である。他の長所としては、調査の際に採集もれが少ないことが挙げられる。多くの昆虫の場合、そこにいるものを確実に捕捉するためには相当なエネルギーを要するが、糖蜜採集は、偶然性に頼らざるを得ない灯火採集などに比べると捕捉効率が格段に優れていると思われる。また、同定が容易で一部を除き現地で同定が可能であること、種数が手頃であること、発生期が限定されしかも他の昆虫と重複しないことなども長所として挙げられよう。

一方、最大の短所は、糖蜜採集でさえ成果は天候に大きく左右されることである。晩秋や早春は気温の変化が激しく、それによって結果に大きく差が生じる。3月の場合、日没直後の気温が10℃を越えるような暖かい日には大飛来となるが、低温であったり、雨上がりであったりすると、成果は限りなくゼロに近くなる。YAMAZAKI(1998)は天候と飛来数の関係についても調査し、開始時の気温が7度以上、終了時の気温が6度以上の条件を奨めている。また、種によって微妙に発生のピークが異なり、1週間程度のズレでも個体数の増減は激しい。このことも個体数データの比較が要求されるときには短所となる。鉢伏山のデータによると、ヤクシマキリガは晩秋に出現しているものの、活動のピークはむしろ年明けとなるようであるし、ハネナガモクメキリガはむしろ逆の傾向がある。

6. 今後の課題など

両地域のキリガ類相の把握のためには、布引公園では晩秋の、鉢伏山では早春の調査がさらに必要である。糖蜜にほとんど飛来しない種もあることから、ファウナの把握のためには、アセビやキブシへの訪花個体の採集(糖蜜にほとんど来ないクロミミキリガやチャイロキリガがたくさん採れる)、灯火採集も必要であろう。今回記録できなかったが今後発見される可能性の濃厚な種としては、クロスジキリガ、ケンモンキリガ、マツキリガ、クロミミキリガ、チャイロキリガ(以上ヨトウガ亜科)、ブライヤオビキリガ、キマエキリガ、イチゴキリガ、ウスキトガリ

キリガ、ヒマラヤハガタヨトウ、オオハガタヨトウ、ミドリハガタヨトウ(以上セダカモクメ亜科)がある。最終的には、両地域を合わせると50種近くが記録されるものと思われる。

環境評価への利用価値を高めるためには、さらに多くの地点、シーズンにおいて糖蜜採集を繰り返してデータを蓄積する必要がある。そして、少なくとも、飛来したすべての種を記録し(言い換えれば、種をもれなく押さえておくだけでも、環境との関係をそこそこ論ずることができるということである)、理想的には全個体を採集することが望ましい。このような調査を各地で実施しデータを蓄積してゆけば、キリガ類の分布パターンや発生期が明らかになり、ゼフィルスや他の昆虫に負けず劣らず、環境評価の指標分類群としての利用価値はいっそう高まるであろう。

そうは言っても、年末や年度末のクソ忙しいときに「会社帰りに糖蜜採集」は簡単ではない。ちなみに、以前私は、何とか案をして効率的に採れないかと思い、バタフライトラップのようなものをこしらえたことがあったが、まったく話にならなかった。不思議なことだが、人工物に貼りつけた糖蜜にはキリガはほとんど集まってくれないのである。やはり、天気のよい日を選んでコツコツと積み重ねるしかないさそうである。

謝辞

現地調査にご協力いただいた杉浦直人、園田光市、森川恒光、森谷正之、堀江寿彦の各氏、標本の閲覧の際にお世話になった大阪市立自然史博物館の金沢至学芸員に、この場を借りてお礼申し上げる。なお、本調査の一部は、兵庫県立人と自然の博物館の自然環境情報調査の一環として実施されたものである。

<引用文献>

- 服部 保・武田義明・赤松弘治・島ゆかり, 1997. 六甲山系現存植生図.兵庫県六甲治山事務所.
環境庁, 1981. 大阪府現存植生図. 第2回自然環境保全基礎調査(植生調査). 環境庁.
杉 繁郎, 1982. ヤガ科. 日本産蛾類大図鑑. 講談社.
杉 繁郎, 1994. Post-MJ Edition 1, 日本産蛾類大図鑑以後の追加種と学名の変更. 日本蛾類学会.
八木 剛, 1996. ゲンゴロウのすむ環境とは? — 「生物による環境評価」再考. 昆虫と自然31(6):

9-12.

YAMAZAKI, K., 1998. Communities of Early Spring Noctuid and Thyatirid Moths (Lepidoptera) Molas- ses-trapped in Secondary Forests. Entomological Science 1(2): 171-178.

(YAGI TSUYOSHI 三田市弥生が丘6

兵庫県立人と自然の博物館系統分類研究部)

燈火に飛来したウラクロシジミ 高島 昭

筆者は、1998年春から氷ノ山南麓の波賀町坂の谷林道で蛾を目的とした夜間採集を行っているが、蛾以外にもいろんな昆虫が飛来する。また、飛来する昆虫を狙ってカエルやヤモリもやってくる。クロヒカゲやコミスジなどのチョウも時折姿を見せるが、それに混じってウラクロシジミも飛来した。本種の燈火への飛来例はあまりないと思うので報告しておく。

ウラクロシジミ 1♀ 26.VI.1998 P.M8:30頃

波賀町坂の谷 alt.800m付近

光源には20W蛍光灯 2本(昼光色及び青色)とブラックライト 1本を併用していた。採集地は溪流沿いの林道で、付近には本種の食樹であるマンサクも多く、本来の生息地であると思われる。

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

県 関 係 文 献 紹 介

○ 北摂の昆虫(2)

大阪昆虫同好会30周年記念出版 B5, 144p. (1998)

素晴らしい出来である。標題にあるごとく大阪昆虫同好会30周年記念出版物である。カラー12p. を含む144p. 表題は昆虫となっているが全篇蝶の記録である。副題に能勢町深山とその周辺地域となっているが兵庫県に属する地域も含まれている。蝶を調べる人にとっては大変貴重な文献になると思われる。

大阪昆虫同好会では、1981年「北摂の昆虫(1)蝶類」、1989年に「北摂の蝶」と出版、今回は調査地域をやや拡大するとともに注目すべき蝶40種についての生態、生息環境、記録などをまとめられていて、その努力の程に全く敬服する。蝶屋でなくとも思わず注目される貴重な文献である。 (T).

○ 青木典司 神戸のトンボ

新・神戸の自然シリーズ A5, 155p. 1998.

神戸スポーツ教育社刊。

ほぼフルカラーで神戸の街とトンボと題して神戸に見られるトンボをカラーで詳しく説明、神戸で見られなくなったトンボの解説もある。さらにトンボの一生のすがたとかトンボの名前を調べようといった項目にわかりやすいトンボについての解説は貴重である。

かつて神戸の自然シリーズというのが同じような形式で出版された(筆者の手許には1~21, 1979~1989とあるが、昆虫については「神戸の蝶」があるだけで、他は鳥、植物、地形についてのものである)。

この新・神戸の自然シリーズが引き続いて出版されることを望むものであり、昆虫についての出版を期待したい。 (T).

○ 自然環境研究所 淡路島の絶滅の恐れある野生生物(IV)

自然環境研究所特別出版物第5集 B5, 131p. (1998).

昆虫類、陸産貝類、爬虫類、哺乳類、鳥類、シダ植物、被子植物、植物群落、地形・地質に分けてそれらに属する種、地点などについて淡路島における状況を図入りで示されている。昆虫では12種が示されており、甲虫ではヒメボタル1種が入っている。

この出版物は、第一集の出版が1993年である。その後1995、1996年に出版されている。今回はその全4冊のチェックリストもついているし、産地の追加も入っている。 (T).

○ 赤松弘一 分・絵 ひょうご身近な自然発見記

神戸新聞総合出版センター刊 A5, 159p. (1998).

芦屋市立精道中学校、明石市立魚住東中学校の理科教諭として勤務されている著者が、六甲山麓、播磨平野の自然を対象に生徒向けの理科通信を書き始められたもの5年間分の中から、自然の絵も入れてまとめられたものである。自然発見であるから、動物・植物全般にわたるものであるが、昆虫については30項目について解説がつけられている。先生だけあって文中にユニークな解説がつけられており、思わず読んでしまった楽しい自然観察記である。 (T).

○ 相坂耕作(1998) 鳴く虫と民俗文化

赤穂市立海洋科学研究資料12. (A4, 41p. 赤穂市立海洋科学館刊)

1998年7月18日～31日の間、赤穂市立海洋科学館で"鳴く虫と民俗文化"展が開催された。それに合わせて相坂耕作氏が上記のごとき研究書を発表になった。

播磨地方の鳴く虫をリスト形式に解説され、鳴く虫の文化資料を解説しておられる。

カラー図版4ページ(表紙もカラー)と文中写真・図も入っていて、大変わかり易く楽しんで読むことができる。姫昆サロンニュースNo.130に紹介あったように、赤穂市立海洋科学館(07914-3-4192)にて定価550円にて販売してもらえるようである。(T).

県関係学会誌・同好会誌・連絡誌

(Ⅲ・1998 ～ Ⅸ・1998)

PARNASSIUS (淡路昆虫研究会々誌) No. 46(Ⅲ・1998)

のせ (大阪昆虫同好会連絡誌) Vol. 27, No. 3(Ⅲ・1998), No. 4, 5, 6(Ⅳ, Ⅴ・1998), No. 7(Ⅶ・1998), No. 8, 9(Ⅸ・1998)

ハーモニー (人と自然の博物館ニュース) No. 21(Ⅲ・1998), No. 22(Ⅶ・1998)

自然とともに (県生活文化部環境局環境政策課自然環境情報誌) 第41号(Ⅲ・1998)

エコひょうご (ひょうご環境創造協会) No. 7(春号)(Ⅳ・1998), No. 8(夏号)(Ⅵ・1998)

宝塚の自然 (宝塚自然に親しむ会々報) 第12号(Ⅲ・1998)

混虫ずかん (但馬むしの会連絡紙) No. 62(Ⅵ・1998), No. 63(Ⅷ・1998)

兵庫陸水生物 (兵庫陸水生物研究会) No. 49(Ⅵ・1998)

兵庫陸水生物ニュース (兵庫陸水生物研究会) No. 14(Ⅶ・1998)

姫昆サロンニュース (姫路昆虫同好会) No. 129(Ⅶ・1998), No. 130(Ⅶ・1998)

Nature and Human Activities (兵庫県立人と自然の博物館) No. 2(Sept. 1997)

人と自然 (兵庫県立人と自然の博物館) No. 8(Dec. 1997)

IRATSUME (但馬むしの会々誌) No. 22(Ⅷ・1998)

交 換 誌

すかしば (山陰むしの会々誌) No. 46(Ⅲ・1998)

いずも虫だより (山陰むしの会連絡誌) No. 78(Ⅳ・1998), No. 79(Ⅱ・1998)

LUCANUS WORLD (環境調査研究所) No. 7(Ⅳ・1998), No. 8(Ⅵ・1998), No. 9(Ⅶ・1998)

KURAKON (倉敷昆虫同好会) No. 42(Ⅳ・1998), No. 43(Ⅶ・1998)

富山科学文化センター研究報告第21号(1998)

いたち川自然環境調査報告(1995-97) (富山市科学文化センター)

富山県の蝶(Ⅰ) (富山科学文化センター)

すずむし (倉敷昆虫同好会) No. 133(Ⅵ・1998)

ゆらぎあ (鳥取昆虫同好会倉吉支部) No. 15(Ⅺ・1997)

IRATSUME (但馬むしの会機関誌) No. 22(Ⅸ・1998)

混蟲ずかん (但馬むしの会連絡誌) No. 63(Ⅸ・1998)

みちしるべ (岡山昆虫談話会々誌) No. 25(Ⅸ・1998)

会費納入についてのお願い

1999年度会費 3,000円

出費多端の折り、恐縮に存じますが、会費納入を年内に同封振替用紙御利用の上、お願い申し上げます。

お知らせ

きべりはむし総目次(1972~1997)の頒布について

"きべりはむし総目次(1972~1997)"若干遅くなりましたが、8月末にやっと出来上がりました。総ページ55p. のなかなかすっきりした出来上がりになっています。御注文いただいた方々には発送させて頂きましたが、ごく僅か余分がございます。御希望の方には一部送料とも¥1,500にてお送り致します。会費納入の際にあわせてお申し込みいただいても結構です(総目次希望と明記しておいて下さい)。

なお、残部僅かですので絶版になりましたらご容赦下さい。

「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」希望者に進呈

高橋寿郎

兵庫県産甲虫類に関する文献目録(1975)。

全上 改訂版(1981)。追加篇1(1984)。(B5, 活版72p.)

上記自刊本、もし御希望の方があれば進呈致します。1873~1983年と110年間の文献1,159篇をまとめています。

追加篇Ⅱは"きべりはむし第23巻第2号"に発表しておりまして、会員の皆様は御所有と思います。手許に若干残っておりますので、もし御希望なら送料その他として500円分の切手(50円か80円切手にて)をお送り下されば送らせて頂きます。

"きべりはむしに関する文献目録"(B5, 活版16p. 自刊)も一緒に進呈します。

(申し込みは高橋寿郎氏まで 〒652-0054 神戸市兵庫区氷室町1-44. TEL 078-521-0165)

編 集 後 記

今年は近畿以東の中部、東北日本が長雨、集中豪雨等で大きな被害を受け、10月半ばを過ぎて台風が上陸するという異常な気象に見舞われました。

さて、きべりはむし第26巻第2号ができましたのでお届けします。今回は早くから原稿が集まり、内容的にも大変豊富なものとなりました。兵庫県のオサムシは、比較的よく調査されており、これまでも多く発表されていますが、今回の高橋寿郎氏の記事はその集大成というべきものです。このような形のまとめはこれまで蝶類で見られる程度で、それ以外の昆虫についてはあまり行われていません。記録の集積がままならないためでもあるのですが、ある時点でのまとめをしておくことは今後研究される方にとって、過去に発表された文献を収集する手間と労力を省くことができ、大変便利で価値ある仕事だと思えます。

木下修一氏からは池田市のチョウとトンボについての観察記録を寄せていただきました。これまで本会では兵庫県の昆虫相の解明を主目的として活動してきましたが、そもそも兵庫県という区分は人為的なものであり、その境界付近では互いに共通する昆虫相を呈するはずで、したがって、他府県のデータであっても兵庫県との境界付近の記録は大いに参考になるところであり、記事の掲載に当たってはとくに「県境」にこだわらない編集方針をとりたいと考えております。

山口福男氏からはキベリハムシの大発生の様子やメスアカムラサキの発生など報告いただきましたが、こういったトビックスは日頃から観察眼を鍛えていればこそその業であると敬服する次第です。

八木 剛氏からは締切間際に興味深い内容の原稿が届きました。キリガ類の環境指標昆虫としての有効性について詳しく検証されています。単なる分布調査だけにとどまらず、こういった観点から昆虫を眺めることの意義深さを改めて感じます。

高橋寿郎氏著による「日本産コガネムシ類分類目録」は大変反響が大きく、昆虫専門の通販店でも扱っていただきましたが早々と絶版となりました。その後入手できた新情報もあるため記載方法を若干変更の上、全面改定による第2版を現在作成中です(来春刊行予定)。

次回のきべりはむしは5月発行です。原稿締切は1999年3月末日とします。揮って御投稿下さい。とくにトビックス大歓迎です。

(編集担当 近藤伸一・高島 昭)

きべりはむし 第26巻 第2号

1998年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652-0054 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方
振替 01170-3-26646

編集：近藤伸一・高島昭

原稿送付先 〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島昭宛

印刷：岩峰社・東京

目次

兵庫県産ソウムシに関する文献目録(2)	
兵庫県甲虫相資料・344	高橋寿郎 1
兵庫県のタマムシ(2)	
兵庫県甲虫相資料・346	高橋寿郎 8
きべりはむし第25巻2号における記録の訂正.....	稲畑憲昭 13
池田市北部のチョウ	
ー1997~1998年の記録ー	木下修一 14
池田市北部のトンボ	
ー1997~1998年の記録ー	木下修一 18
兵庫県におけるオサムシの分布(1)	
兵庫県甲虫相資料・347	高橋寿郎 23
キベリハムシを日本で一番初めに採集したのは ジョージ・ルイスではないのか?	高橋寿郎 31
兵庫県産メイガ科2種の記録	山本義丸 33
芦屋市における昆虫2種の記録.....	西 隆広 33
兵庫県産蝶類分布資料(13)ー減少著しい蝶4種の記録ー (ジ・イタダミ・ウラキ・ヒョウモン・ウラキ・ノスダ・ヒョウモン・ミヤマハ・セセリ)	広畑政巳・近藤伸一 34
兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科	
兵庫県産蛾類分布資料・9	高島 昭 44
相生市三濃山麓の蛾(2)	
兵庫県産蛾類分布資料・10	高島 昭 59
但馬で採集した注目すべき蛾	柴田 剛 64
神戸市再度山で大発生したキベリハムシについて	山口福男・近藤伸一 65
高取山にメスアカムササギが飛来.....	山口福男 66
六甲山系布引公園および鉢伏山のキリガ類相.....	八木 剛 67
燈火に飛来したウラクロシジミ.....	高島 昭 74
県関係文献紹介.....	75
県関係学会誌・同好会誌・連絡誌(Ⅲ・1998~Ⅴ・1998).....	76
交 換 誌	77
会員異動	77
お知らせ	78